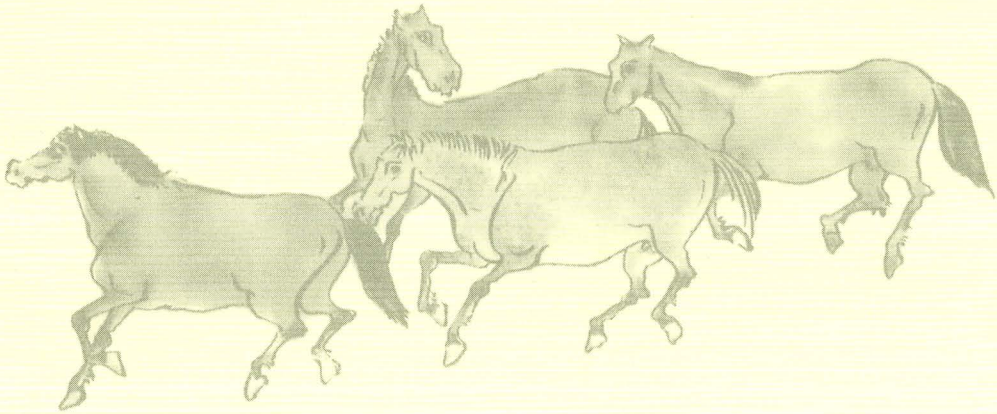
梅之木遺跡Ⅲ
永井原Ⅴ遺跡

県営畑地帯総合整備事業にともなう平安時代遺跡の発掘調査報告



2004

山梨県明野村教育委員会
峡北地域振興局農務部

梅之木遺跡Ⅲ
永井原Ⅴ遺跡

県営畑地帯総合整備事業にともなう平安時代遺跡の発掘調査報告

2004

山梨県明野村教育委員会
峡北地域振興局農務部

例　言

1　本書は、山梨県北巨摩郡明野村内で、県営畑地帯総合整備事業にともない発掘調査を実施した以下の２遺跡の発掘調査報告書である。

梅之木遺跡Ⅲ　明野村浅尾字梅之木　　調査期間　平成15年４月９日～同年６月30日

永井原Ⅴ遺跡　明野村上手字永井原　　調査期間　平成15年７月17日～平成16年１月14日

2　発掘調査は、明野地区県営畑地帯総合整備事業梅之木工区および永井原工区の施工にともない実施した。事業主体は、山梨県峡北地域振興局農務部である。

3　発掘調査は、明野村教育委員会が直営で実施した。調査組織は下記のとおりである。

調査主体　明野村教育委員会教育長　篠原勝男

調査担当　明野村教育委員会文化財調査員　大山祐喜

調査事務局　明野村教育委員会文化財担当

4　本書の執筆、編集は大山があたった。ただし、第３章第４節は小林謙一氏（総合研究大学院大学）ほかにご執筆いただいた。

5　本遺跡の出土品および調査に係る諸記録は明野村教育委員会が保管している。

6　本遺跡の調査および報告書作成に際し、次の方々にご指導、ご教示を賜った。記して感謝したい。

（五十音順、敬称略）

今福利恵（山梨県埋蔵文化財センター）、大隈清陽（山梨大学）、川尻秋生（早稲田大学）、末木健（山梨県埋蔵文化財センター）、傳田伊史（長野西高等学校）、野崎進（境川村教育委員会）、平川南（国立歴史民俗博物館）、原正人（駿台甲府中学校）、平野修（山梨文化財研究所）、福島邦男（長野県望月町教育委員会）、室伏徹（勝沼町教育委員会）、森原明廣（山梨県埋蔵文化財センター）、山口英男（東京大学史料編纂所）、八巻与志夫（山梨県埋蔵文化財センター）、山下孝司（韮崎市教育委員会）

7　調査参加者（五十音順、敬称略）

秋山高之助、井手研二、伊東加代子、井上町子、長田あい子、長田和也、柏木恵美、数野久次、片山和江、兼松章子、上村ゆきえ、河手寿子、輿水和彦、輿水万世子、清水一也、清水貞子、清水さゆり、清水ヤス子、筒井つや子、筒井菜津子、仲澤千代美、西川優子、野田俊夫、長谷川規愛、福田秀樹、藤原和美、藤原喜美子、古田凡、水上勝美、三井喜満、三井つや子、三井民子、皆川禮子、宮川昌蔵、守屋真弓、吉村光江

凡　例

1　報告書中の地図は、国土地理院発行２万５千分の１地形図「若神子」「韮崎」、山梨県峡北地域振興局農務部「梅之木工区地形現況平面図」、「永井原工区地形現況平面図」、明野村役場地籍集成図を使用した。

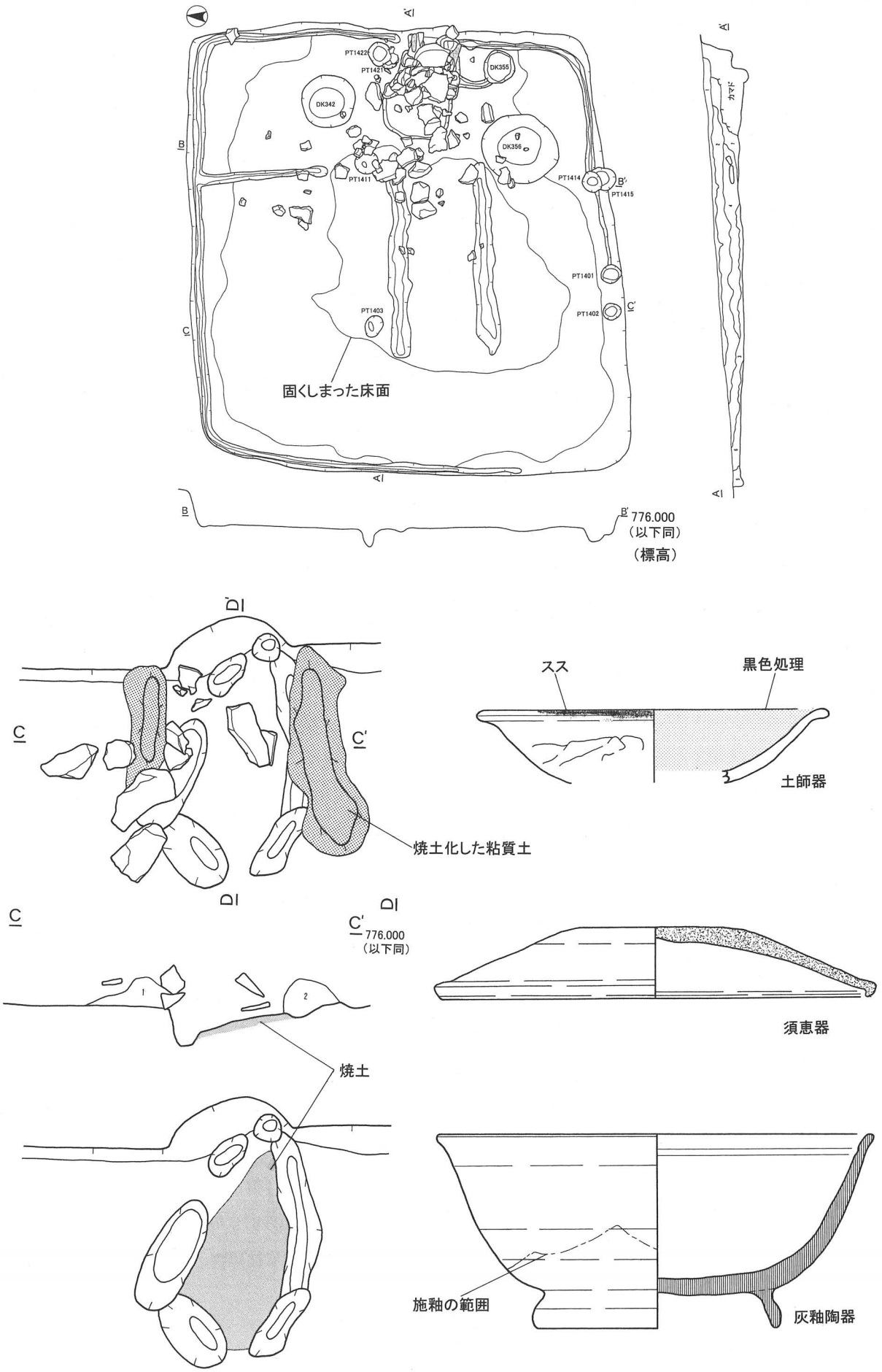
2　平安時代土器の時期は、『宮ノ前遺跡』韮崎市教育委員会1992年に拠った。

3　図版および観察表中の遺構覆土色および土器胎土色は、『新版標準土色帳』財団法人日本色彩研究所に拠った。

4　梅之木遺跡Ⅲの遺構番号は『梅之木遺跡Ⅱ』明野村教育委員会2002年から引き継いでいる。

5　本文および実測図中の略号「PH」は平安時代の竪穴住居、「HO」は掘立柱建物、「PT」はピット、「DK」は土坑を意味する。

6　図版中の網掛部等の意味するところは以下のとおりである。


PT1422
PT1421
DK342
DK355
DK356
PT1411
PT1414
PT1415
PT1401
PT1402
PT1403
固くしまった床面
カマド
776.000
（以下同）
（標高）
ススス
黒色処理
土師器
焼土化した粘質土
776.000
（以下同）
須恵器
焼土
施釉の範囲
灰釉陶器

本文目次

例言・凡例

梅之木遺跡Ⅲ

第１章　調査に至る経緯……3
　第１節　調査に至る経緯と調査区の設定……3
　第２節　調査の経緯……3
　第３節　遺跡の概要……4

第２章　遺跡周辺の環境……5
　第１節　遺跡周辺の地理環境……5
　第２節　遺跡周辺の歴史環境……5

第３章　平安時代の遺構と遺物……12
　第１節　竪穴住居と出土遺物……12
　第２節　掘立柱建物……17
　第３節　遺構・遺物観察表……18
　第４節　山梨県明野村梅之木遺跡出土土器付着物の^{14}C年代測定
　　（小林謙一・今村峯雄・坂本　稔・陳　健立）……61

梅之木遺跡Ⅰ出土墨書・刻書土器一覧……64

永井原Ⅴ遺跡

第１章　調査に至る経緯……69
　第１節　調査に至る経緯と調査区の設定……69
　第２節　調査の経緯……69
　第３節　遺跡の概要……70

第２章　遺跡周辺の環境……70
　第１節　遺跡周辺の地理環境……70
　第２節　遺跡周辺の歴史環境……70

第３章　検出された遺構……75
　第１節　溝……75

表目次

第１表　遺跡地名表……9
第２表　平安時代住居面積・主軸方向一覧　……19
第３表　掘立柱建物面積・柱間寸法一覧　……19
第４表　土坑・ピット一覧　……20
第５表　平安時代の土器・土製品一覧　……22
第６表　金属製品一覧……24
第７表　石器・石製品一覧　……24
第８表　梅之木遺跡Ⅰ墨書・刻書土器一覧　……64

図版目次

第１図　土木工事の範囲と調査の範囲……6
第２図　調査範囲と周辺の地形……7
第３図　遺跡全体図……8
第４図　周辺の遺跡分布図……10
第５図　遺構配置図……11
第６図　122号住居　……25
第７図　122号住居カマド　……26
第８図　328号土坑　122号住居出土遺物……27
第９図　122号住居出土遺物　……28
第10図　123号住居　123号住居カマド……29
第11図　123号住居カマド　123号住居出土遺物
124号住居　……30
第12図　124号住居出土遺物　……31
第13図　125号住居　125号住居カマド……32
第14図　125号住居カマド　125号住居……33
第15図　367～369号土坑　125号住居出土遺物　……34
第16図　125号住居および出土遺物　……35
第17図　125号住居出土遺物　……36
第18図　125号住居出土遺物　……37
第19図　126号住居および出土遺物　……38
第20図　126号住居カマド　336号土坑
126号住居出土遺物　……39
第21図　127号住居　……40
第22図　127号住居カマド　127号住居出土遺物……41
第23図　127号住居出土遺物　……42
第24図　127号住居出土遺物　……43
第25図　128号住居　128号住居カマド
128号住居出土遺物　……44
第26図　129号住居　……45
第27図　129号住居カマド　329号土坑……46
第28図　340号土坑　129号住居出土遺物……47
第29図　130号住居　……48
第30図　130号住居カマド　130号住居出土遺物……49
第31図　131号住居　131号住居カマド
131号住居出土遺物　……50
第32図　132号住居　……51
第33図　132号住居　……52
第34図　132号住居カマド　……53
第35図　132号住居カマド　132号住居出土遺物……54
第36図　132号住居出土遺物　……55
第37図　133号住居　カマド　1416号ピット
133号住居出土遺物　……56
第38図　134号住居　……57
第39図　134号住居カマド　……58
第40図　134号住居出土遺物　……59
第41図　掘立柱建物……60
第42図　試料採取遺物『梅之木遺跡Ⅱ』より転載……63
第43図　土木工事の範囲と試掘の位置（■は試掘坑）…71
第44図　調査範囲と周辺の地形（□は試掘溝）……72
第45図　遺跡全体図……73
第46図　溝　１～６セクション図……76
第47図　溝　７～12セクション・エレベーション図……77
第48図　溝　13～17セクション・エレベーション図……78
第49図　溝　18～24セクション・エレベーション図……79
第50図　溝　25～31セクション・エレベーション図……80
第51図　溝　32～38セクション・エレベーション図……81
第52図　溝　39～43セクション・エレベーション図……82

写真図版目次

写真図版１　梅之木遺跡縄文時代遺構検出状況
122号住居・カマド・123号住居・124
号住居……83

写真図版２　125号住居焼土・炭化材検出状況
125号住居炭化材検出状況・125号住
居・カマド・完掘 ……84

写真図版３　126号住居・カマド
127号住居・カマド・完掘……85

写真図版４　128号住居・129号住居
129号住居カマド・340号土坑・129号
住居完掘……86

写真図版５　130号住居・カマド・カマド完掘
131号住居・カマド・完掘……87

写真図版６　132号住居
カマド検出状況・カマド・132号住居
完掘……88

写真図版７　133号住居・1416号ピット・134号住居
134号住居カマド・134号住居完掘・
28号掘立柱建物・29号掘立柱建物……89

写真図版８　おもな出土品・おもな金属製品
^{14}C年代測定試料 ……90

写真図版９　永井原Ｖ遺跡全景
溝の屈折部……91

写真図版10　土橋
溝・埋土堆積状況……92

梅之木遺跡Ⅲ

第１章　調査に至る経緯

第１節　調査に至る経緯と調査区の設定

梅之木遺跡は、すでに縄文時代の埋蔵文化財包蔵地として周知されていた。そのため山梨県農務部および峡北土地改良事務所（当時）が明野村浅尾字梅之木地内で計画した明野地区県営畑地帯総合整備事業の施工に先立ち、明野村教育委員会では２回の埋蔵文化財所在確認調査を地中レーダー探査と試掘調査を併用して実施した。平成12年10月１日より平成13年３月30日には茅ヶ岳広域農道以西の平安時代集落跡37,600㎡を対象に、平成14年５月14日より平成15年３月31日には茅ヶ岳広域農道以東の平安時代集落22,500㎡を対象に発掘調査が実施された。詳細は『梅之木遺跡Ⅰ』（明野村教育委員会2001年）・『梅之木遺跡Ⅱ』（明野村教育委員会2003年）を参照されたい。

本書で報告する発掘調査は、明野村教育委員会が峡北地域振興局農務部（峡北土地改良事務所から改組）と調査経費負担協定を締結して、平成15年４月９日より６月30日まで、茅ヶ岳広域農道以東の縄文時代および平安時代の集落跡18,500㎡を対象に実施された。対象となった発掘調査の区域は、第２図に示した。調査区の設定は、事前の所在確認調査により遺構が分布することが確認された範囲とした。

第２節　調査の経緯

発掘調査は、平成15年４月９日から開始した。遺構の調査は５月14日から開始し、縄文時代の遺構は150軒以上の竪穴住居が確認され、調査区内に環状集落のほぼ全体が検出されるという山梨県内でも貴重な遺跡であることが明らかになった(写真図版１)。そこで峡北地域振興局農務部と明野村教育委員会は遺跡の取り扱いについて協議し、既に調査が進展していた平安時代の遺構のみは調査を完了することとし、縄文時代の遺構は現状保存を図るべく、土地改良事業を当面延期して、遺跡の内容を確認する調査を実施したうえで、遺跡の取り扱いについて、両者で改めて調整協議することとした。従って本書では平安時代の遺構と出土品のみを取り扱うこととする。

出土遺物の取り上げや遺構全体図の作成には３級基準点６点の測量を委託し、光波測量機を用いて記録した。６月30日、最後の遺構の撮影と測量をもって調査を完了した。遺構の調査終了後埋め戻しをして縄文時代の遺構は現状保存にむけて協議中である(平成16年３月31日現在)。整理作業および本書の編集作業は平成15年９月25日から開始した。金属製品は保存処理作業を委託することとした。平成16年３月18日に原稿を入稿し編集作業を終了した。

本調査にかかわる事務手続きは以下のとおりである。

平成12年度

埋蔵文化財発掘調査に関する協定書締結（平成12年10月１日）

周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）（平成12年12月27日付教学文３第12－156号）

埋蔵文化財発掘調査の報告（平成12年10月５日付明教文発第31－２号）

埋蔵物発見届（平成13年４月９日）

埋蔵文化財保管証（平成13年４月９日付明教文発第33号）

埋蔵文化財調査終了報告（平成13年４月９日付明教文発第39号）

平成14年度

埋蔵文化財発掘調査に関する協定書締結（平成14年４月１日）

埋蔵文化財発掘の通知（平成14年５月９日付峡北農６第５－５号）

埋蔵文化財着手報告（平成14年５月24日付明教文発第26号）

周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）（平成14年６月６日付教学文３第５－60号）
埋蔵物発見届（平成15年２月17日付明教文発第15号）
埋蔵文化財保管証（平成15年２月17日付明教文発第16号）
埋蔵文化財調査終了報告（平成15年２月17日付明教文発第18号）
平成15年度
埋蔵文化財発掘調査に関する協定書締結（平成15年４月１日）
埋蔵文化財発掘の通知（平成15年４月１日付峡北農６第４－31号）
埋蔵文化財発掘調査の報告（平成15年９月24日付明教文発第93－２号）
埋蔵文化財保管証（平成15年12月25日付明教文発第124号）
埋蔵物発見届（平成15年12月25日付明教文発第125号）
埋蔵文化財調査終了報告（平成15年12月26日付明教文発125－２号）

本調査にかかわる調査経費の負担は以下のとおりである。

平成12年度

調査経費総額	50,690,806円
山梨県農政部負担金75%	37,875,000円
明野村役場建設課負担金11.5%	5,807,000円
文化庁補助金6.75%	3,400,000円
山梨県教育委員会補助金3.375%	1,700,000円
明野村教育委員会負担金3.375%	1,908,806円

平成14年度

調査経費総額	24,021,493円
山梨県農政部負担金72.5%	18,000,000円
明野村役場建設課負担金14%	2,760,000円
文化庁補助金6.75%	1,620,000円
山梨県教育委員会補助金3.375%	810,000円
明野村教育委員会負担金3.375%	831,493円

平成15年度

調査経費総額	13,301,927円
山梨県農政部負担金	9,750,000円
明野村役場建設課負担金	1,495,000円
文化庁補助金	877,000円
山梨県教育委員会補助金	438,000円
明野村教育委員会負担金	741,927円

第３節　遺跡の概要

発掘調査において検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居150軒以上、土坑400基以上、平安時代の竪穴住居13軒、掘立柱建物４棟、土坑２基、ピット４基である。土坑、ピットはそのほとんどが平安時代に属するものと思われる。出土した遺物は、縄文時代の土器、石器、平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、金属製品、石製品で

ある。

第２章　遺跡周辺の環境

第１節　遺跡周辺の地理環境

明野村は金ヶ岳と茅ヶ岳の西麓斜面に立地している。北は鰻沢川で須玉町に接し、正楽寺川の深い谷と正楽寺川の南の尾根筋により韮崎市穂坂町日之城、三之蔵地区から分けられている。鰻沢川から正楽寺川までの山麓面積はおよそ22㎢で、湯沢川、栃沢川によりさらに分断されている。金ヶ岳と茅ヶ岳の山麓は東に急峻な岩場を形成し亀沢川に落ち込み、西は緩やかな斜面の丘陵地と河岸段丘を形成して塩川に至る。河岸段丘は須玉町仁田平から韮崎市穂坂町にかけてその幅や面数を変えながら南北に延び、丘陵部は両山に発する小河川や尾根筋に分断され、現在の明野村と韮崎市穂坂町の間で広大な緩斜面を形成している。

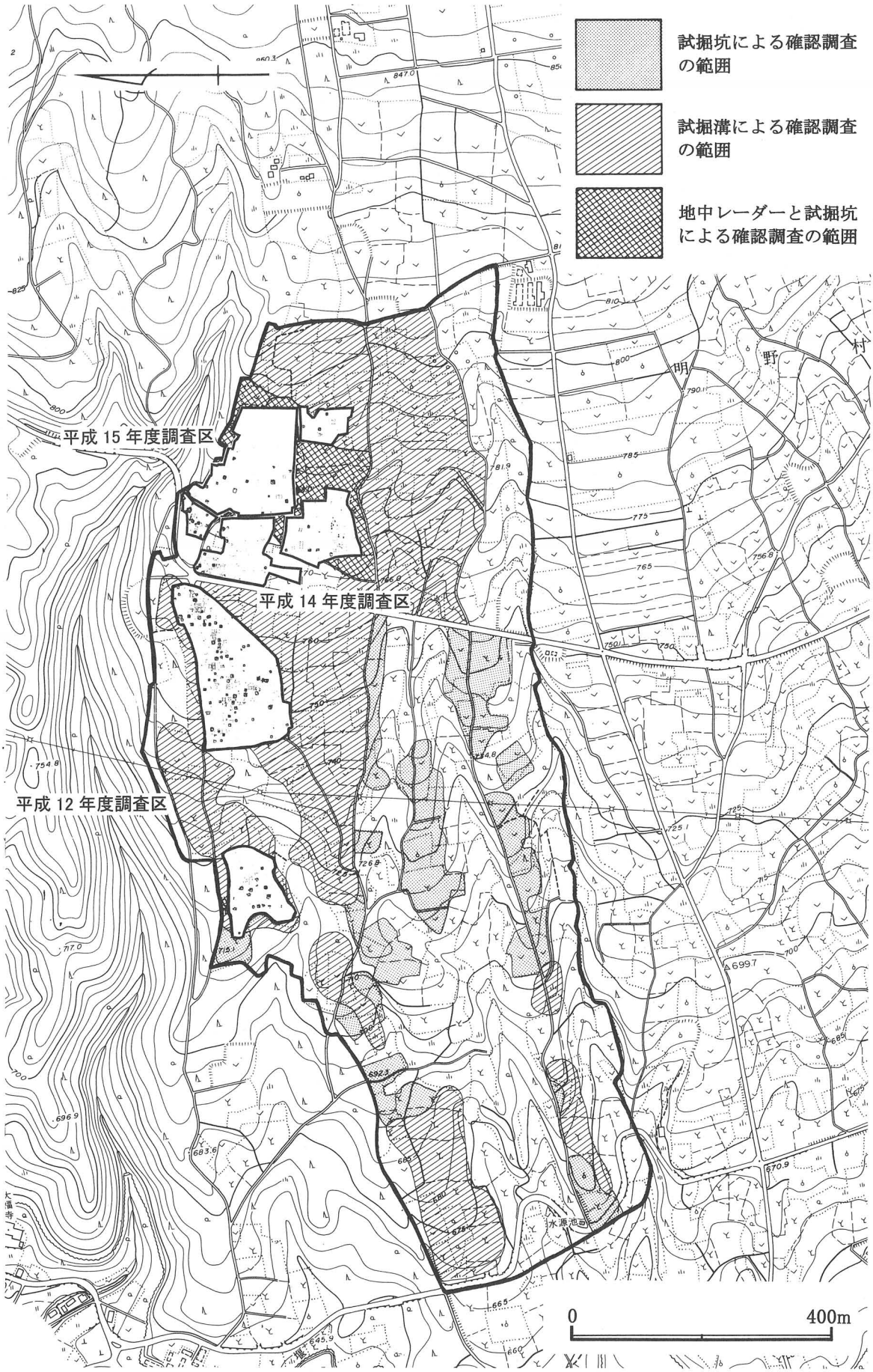
遺跡は湯沢川の南に面する尾根筋、標高760ｍから790ｍ付近に位置する。遺跡周辺の土地利用の現況はほぼ全面が畑地で、荒廃農地にはカヤが茂り湯沢川沿いには松林や雑木林が見られる。

第２節　遺跡周辺の歴史環境

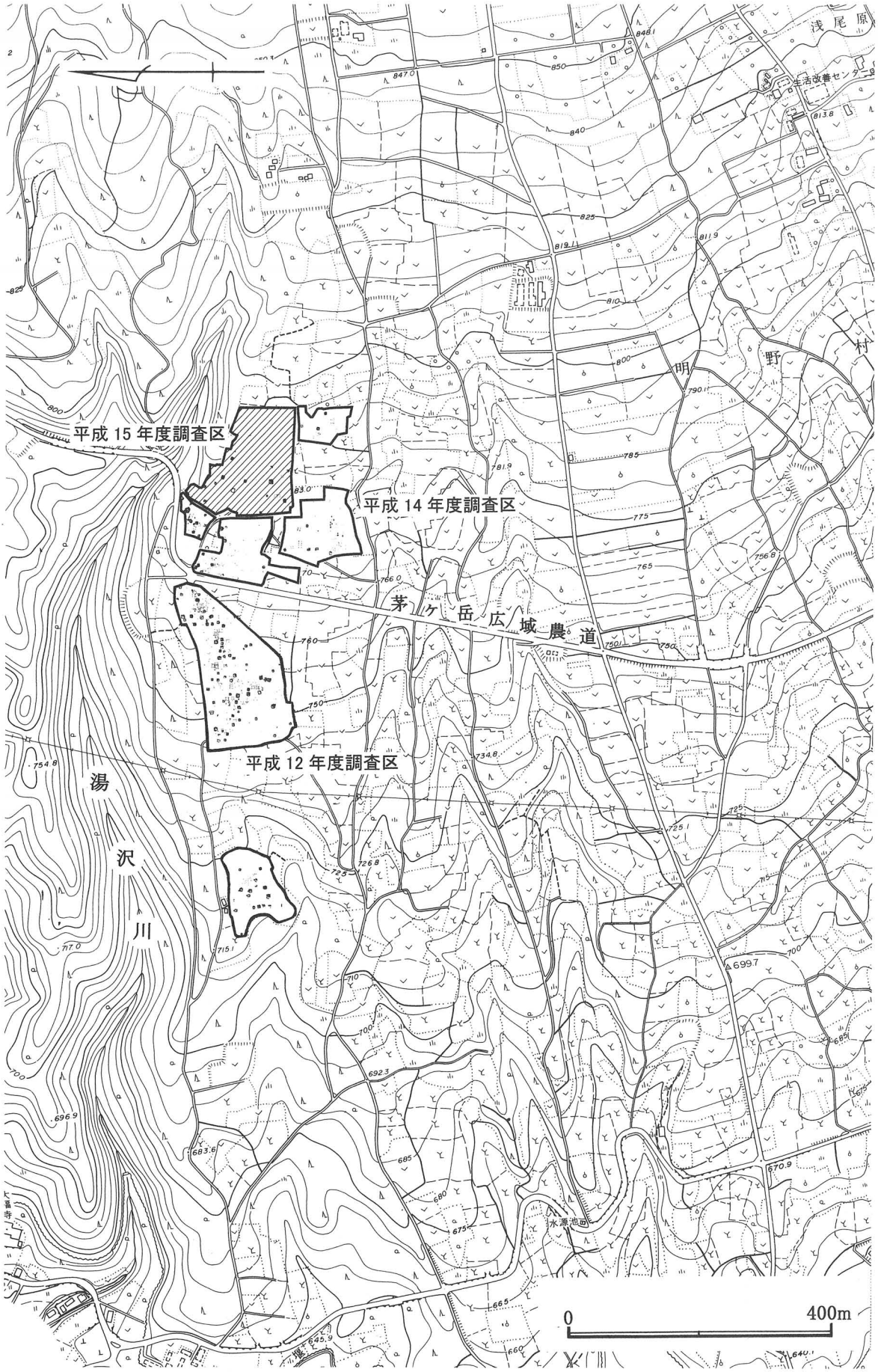
ここでは本遺跡を特徴付ける平安時代の歴史環境を概観してみたい。

平安時代になると茅ヶ岳山麓の集落遺跡が急増する。本遺跡より西２㎞には寺前遺跡があり、９世紀後半から11世紀代の竪穴住居100軒以上と掘立柱建物約20棟が調査されている。本遺跡とともに茅ヶ岳西麓では規模の大きい集落跡で、存続期間も重複するが本遺跡では出土量の少ない灰釉陶器、施釉陶器が多数出土する一方、墨書土器の出土量においては全く逆の状況であるなど、両者の性格の違いと関連性が注目される。

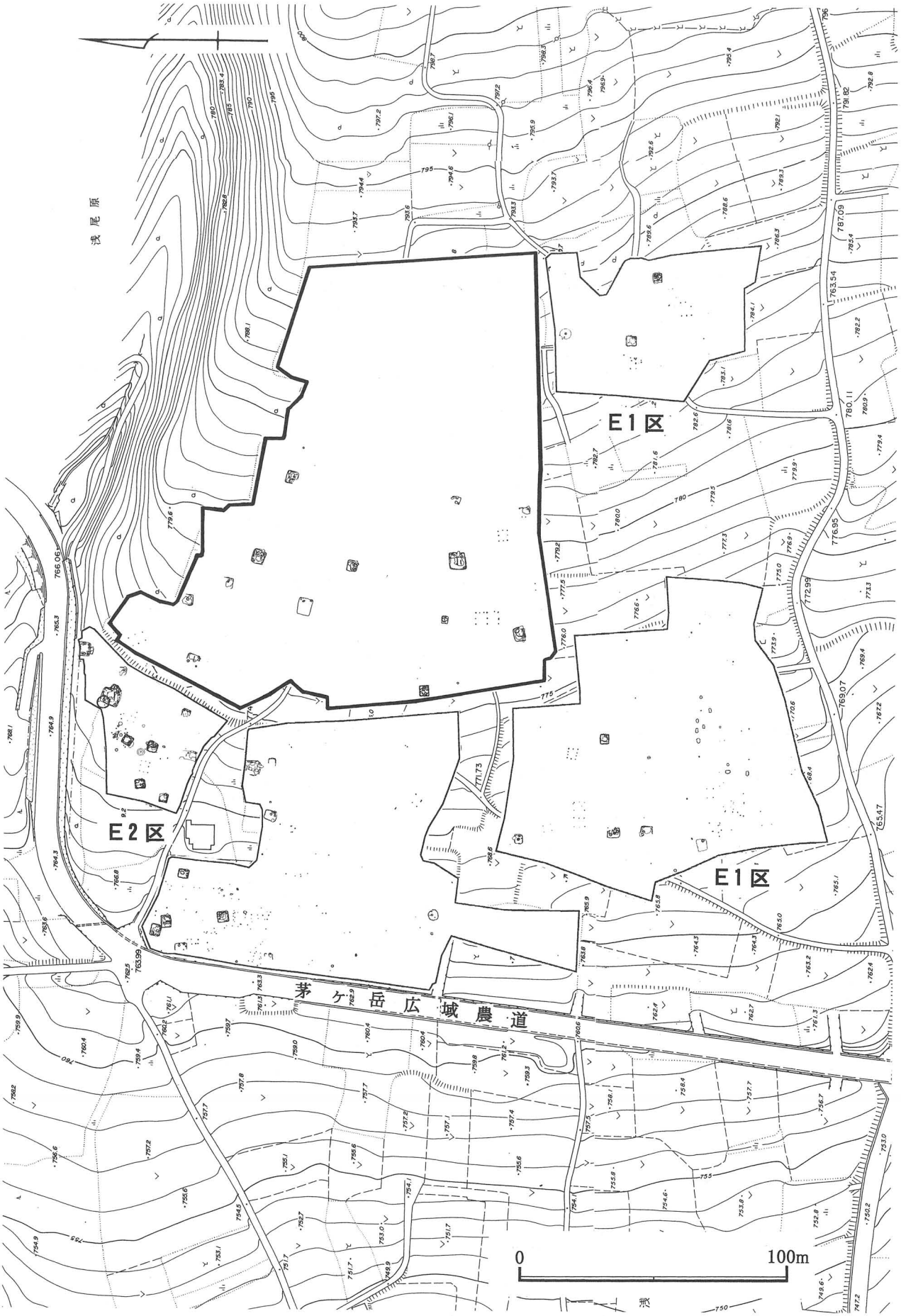
古代の巨摩郡を特徴付けるのが御牧である。八ヶ岳南麓、釜無川右岸、茅ヶ岳山麓に設置された柏前牧、真衣牧、穂坂牧は平安時代のこの地域の開発と関連付けられるが、武川村宮間田遺跡で「牧」と墨書された須恵器破片が出土した以外には、牧を具体的に裏付ける資料に乏しい。官衙的性格が強く牧監政庁跡ともいわれる高根町湯沢遺跡は本遺跡から西へ４㎞に位置している。明野村小笠原周辺に置かれたとされる冷泉院領小笠原牧は10世紀には文献に登場し、貢馬を行っていたことが知られる。本遺跡より南２㎞にあり本書で報告する永井原Ｖ遺跡はこの小笠原牧の関連施設と考えられる。



第１図　土木工事の範囲と調査の範囲



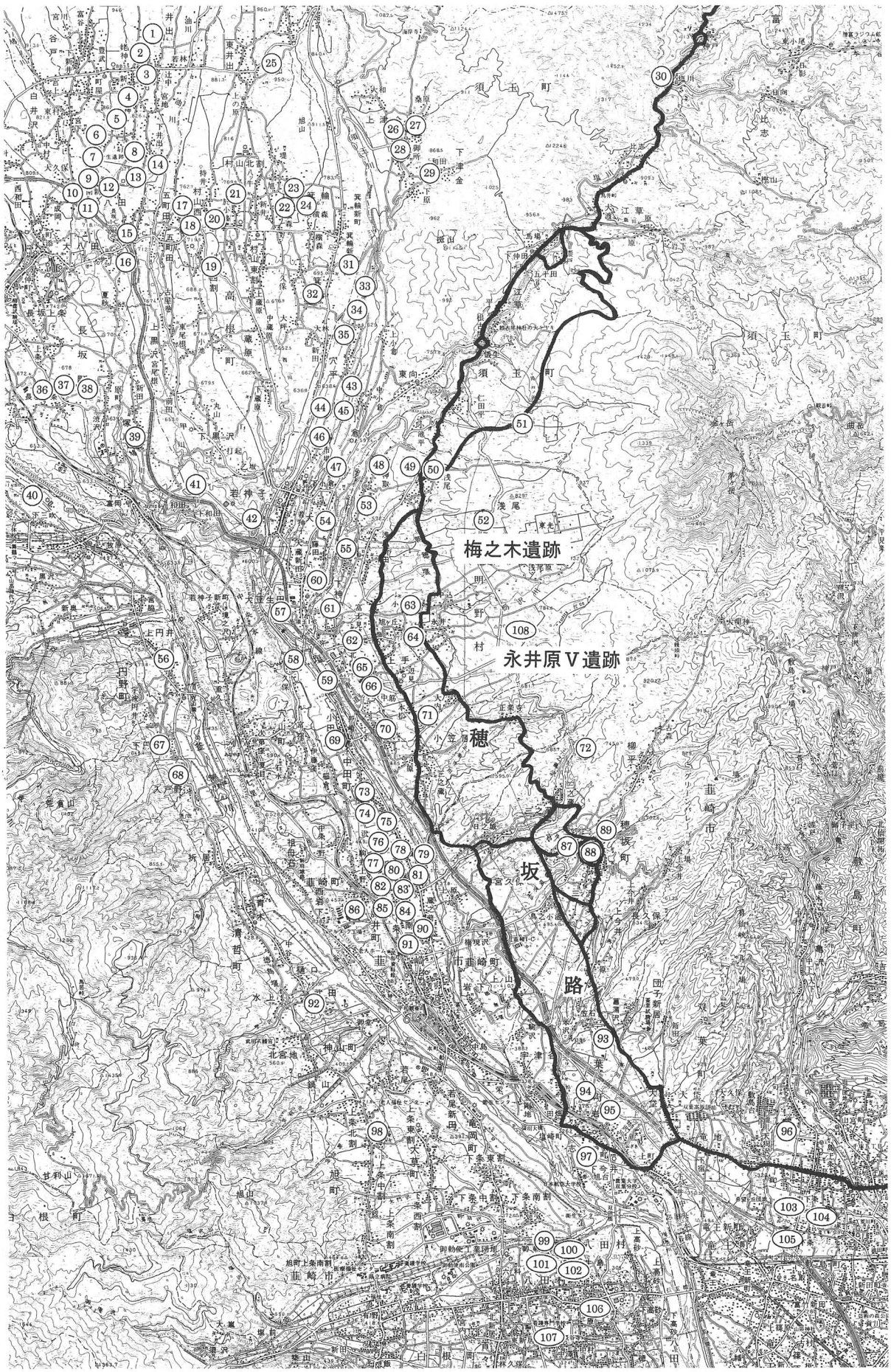
第 2 図　調査範囲と周辺の地形



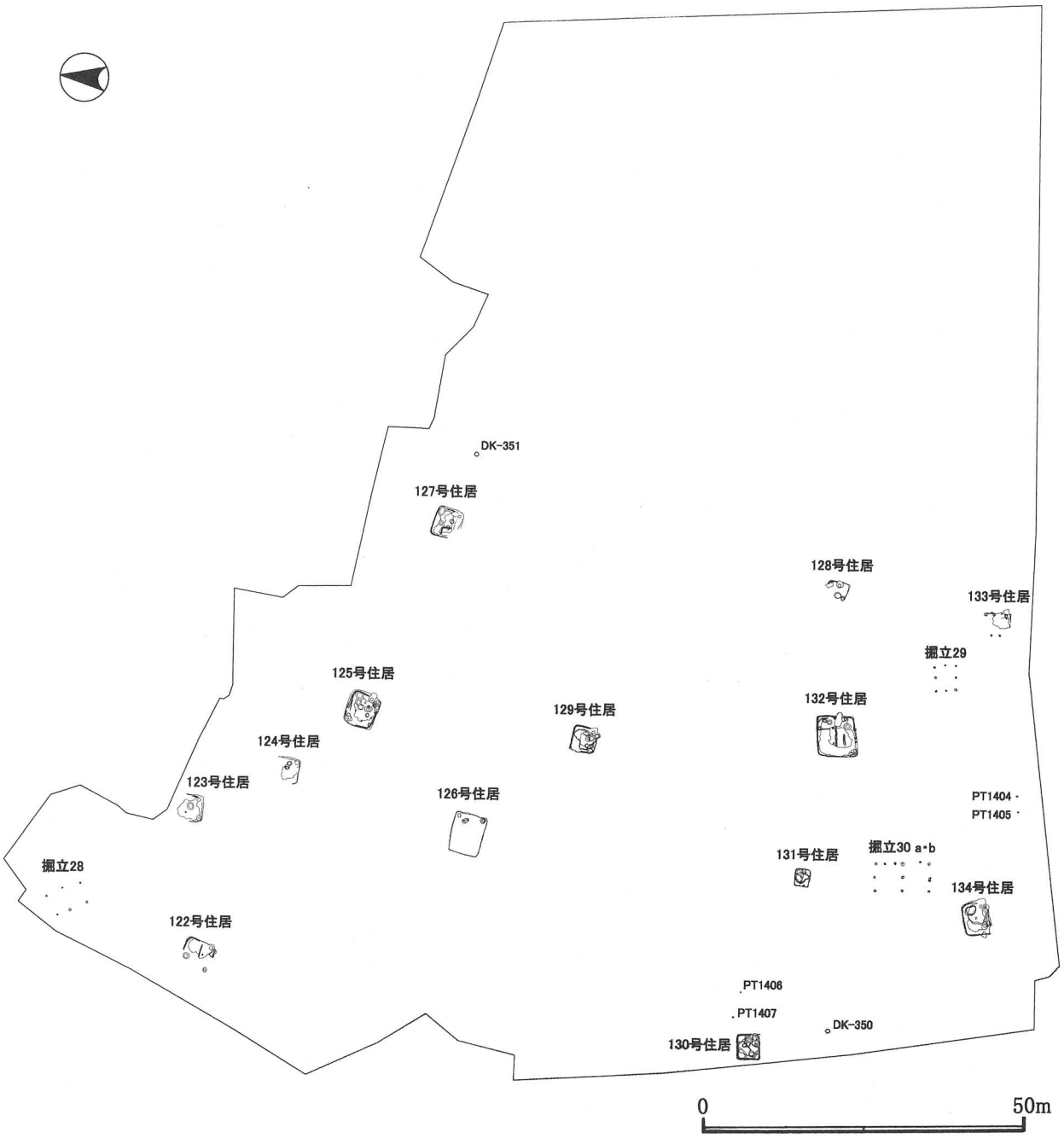
第3図　遺跡全体図

第１表　遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時期	主な遺構	特記事項
1	東原	大泉村	９世紀後半～10世紀末	住居12軒、鍛冶遺構１基	
2	東姥神B	大泉村	９世紀後半～10世紀後半	住居８軒、鍛冶遺構	「安曇」墨書
3	中村	大泉村	９世紀～10世紀	住居７軒	銅製帯金具出土、東姥神と一体の遺跡か
4	天神	大泉村	９世紀後半	住居３軒	
5	城下	大泉村	10世紀～11世紀前半	住居26軒、掘立柱建物	丸鞆、緑釉陶器、耳皿、土錘
6	豆生田第３	大泉村	９世紀前半～10世紀後半	住居８軒、掘立柱建物	
7	金生	大泉村	弥生時代	住居１軒	氷Ⅰ式土器、条痕文土器出土
			９世紀前半～10世紀後半	住居６軒	
8	寺所	大泉村	弥生時代	土坑３	条痕文期の土坑
			９世紀末～10世紀末	住居44軒、掘立柱建物３棟	墨書土器多数出土、耳皿
9	大八田・原田	長坂町	９世紀後半～10世紀後半	住居８軒	
10	南新居西	長坂町	10世紀	住居６軒	
11	小和田館跡	長坂町	10世紀前半	住居９軒、掘立柱建物	
12	深草	長坂町	９世紀後半	住居１軒	
13	木ノ下・大坪	大泉村	９世紀後半～10世紀後半	住居８軒、堀立柱建物２棟	４間×４間総柱建物あり
14	原田	大泉村	９世紀後半	住居５軒、堀立柱建物１棟	
15	柳坪	長坂町	弥生時代	住居１軒	水神平系土器群一括で出土
			９世紀後半～10世紀末	住居38軒	革金具、巡方、木製品
16	石原田北	長坂町	10世紀中頃～12世紀初頭	住居19軒	
17	西原北	高根町	９世紀後半	住居２軒	
18	西原	高根町	９世紀前半～10世紀後半	住居２軒	
19	高内	高根町	９世紀後半	住居７軒	
20	藤林寺跡	高根町	９世紀後半	住居３軒	1間×9間の大規模な掘立柱建物1棟あり
21	八ッ牛･八ッ牛北	高根町	11世紀	住居４軒、掘立柱建物２棟	
22	青木北	高根町	９世紀中頃～10世紀末	住居12軒、掘立柱建物５棟	礎石を有する竪穴住居あり
23	東久保	高根町	９世紀中頃～10世紀末	住居33軒、掘立柱建物７棟	１間×４間、２間×４間の掘立柱建物
24	社口	高根町	９世紀中頃～10世紀末	住居14軒	鍛冶関連土坑あり
25	薬師堂	高根町	９世紀前半～９世紀後半	住居６軒	八ヶ岳南麓では古い時期の集落
26	原の前	須玉町	９世紀～10世紀？	住居１軒	
27	桑原南	須玉町	９世紀末～10世紀後半	住居７軒	大型掘立柱建物は平安時代の遺構か?
28	津金御所前	須玉町	９世紀～10世紀？	住居１軒	焼失住居
29	御屋敷西	須玉町	９世紀～10世紀？	住居２軒、掘立柱建物２棟	
30	塩川	須玉町	９世紀後半～10世紀末	住居５軒	標高840mに立地
31	川又坂上	高根町	９世紀前半	住居１軒	古墳時代中期の遺構あり
32	海道前	高根町	９世紀後半	住居３軒	
33	川又南	須玉町		住居５軒	
34	西川	須玉町	９世紀後半～10世紀後半	住居14軒	鉄滓
35	夏目原	須玉町		住居２軒	
36	紺屋	長坂町	９世紀後半～10世紀後半	住居10軒	墨書「南」、「東」、「長」、鉄滓
37	龍角西	長坂町	９世紀末～10世紀後半	住居７軒	長坂町教育委員会の教示による
38	龍角	長坂町	10世紀前半	住居１軒	長坂町教育委員会の教示による
39	宮久保	長坂町	９世紀後半～10世紀初頭	住居４軒、堀立柱建物１棟	
40	宮間田	武川村	９世紀前半～11世紀	住居74軒、堀立柱建物45棟	墨書「牧」、鍛冶遺構、帯金具
41	湯沢	高根町	９世紀前半～10世紀後半	住居27軒、堀立柱建物８棟	布目瓦、金銅製鈴、牧監政庁説あり
42	大小久保	須玉町	９世紀後半	住居4軒、土師器焼成遺構8基	ロクロ整形の内黒坏の生産址
43	飯米	須玉町		住居７軒	
44	蟹坂	須玉町		住居２軒	
45	蟹坂東	須玉町		住居２軒	
46	宮田・笠張	須玉町	９世紀後半	住居２軒	
47	中尾城	須玉町	10世紀後半	住居２軒	
48	諏訪原	明野村		住居１軒	未報告
49	中村道祖神	明野村	弥生時代	土坑１基	条痕文期の土坑
50	宮後	明野村	９世紀後半～10世紀後半	住居21軒、掘立柱建物4棟？	周辺にも同時期の遺跡あり
51	上ノ原	須玉町	弥生時代	土坑４基	条痕文期の土坑
			９世紀中頃～10世紀後半	住居72軒、掘立柱建物10棟	ムギ類炭化種実を検出、「隆平永寶」
52	梅ノ木	明野村	９世紀後半～10世紀後半	住居121軒、掘立柱建物32棟	馬歯骨、焼きゴテ
53	寺前	明野村	９世紀後半～12世紀	住居約90軒	鉄製鈴、火葬施設、火葬墓、鍛冶遺構
54	滝下	須玉町	９世紀後半～12世紀	住居７軒	
55	大日川原	明野村	９世紀後半	住居１軒	
56	石ノ坪東	韮崎市	弥生時代	土坑17基	条痕文期の土坑
57	大豆生田	須玉町	８世紀～11世紀	石列、礎石建物、住居９軒	布目瓦、緑釉陶器、羽口、「西」墨書
58	上本田	韮崎市	８世紀～10世紀後半	住居11軒、掘立柱建物	
59	下反保	明野村	弥生時代	土坑１基	条痕文期の土坑
60	腰巻・腰巻北	須玉町	８世紀～10世紀後半	住居20軒、掘立柱建物２棟	古墳時代後期から継続、「大徳」墨書あり
61	神取	明野村	９世紀前半～10世紀後半	住居12軒	「信」、「？」墨書
62	村之内Ⅱ・Ⅲ	明野村	９世紀後半～12世紀	住居24軒	鍛冶遺構
63	普門寺	明野村	９世紀前半	住居１軒	
64	高台・中谷井	明野村	９世紀後半～10世紀末	住居12軒	緑釉陶器
65	屋敷添	明野村	９世紀後半～10世紀後半	住居23軒	駿河地方の土師器坏類似品
66	屋敷添第２	明野村	９世紀後半～10世紀初頭	住居２軒	
67	水無	韮崎市	10世紀～11世紀	住居２軒	八稜鏡出土
68	半縄田	韮崎市	９世紀後半～11世紀	住居７軒、掘立柱建物１棟	漆紙片、瓦塔、土錘、羽口、鍛冶遺構
69	中道	韮崎市	弥生時代	遺構外	氷Ⅰ式土器、条痕文土器出土
			11世紀	住居４軒	
70	深山田	明野村	８世紀～10世紀後半	住居４軒	茅ヶ岳西麓唯一の８世紀代の集落跡
71	下大内	明野村	弥生時代	土坑１基	条痕文期の土坑
			９世紀後半～11世紀	住居12軒	「延喜通寶」、「女」墨書多数
72	日露戦役記念桑園遺跡	韮崎市	平安時代		土師器採集
73	中田小学校	韮崎市	８世紀～12世紀	住居22軒、掘立柱建物２棟	「葛井」墨書、金銅製鈴２点
74	前田	韮崎市	８世紀～12世紀	住居10軒	羽口、鉄製品多数
75	立石	韮崎市	11世紀～12世紀	住居３軒	羽口
76	宮ノ前第２	韮崎市	９世紀	住居10軒、掘立柱建物10棟	集落内寺院、瓦、瓦塔
77	宮ノ前	韮崎市	弥生時代前期	水田１面	甕から稲のプラントオパール検出
			８世紀～11世紀	住居417軒、堀立柱建物54棟	奈良三彩、帯金具、鏡、「寺」墨書
78	宮ノ前第５	韮崎市	８世紀～11世紀	住居12軒、堀立柱建物１棟	漆紙、宮ノ前遺跡の厨房施設か
79	駒井	韮崎市	８世紀後半～10世紀	住居１軒	８世紀後半の住居、円筒状土製品
80	北後田	韮崎市	８世紀～10世紀後半	住居66軒、堀立柱建物４棟	平安時代の住居41軒
81	宮ノ前第３	韮崎市	８世紀～９世紀後半	住居６軒、掘立柱建物２棟	鍛冶遺構、円筒状土製品、鉄製轡？
82	後田	韮崎市	８世紀～10世紀後半	住居12軒、掘立柱建物１棟	羽口
83	堂の前	韮崎市	８世紀～９世紀後半	住居16軒	
84	後田堂ノ前	韮崎市	８世紀～11世紀	住居４軒	９世紀の住居１軒、11世紀の住居１軒
85	三宮地	韮崎市	10世紀	住居15軒、堀立柱建物５棟	巡方、灰釉陶器製風字硯
86	坂井南	韮崎市	10世紀	住居７軒	
87	横手遺跡	韮崎市	平安時代		土師器採集
88	飯米場遺跡	韮崎市	平安時代		土師器採集
89	倭文遺跡	韮崎市	平安時代		土師器採集
90	下横屋	韮崎市	平安時代	住居２軒	
91	北下条	韮崎市	８世紀～９世紀	住居９軒	
92	新田	韮崎市	９世紀後半～12世紀	住居６軒	「仁」、呪文墨書
93	西原B遺跡	双葉町	平安時代		土師器採集
94	藤塚B遺跡	双葉町	平安時代		土師器採集
95	山の神遺跡	双葉町	平安時代		土師器採集
96	原腰	敷島町	11世紀～12世紀	住居14軒	
97	間々下遺跡	双葉町	平安時代		土師器採集
98	大輪寺東	韮崎市	９世紀前半	住居２軒	
99	大塚	八田村	８世紀～11世紀	住居33軒	椀形鉄滓
100	石橋北屋敷	八田村	８世紀～12世紀後半	住居13軒	鉄滓、鍛冶遺構、13世紀代の住居もあり
101	立石下	八田村	９世紀前半～後半	住居13軒、堀立柱建物５棟	溝、奈良三彩
102	野牛島・大塚	八田村	８世紀～９世紀後半	住居９軒	
103	御岳田	敷島町	10世紀後半～11世紀	住居３軒	
104	松ノ尾	敷島町	９世紀末～12世紀	住居15軒	銅製小仏像、金銅製小仏像、帯金具
105	金の尾	敷島町	弥生時代	遺構外	条痕文土器出土
	金の尾Ⅴ	敷島町	９世紀後半	住居３軒	「人」墨書
106	榎原・天神	八田村	10世紀前半	住居２軒	棚状施設
107	百々	白根町	９世紀～10世紀主体	住居199軒、掘立柱建物13棟	牛馬骨45体、八稜鏡、銅製分銅、緑釉陶器
108	永井原Ⅴ	明野村	平安時代	溝１条	「小笠原牧」関連遺構か



第４図　周辺の遺跡分布図（1/100,000）


DK-351
127号住居
128号住居
133号住居
掘立29
125号住居
129号住居
132号住居
124号住居
123号住居
126号住居
PT1404
PT1405
掘立30 a・b
131号住居
134号住居
掘立28
122号住居
PT1406
PT1407
DK-350
130号住居
0
50m

第５図　遺構配置図

第３章　平安時代の遺構と遺物

第１節　竪穴住居跡と出土遺物

本遺跡で検出された平安時代の竪穴住居跡について、以下に報告する。住居床面積は住居実測図の壁下端あるいは周溝の内側でプラニメーターを用いて計測した。

122号住居（第６図～９図、写真図版１）

位置　調査区北西部、28号掘立柱建物の南に位置する。

規模・形態　西側約1/2は削平されている。南北4.9m、床面積不明。竪穴は床面までの深さ22cm、掘方までの深さ34cmを測る。

カマド　南東隅で礫、焼土、掘り込み、小ピットを検出した。袖石は原位置を保たず、カマドも原形を留めていない。

施設　床面は貼り床によって構築され、硬くしまった床面が東壁沿いから住居中央にかけて検出された。周溝を北壁中央から東壁沿い中央にかけて検出した。周溝とほぼ同程度の幅、深さを持つ溝を東壁沿い中央から住居中央にかけて検出した。カマドの脇から土坑１基を検出した。

時期　遺物が限られており断定はできないがおおよそ10世紀代と推測される。

出土遺物　土師器甕・鉢3,592ｇ、灰釉陶器105ｇ、金属製品５ｇ、鉄滓1,050ｇ、縄文土器1,543ｇ。

調査所見　床面は貼り床によって構築されている。住居西側約1/2は床面下まで削平されている。カマド脇のDK333は覆土観察から住居を切る土坑ではなく、住居埋没時には開口していたと思われる。DK328・332は住居床面まで削平を受けているため本住居との関係は不明である。カマド内より灰釉陶器輪花碗や土師器羽釜が出土しているがこれらはみな二次焼成を受けていない。覆土中、カマド内から鉄滓が12点出土している。

123号住居（第10図～第11図、写真図版１）

位置　調査区北西部、122号住居の東に位置する。

規模・形態　北側約1/2は削平されている。東西4.9m、竪穴は深さ20cmを測る。床面積不明。

カマド　南東隅で礫、焼土、小ピットを検出した。カマド中央部の支脚石は原位置を保っていたがそれ以外の袖石は原位置を保たず、カマドも原形を留めていない。

施設　固くしまった床面をカマド正面から住居中央にかけて検出した。周溝を東壁の一部で検出した。床面で２基の土坑と１基のピットを検出した。

時期　遺物が限られているが、カマドの位置を考慮すると、124号住居に近い時期と推定される。

出土遺物　土師器甕・鉢1,576ｇ、縄文土器1,952ｇ。

調査所見　地山を床面としている。住居北側約1/2は削平されている。床面で検出された土坑とピットは覆土観察で住居覆土上面からの掘り込みは確認されなかったことから住居埋没時には開口していたと思われる。カマド内より二次焼成を受けていない土師器甕、土師器羽釜が出土している。

124号住居（第11図～第12図、写真図版１）

位置　調査区北西部、123号住居の南東に位置する

規模・形態　北側約1/2は削平されている。東西4.1m、竪穴は深さ20cmを測る。床面積不明。

カマド　南東隅で少数の礫と焼土を検出した。

施設　固くしまった床面をカマド正面から住居中央にかけて検出した。床面で２基の土坑を検出した。

時期　遺物が限られていて断定はできないが、宮ノ前Ⅺ期、10世紀末から11世紀前葉頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿15ｇ、土師器坏・皿28ｇ、甲斐型甕・鉢22ｇ、土師器甕・鉢968ｇ、灰釉陶器64ｇ、鉄滓620ｇ、縄文土器4,449ｇ。

調査所見　地山を床面としている。住居北側約1/2は削平されている。床面で検出された土坑は覆土観察で住居覆土上面からの掘り込みは確認されなかったことから住居埋没時には開口していたと思われる。カマドから検出された礫は小さなもので、構築材と考えられるような礫は出土していない。覆土中から鉄滓が７点出土している。

125号住居（第13図～第18図、写真図版２）

位置　調査区北部、124号住居の南東に位置する。

カマドを共有する上下２面の床面を検出した。以下、上面の新しい住居を125a号住居、下面の古い住居を125b号住居として報告する。

カマド　東壁南寄りで礫、焼土、掘り込み、小ピットを検出した。袖石は原位置を保たず、カマドも原形を留めていない。

出土遺物　甲斐型坏・皿598ｇ、大小久保型坏・皿27ｇ、土師器坏・皿489ｇ、甲斐型甕・鉢847ｇ、土師器甕・鉢818ｇ、須恵器77ｇ、灰釉陶器212ｇ、鉄製品43ｇ、鉄滓320ｇ、縄文土器4,695ｇ。覆土中から鉄滓が２点出土している。

125a号住居（第13図～第15図、写真図版２）

規模・形態　東西5.6m、南北4.9m。床面積20.1㎡。竪穴は深さ42㎝を測る。

施設　床面は貼り床によって構築され、固くしまった床面をカマド正面から中央にかけて検出した。周溝を北壁から東壁沿い及び西壁中央から南壁沿いにかけて検出した。床面で６基の土坑、６基のピットを検出した。

時期　宮ノ前Ⅹ期、10世紀第３四半期から10世紀第４四半期頃と思われる。

調査所見　旧住居125b号住居の床面に貼り床を構築し、四方の壁を拡張して設けられている住居。床面上において焼土と多量の炭化材が出土した。壁面や床面に被熱は確認されなかった。炭化材は放射状に検出され、焼土がその周囲で検出されている状況から土葺屋根の可能性も考えられる。カマドから出土した礫は構築材としては少ないためカマド解体後に屋外へ持ち出されたと考えられる。このような状況から本住居はカマドの解体の後、住居廃絶にともなって上屋に火を付けたと考えられる。南壁沿いの床面で検出された２基のピット（PT1424、1425）は大きさがほぼ同等なことから出入口施設と考えられる。南東隅部及び住居中央西寄りから刀子が１点ずつ出土している（第18図13、15）。鉄滓が２点出土している（第18図16、17）。

125b号住居（第16図～第18図、写真図版２）

規模・形態　東西4.2m、南北3.5m。床面積不明。竪穴は深さ52㎝を測る。

施設　床面で３基の土坑、１基のピットを検出した。

時期　宮ノ前Ⅸ期、10世紀第２四半期から10世紀第３四半期頃と思われる。

調査所見　125a号住居の床面を検出したところ四方の壁沿いの床面は地山を床面とし、中央部には隅丸方形の貼り床が確認された。厚さ約10㎝の貼り床を掘り下げたところ北東隅から北にかけて住居の壁を確認した。125a号住居の覆土観察からは壁の埋め戻しは考えられないため、本住居は拡張前の古い住居であると判断した。北東隅以外の壁面は確認できなかった。カマドは125a号住居と共有すると考えられる。本住居の時期はDK373より出土した甲斐型坏片（第16図３）から判断した。

126号住居（第19～第20図、写真図版３）

位置　調査区中央北寄り、124号住居の南に位置する。

規模・形態　東西6.4m、南北5.1m。床面積29.4㎡。竪穴は深さ16cmを測る。

カマド　北東隅で焼土、小ピットを検出した。カマドは原形を留めていない。

施設　床面で２基の土坑を検出した。

時期　宮ノ前Ⅺ期、10世紀末から11世紀前葉頃と考えられる。

出土遺物　甲斐型坏・皿７ｇ、土師器坏・皿86ｇ、甲斐型甕・鉢75ｇ、土師器甕・鉢212ｇ、縄文土器2,008ｇ、鉄滓120ｇ。

調査所見　本遺跡内では比較的大型の住居である。地山を床面としている。カマドは北東隅に構築されているが人為的に解体されたと思われ、礫や粘土は検出されなかった。カマド内より土師器羽釜片が出土している（第19図２）。DK336はT字状の特徴的な断面形を呈しており焼土がブロック状で混入しているがその用途は不明である。住居覆土中から鉄滓が１点出土している（第20図１）。

127号住居（第21図～第24図、写真図版３）

位置　調査区北端中央、125号住居の東に位置する。

規模・形態　東西4.6m、南北5.1m。床面積16.1㎡。竪穴は床面までの深さ36cm、掘り方までの深さ44cmを測る。

カマド　南東隅で礫、焼土、小ピットを検出した。袖石は原位置を留めず、カマドも原形を留めていない。

施設　床面は貼り床によって構築され、固くしまった床面は上下２面で検出された。上面はカマド正面から住居中央にかけて検出され、下面はカマド正面から住居南半分にわたって検出された。周溝を北壁と東壁の一部で検出した。周溝とほぼ同程度の幅を持つ溝を西壁中央からL字状に検出した。３基の土坑を上面の床面で検出した。

時期　宮ノ前Ⅸ期、10世紀第２四半期から10世紀第３四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿230ｇ、土師器坏・皿252ｇ、甲斐型甕・鉢710ｇ、土師器甕・鉢1,116ｇ、須恵器86ｇ、灰釉陶器353ｇ、緑釉陶器３ｇ、鉄製品27ｇ。縄文土器10,570ｇ。

調査所見　拡張を行わずに地山を床面とする旧住居から貼り床を構築した新住居への建て替えを行っている。カマドの位置に変化はない。複数の縄文時代の竪穴住居との重複が確認され、本住居の覆土中からも多数の縄文土器片や多孔石が出土している。石棒が床面直上から出土しており、屋外から採集されて持ち込まれたと思われる。上面の床面直上、カマド右脇から灰釉陶器碗が伏せられた状態で出土している（第22図２）。北壁中央沿いの覆土中から鉄鏃２点が出土している（第24図３、４）。緑釉陶器片が床面直上で出土している（第23図16）。

128号住居（第25図、写真図版４）

位置　調査区中央南寄り、132号住居の東に位置する。

規模・形態　西側1/2は床面下まで削平されている。南北3.4m。竪穴は深さ13cmを測る。

カマド　東壁中央で焼土、小ピットを検出した。カマドは原形を留めていない。

施設　２基の土坑を検出した。

時期　カマド内より出土した甲斐型甕片から推測すると、宮ノ前Ⅶ期、９世紀第３四半期から９世紀第４四半期頃と思われるが遺物が限られ断定できない。

出土遺物　甲斐型坏・皿３ｇ、大小久保型坏・皿25ｇ、甲斐型甕・鉢275ｇ、土師器甕鉢2,246ｇ、ロクロ整形甕10ｇ、鉄滓339ｇ、縄文土器210ｇ。

調査所見　西側1/2は削平され、２基の土坑が本住居にともなうのかは判断できない。出土した５点の鉄滓の内

4点はカマド左脇からまとまって出土している（第25図２、５、８、９）。

129号住居（第26図～第28図、写真図版４）

位置　調査区中央、126号住居の南東に位置する。

規模・形態　東西4.1m、南北3.9m。床面積13.0㎡。竪穴は床面までの深さ26㎝、掘り方までの深さ28㎝を測る。

カマド　南東隅で礫、焼土、掘り込み、小ピットを検出した。天井石は外されていたが、一部の袖石は原位置を保っていると思われる。

施設　固くしまった床面をカマド正面から床面中央にかけて検出した。周溝を北壁から東壁、西壁の一部で検出した。床面上で土坑を６基、床面下で土坑を１基検出した。

時期　宮ノ前Ⅸ期、10世紀第２四半期から10世紀第３四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿124ｇ、大小久保型坏・皿62ｇ、土師器坏・皿188ｇ、甲斐型甕・鉢752ｇ、土師器甕・鉢1,345ｇ、須恵器14ｇ、灰釉陶器77ｇ、鉄滓305ｇ、縄文土器2,002ｇ。

調査所見　土坑は全て住居の南半分に設けられている。カマド右脇のDK329は覆土観察から住居の覆土中に掘り込みは確認されず、住居に付随する施設と考えられる。南西隅のDK340では土師器坏片が礫とともに出土している（第28図１）。貼り床により床面を構築しており、皿状の断面形を呈する掘り方を検出した。二次焼成を受けていない灰釉陶器輪花皿片がカマド内より出土している（第28図10）。覆土中から鉄滓が１点出土している（第28図12）。

130号住居（第29図～第30図、写真図版５）

位置　調査区西端、131号住居の西に位置する。

規模・形態　東西4.1m、南北3.6m。床面積11.2㎡。竪穴は床面までの深さ18㎝、掘り方までの深さ22㎝を測る。

カマド　東壁南寄りで礫、焼土、小ピット、掘り込み、焼土化した粘質土を検出した。袖石は原位置を保たずカマドは原形を留めていない。

施設　固くしまった床面をカマド正面から壁沿いにかけて検出した。周溝を壁沿いで検出した。床面で土坑を１基、ピットを１基、床面下で土坑を４基検出した。

時期　宮ノ前Ⅹ期、10世紀第３四半期から10世紀第４四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿178ｇ、土師器坏・皿171ｇ、甲斐型甕・鉢91ｇ、土師器甕・鉢524ｇ、須恵器１ｇ、灰釉陶器189ｇ、鉄製品３ｇ、鉄滓190ｇ。

調査所見　貼り床によって床面を構築している。住居の四隅に土坑状の掘り方を検出した。またカマドの直下で土坑状の掘り込みを検出したが貼り床と同質の覆土であり、遺物も出土していない点からこちらも掘り方と考えられる。床上で検出した土坑、ピットの覆土には焼土の混入が目立つ。カマド右脇の床面直上で灰釉陶器皿が出土している（第30図９）。鉄滓が床面直上から１点出土している（第30図10）。

131号住居（第31図、写真図版５）

位置　調査区中央やや南、130号住居の東に位置する。

規模・形態　東西2.8m、南北2.4m。床面積5.6㎡。竪穴は床面までの深さ34㎝、掘り方までの深さ42㎝を測る。

カマド　東壁南寄りで焼土、小ピットを検出した。カマドは原形を留めていない。

施設　固くしまった床面をカマド正面から南北の壁際で検出した。床面でピットを１基、床下で土坑を１基検出した。

時期　宮ノ前Ⅶ期、９世紀第３四半期から９世紀第４四半期頃と思われるが遺物が限られており断定はできない。

出土遺物　土師器坏・皿24ｇ、甲斐型甕・鉢144ｇ、土師器甕・鉢59ｇ、縄文土器900ｇ。

調査所見　貼り床によって床面を構築している。カマドは完全に破壊されており小ピット内から甲斐型甕片が出土している。袖石等のカマド構築材は住居内から出土していない。住居中央から北東隅にかけて土坑状の掘り方を検出した。

132号住居（第32図～第36図、写真図版６）

位置　調査区中央南寄り、131号住居、30a・b号掘立柱建物の東に位置する。

規模・形態　東西6.4m、南北6.2m。床面積33.9㎡。竪穴は床面までの深さ58㎝、掘り方までの深さ62㎝を測る。

カマド　東壁南寄りで礫、焼土、掘り込み、小ピットを検出した。袖石と支脚石は原位置を保つものの、カマド全体としては原形を留めていない。

施設　固くしまった床面を住居中央で検出した。周溝を壁沿いで検出した。北壁沿い東寄りの周溝から南に延びる溝を検出した。住居中央の床面で東西に伸びる２条の平行する溝を検出した。床面で土坑４基、ピット８基、床面下でピット１基を検出した。

時期　宮ノ前Ⅶ期、９世紀第３四半期から９世紀第４四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿376ｇ、大小久保型坏・皿43ｇ、土師器坏・皿276ｇ、甲斐型甕・鉢682ｇ、土師器甕・鉢484ｇ、ロクロ整形甕39ｇ、鉄製品10ｇ、縄文土器18,072ｇ。

調査所見　貼り床によって床面を構築している。住居中央で検出された固くしまった床面はドーナツ状を呈しており、平行する２条の溝はしまりのない中央部で検出している。このような特徴から本遺構は溝の上に構造物が設けられ、その周りで何らかの作業を行っていた工房と考えられるがその内容を示すような遺物は出土していない。床面で検出したピットのうち４基（PT1402、1403、1411、1414）はその規模、配列から本遺構の柱穴と思われるが、同様の配列は平成14年度に調査を行った118、120号住居でも見られる、この両住居は鍛冶遺構である。カマドの覆土上面には天井石と思われる扁平で大型の礫が確認された。袖石、支脚石は原位置を保っているものの粘土は確認されなかった。また火床面直上からは二次焼成を受けていない完形の甲斐型坏と甲斐型蓋が出土している（第35図１、２）。これらの点からカマド自体は解体されていると思われ、カマドを破壊、埋め戻した後に天井石を置きなおしたと考えられる。カマド右脇のDK355は溝でカマドとつながっている。

133号住居（第37図、写真図版７）

位置　調査区南端、128号住居の南に位置する。

規模・形態　南東隅及び東壁の一部を除いて削平されているため規模、床面積ともに不明。竪穴は深さ18㎝を測る。

カマド　東壁中央で焼土、小ピットを検出した。カマドは原形を留めていない。

施設　固くしまった床面をカマド正面から南壁中央にかけて検出した。東壁の一部と南壁の一部に周溝を検出した。床面で５基のピットを検出した。住居の想定範囲内で２基のピットを検出したが床面まで削平されており住居との関係は不明。

時期　遺物が限られており推定できない。

出土遺物　甲斐型坏・皿45ｇ、大小久保型坏・皿63ｇ、甲斐型甕・鉢410ｇ、土師器甕・鉢83ｇ、縄文土器140ｇ。

調査所見　地山を床面としている。住居西側は床下まで削平されており、２基のピット（PT1412、1413）と本住居との関係も不明であるものの東壁際においてカマドをはさむ配置をとる２基のピット（PT1417、1417）との対応関係が想定され、４本の柱穴と考えられる。南東隅のPT1416の覆土は焼土が多量に混じっている。

134号住居（第38図～第40図、写真図版７）

位置　調査区南西隅、30a・b号掘立柱建物の南に位置する。

規模・形態　東西5.4m、南北4.2m。床面積17.8㎡。竪穴は深さ36㎝を測る。

カマド　東壁南寄りで礫、焼土、小ピットを検出した。一部の袖石は原位置を保っているがカマドは原形を留めていない。

施設　固くしまった床面をカマド正面から住居中央にかけて検出した。北東隅から北壁の一部、北西隅にかけて周溝を検出した。床面で３基の土坑を検出した。

時期　宮ノ前Ｘ期、10世紀第３四半期から10世紀第４四半期頃と思われる。

出土遺物　甲斐型坏・皿152ｇ、土師器坏・皿213ｇ、甲斐型甕・鉢150ｇ、土師器甕・鉢965ｇ、須恵器10ｇ、灰釉陶器200ｇ、縄文土器935ｇ。

調査所見　貼り床によって床面を構築している。南西隅が一部削平されている。カマドからは粘土が検出されていないことから一部の袖石を除いて解体され埋め戻された後に再度天井石が置かれたようである。床面で検出されたDK362は底面が固くしまっていることから開口した状態で機能していたと考えられる。土坑状の掘り方と南北両壁沿いから西壁沿いに「コ」の字状の掘り方が検出された。

第２節　掘立柱建物

本遺跡では掘立柱建物４棟が検出された。柱間寸法は第３表に記載した。建物面積は、隣接する柱穴の中心を結ぶ直線に囲まれる範囲とした。出土遺物を欠くため、その時期は不明であるが、遺跡全体の状況から平安時代に属するものと考えられる。

28号掘立柱建物（第41図、写真図版７）

位置　調査区北西端、122号住居の北に位置する。

規模　東西２間、南北１間、建物面積18.1㎡。

調査所見　他の２棟の掘立柱建物と建物の方向が異なっている。出土遺物がなく時期は不明である。

29号掘立柱建物（第41図、写真図版７）

位置　調査区南端、133号住居の北西に位置する。

規模　東西２間、南北２間、建物面積12.3㎡。

調査所見　出土遺物がなく時期は不明である。

30a号掘立柱建物（第41図）

位置　調査区南西寄り、131号住居の南に位置する。

規模　東西２間、南北２間、建物面積37.4㎡。PT1382、1383、1388、1385、1391、1386、1392、1431、1384により構成される。

調査所見　２棟の掘立柱建物が重複している。柱穴の配置、規模から29a、b号の２棟とした。隣接する131号住居と建物の方向が近い。出土遺物がなく時期は不明である。

30b号掘立柱建物（第41図）

位置　調査区南西寄り、131号住居の南、30a号掘立柱建物と重複して位置する。

規模　南北２間以上、西側は大部分が削平されている。PT1387、1389、1390、1410により構成される。
調査所見　30a号掘立柱建物と重複している。柱穴の配置から考えると隣接する134号住居と建物の方向が近い。出土遺物がなく時期は不明である。

第３節　遺構・遺物観察表

第３章第２節までに報告した遺構とその出土遺物の観察所見を報告する。観察表は以下のとおりである。
第２表　平安時代住居面積・主軸方向一覧、第３表　掘立柱建物面積・柱間寸法一覧、第４表　土坑・ピット一覧、第５表　平安時代の土器・土製品一覧、第６表　金属製品一覧、第７表　石器・石製品一覧

「第５表　平安時代の土器・土製品一覧」中の胎土分類の説明は以下のとおりである。

〔第１類〕　第８類より粒度組成がやや粗く、微小な白色粒子（石英、斜長石、カリ長石などの鉱物粒子）が容易に観察できる。赤色粒子（褐鉄鉱の濃集部分）が混じるが第８類ほど目立たない。器面の手ざわりはややざらつく。

〔第２類〕　第１類よりさらに粒度組成が粗く、径１㎜程度の鉱物粒子が多量に混じるのが観察できる。赤色粒子は第８類と同類に混じるかやや少ない。器面の手ざわりは非常にざらつく。内外面のロクロ整形が粗雑で、ナデ痕が明瞭に観察される例が多い。

〔第３類〕　第２類と同様の胎土質だが、径３㎜程度の礫が混じる。赤色粒子は第８類と同程度に混じる。器面のナデ調整は丁寧。ヘラ削りのタイミングが第８類より遅く、自然乾燥がかなり進んだ時点で施しているようである。同時期の第８類と比較して、口径の割りに底径が大きく、器高が低い。全体に扁平な印象を与える。非常に密で丁寧に暗文を施している。体部、底部のヘラ削りは第８と同様であるが、底部周縁の輪郭が非常にシャープである。第８類よりも赤みが強い色調。

〔第４類〕　第８類と同等程度のキメ細かく緻密な胎土だが、微小な白色粒子が容易に観察できる。赤色粒子が混じるが第８類ほど目立たない。径３㎜を超える大粒の礫が混じることもある。色調はにぶい橙色から黒褐色。器壁が厚手な例もある。

〔第５類〕　第８類より粒度組成が粗い胎土でやや砂っぽい。赤色粒子、微小な白色粒子ともに混じるが、第１類、第２類、第４類ほど目立たない。内外面のロクロ整形が粗雑で、ナデ痕が明瞭に観察される例が多い。色調は黄橙色を示すことが多い。

〔第６類〕　キメの細かい砂っぽい胎土で、第５類をさらに粗粒にした胎土質である。鉱物粒子は第２類ほど多く混じらない。赤色粒子が混じるが第８類ほど目立たない。整形は粗雑で、ヘラ削りに稚拙な印象を受ける。器壁は厚手で、口縁部の玉縁のつくりも第８類と異なる。体部、底部はヘラ削りを施す。黄橙色か淡い赤褐色の色調。内面を黒色に処理する例もある。

〔第７類〕　今のところ大小久保遺跡２号住居例のみが確認できた。キメ細かく緻密な胎土だが、微小な鉱物粒子がやや混じる。わずかだが径２㎜程度の礫も混じる。器壁は厚手で、口径に対して底径が非常に大きい。底部

はヘラ削り。底部周縁直近の体部下半しかヘラ削りしない。したがって体部下半のヘラ削りは非常に中途半端な印象を与える。この種のヘラ削りは大小久保遺跡で散見される。非常に密な暗文を施す。

〔**第8類**〕 典型的な甲斐型坏・皿の胎土。キメ細かく緻密で、微小な赤色粒子が混じる。

〔**第9類**〕 ロクロ整形、底部糸切、内面の黒色処理を特徴とする。信濃の坏を模倣したと考えられる。「信州系」と通称される。大小久保遺跡で焼成遺構が確認されている。内面はナデ、ヘラ磨きにより調整され、黒色処理されることが多い。底部は回転糸切痕を残し未調整である。径1㎜程度の鉱物粒子を多量に含む胎土で、乳白色、黄褐色、赤褐色、黒褐色の色調を示す。

第2表　平安時代住居面積・主軸方向一覧

住居番号	面積(㎡)	主軸方向
122号住居	不明	N－114°－E
123号住居	不明	N－96°－E
124号住居	不明	N－103°－E
125a号住居	20.1	N－108°－E
125b号住居	14.0	N－103°－E
126号住居	29.4	N－102°－E
127号住居	16.1	N－108°－E

住居番号	面積(㎡)	主軸方向
128号住居	10.0	N－112°－E
129号住居	13.0	N－103°－E
130号住居	11.2	N－90°－E
131号住居	5.6	N－97°－E
132号住居	33.9	N－89°－E
133号住居	不明	N－92°－E
134号住居	17.8	N－80°－E

第3表　掘立柱建物面積・柱間寸法一覧

遺構番号	建物面積	ピット番号	柱間(m)
28号掘立柱建物	18.1㎡	PT－1376	2.84
		1377	
		1377	2.10
		1378	
		1378	3.40
		1379	
		1379	2.82
		1380	
		1380	2.88
		1381	
		1381	3.25
		1376	
29号掘立柱建物	12.3㎡	PT－1393	1.94
		1394	
		1394	1.80
		1395	
		1395	1.63
		1396	
		1396	1.70
		1397	
		1397	1.56
		1398	
		1398	2.14
		1399	
		1399	1.58
		1400	
		1400	1.58
		1393	

遺構番号	建物面積	ピット番号	柱間(m)
30a号掘立柱建物	37.4㎡	PT－1382	2.10
		1383	
		1383	2.10
		1388	
		1388	4.16
		1385	
		1385	4.10
		1391	
		1391	2.23
		1386	
		1386	2.03
		1392	
		1392	4.15
		1431	
		1431	4.23
		1382	
		1431	2.10
		1384	
		1384	2.10
		1385	
30b号掘立柱建物	不明	PT－1387	2.30
		1389	
		1389	2.90
		1390	
		1390	2.20
		1410	

第４表　土坑・ピット一覧　（単位＝cm）

遺構番号	覆　　土　　色	大きさ	深　さ	位　　置	備　　考（遺物など）
PT1374	10YR４/２（灰黄褐）に10YR５/６（黄褐）が20%、炭化物が１%混じる。しまる。シルト粒土。	25×21	22	123号住居床面	
PT1375	10YR４/２（灰黄褐）に10YR６/６（明黄褐）が10%、焼土が１%混じる。しまる。シルト粒土。	25×22	10	122号住居床面	
PT1376	10YR２/２（黒褐）に7.5YR４/６（褐）が10%、焼土２%、炭化物１%混じる。しまる。シルト粒土。	30×30	3.5	28号掘立柱建物	底面固くしまる
PT1377	10YR３/４（暗褐）に10YR５/８（黄褐）が20%、焼土が１%混じる。しまる。シルト粒土。	34×34	5	28号掘立柱建物	底面固くしまる
PT1378	10YR３/２（黒褐）に10YR４/４（褐）が30%、焼土が１%混じる。固くしまる。シルト粒土。	26×24	23	28号掘立柱建物	底面固くしまる
PT1379	10YR２/１（黒）に10YR３/４（暗褐）が10%、焼土が１%混じる。しまる。シルト粒土。	26×26	9	28号掘立柱建物	底面固くしまる
PT1380	10YR３/２（黒褐）に10YR５/６（黄褐）が20%、炭化物が１%混じる。しまる。シルト粒土。	28×22	14	28号掘立柱建物	底面固くしまる
PT1381	10YR３/４（暗褐）に10YR５/６（黄褐）が10%、炭化物が１%混じる。しまる。シルト粒土。	24×22	9	28号掘立柱建物	底面固くしまる
PT1382	10YR３/４（暗褐）に10YR５/４（にぶい黄褐）が10%、炭化物が１%混じる。しまる。シルト粒土。	33×33	23	30a号掘立柱建物	
PT1383	7.5YR２/１（黒）に7.5YR４/６（褐）が30%、炭化物が１%混じる。しまる。シルト粒土。	36×32	33	30a号掘立柱建物	
PT1384	7.5YR２/２（黒褐）に7.5YR４/４（褐）が30%、炭化物が１%混じる。しまる。シルト粒土。	37×36	29	30a号掘立柱建物	
PT1385	7.5YR２/２（黒褐）に7.5YR３/４（褐）が20%、焼土が１%混じる。しまる。シルト粒土。	60×50	28	30a号掘立柱建物	
PT1386	7.5YR２/１（黒）に7.5YR４/４（褐）が20%、炭化物が１%混じる。固くしまる。シルト粒土。	30×25	32	30a号掘立柱建物	
PT1387	7.5YR３/２（黒褐）に7.5YR４/４（褐）が30%、炭化物が１%混じる。固くしまる。シルト粒土。	31×29	10	30b号掘立柱建物	
PT1388	10YR３/４（暗褐）に10YR４/４（褐）が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。	36×30	50	30a号掘立柱建物	
PT1389	10YR３/２（黒褐）に10YR４/６（褐）が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。	48×33	26	30b号掘立柱建物	
PT1390	10YR５/６（黄褐）に10YR３/３（暗褐）が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。	36×28	29	30b号掘立柱建物	
PT1391	10YR３/１（黒褐）に10YR４/４（褐）が40%、炭化物が１%混じる。固くしまる。シルト粒土。	60×45	40	30a号掘立柱建物	
PT1392	10YR３/２（黒褐）に7.5YR４/４（褐）が10%、炭化物が２%混じる。固くしまる。シルト粒土。	30×30	27	30a号掘立柱建物	
PT1393	10YR２/３（黒褐）に7.5YR４/４（褐）が50%、炭化物が１%混じる。固くしまる。シルト粒土。	38×36	16	29号掘立柱建物	
PT1394	7.5YR４/４（褐）に7.5YR２/３（極暗褐）が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。	25×24	24	29号掘立柱建物	
PT1395	7.5YR２/２（黒褐）に10YR３/４（暗褐）が20%、炭化物が１%混じる。固くしまる。シルト粒土。	27×25	9	29号掘立柱建物	
PT1396	10YR２/２（黒褐）に10YR２/３（黒褐）が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。	24×24	10	29号掘立柱建物	
PT1397	10YR２/３（黒褐）に10YR３/３（暗褐）が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。	32×29	21	29号掘立柱建物	
PT1398	10YR２/３（黒褐）に10YR３/４（暗褐）が10%混じる。固くしまる。シルト粒土。	38×35	39	29号掘立柱建物	
PT1399	10YR２/３（黒褐）に10YR３/４（暗褐）が10%、炭化物が１%混じる。固くしまる。シルト粒土。	30×30	10	29号掘立柱建物	
PT1400	10YR２/３（黒褐）に10YR３/４（暗褐）が20%、炭化物が１%混じる。固くしまる。シルト粒土。	24×24	12	29号掘立柱建物	
PT1401	10YR３/４（暗褐）に10YR３/３（暗褐）が10%、炭化物が１%混じる。固くしまる。シルト粒土。	30×26	15	132号住居床面	
PT1402	10YR３/４（暗褐）に10YR４/４（褐）が20%、炭化物が１%混じる。しまる。シルト粒土。	24×23	17	132号住居床面	土師器片出土
PT1403	10YR３/４（暗褐）に10YR４/４（褐）が10%混じる。しまる。シルト粒土。	31×21	18	132号住居床面	
PT1404	10YR２/３（黒褐）に10YR３/３（暗褐）が10%混じる。しまる。シルト粒土。	24×21	12		
PT1405	10YR３/３（暗褐）に10YR４/６（褐）が混じる。しまる。シルト粒土。	24×18	12		
PT1406	10YR３/２（黒褐）に10YR３/４（暗褐）が20%、炭化物が１%混じる。しまる。シルト粒土。	20×20	25		
PT1407	10YR３/４（暗褐）に10YR４/４（褐）が10%混じる。しまる。シルト粒土。	20×20	10		
PT1408	10YR３/２（黒褐）に10YR５/４（にぶい黄褐）が20%、焼土５%、炭化物３%混じる。ややしまる。シルト粒土。	46×45	14	130号住居床面	
PT1409	10YR４/４（褐）に10YR５/４（にぶい黄褐）が20%、炭化物が１%混じる。			131号住居床面	
PT1410	観察前に完掘			30b号掘立柱建物	
PT1411	7.5YR３/２（黒褐）に10YR４/４（褐）が30%、焼土１%、炭化物３%混じる。ややしまる。シルト粒土。	35×33	24	132号住居床面	
PT1412	10YR３/２（黒褐）に10YR２/３（黒褐）が20%、炭化物が１%混じる。しまる。シルト粒土。	24×22	17	133号住居	
PT1413	10YR４/２（灰黄褐）に10YR４/３（にぶい黄褐）が20%、炭化物が２%混じる。しまる。シルト粒土。	31×23	28	133号住居	底面固くしまる
PT1414	10YR５/４（にぶい黄褐）に10YR６/６（明黄褐）が10%、炭化物が３%混じる。しまる。シルト粒土。	31×30	19	132号住居床面	PT1415に切られる
PT1415	10YR４/３（にぶい黄褐）に10YR５/６（黄褐）が20%、炭化物が１%混じる。しまる。シルト粒土。	25×14	27	132号住居床面	PT1414を切る
PT1417	10YR４/２（灰黄褐）に10YR５/６（黄褐）が10%、炭化物が２%混じる。しまる。シルト粒土。	33×24	23	133号住居床面	
PT1418	10YR３/４（暗褐）に10YR３/１（黒褐）が10%、炭化物が１%混じる。しまる。シルト粒土。	34×28	12	133号住居床面	
PT1419	10YR５/２（灰黄褐）に10YR４/６（褐）が40%、炭化物が２%混じる。しまる。シルト粒土。	29×27	49	133号住居床面	
PT1420	10YR５/４（にぶい黄褐）に10YR５/８（黄褐）が30%、炭化物が２%混じる。しまる。シルト粒土。	50×44	15	133号住居床面	
PT1421	10YR４/３（にぶい黄褐）に10YR６/６（明黄褐）が20%、焼土が１%混じる。しまる。シルト粒土。	22×21	7	132号住居床面	PT1422を切る
PT1422	10YR５/３（にぶい黄褐）に10YR６/６（明黄褐）が10%、焼土１%、炭化物１%混じる。しまる。シルト粒土。	31×27	15	132号住居床面	PT1421に切られる

遺構番号	覆　　土　　色	大きさ	深　さ	位　　置	備　　考（遺物など）
PT1423	10YR 3/3（暗褐）に10YR 4/6（褐）が20%、焼土１%、炭化物１%混じる。しまる。シルト粒土。	25×22	13	125号住居床面	
PT1424	10YR 4/3（にぶい黄褐）に10YR 5/8（黄褐）が20%、炭化物が２%混じる。しまる。シルト粒土。	14×14	10	125号住居床面	
PT1425	10YR 3/4（暗褐）に10YR 4/6（褐）が10%、焼土２%、炭化物３%混じる。しまる。シルト粒土。	20×20	22	125号住居床面	
PT1426	7.5YR 4/3（褐）に10YR 5/6（黄褐）が10%、焼土７%、炭化物３%混じる。しまる。シルト粒土。	35×40	6	125号住居床面	PT1427を切る
PT1427	10YR 4/2（灰黄褐）に10YR 5/3（にぶい黄褐）が10%、焼土２%、炭化物２%混じる。しまる。シルト粒土。	24×48	13	125号住居床面	PT1426に切られる
PT1428	観察前に完掘	20×20	12	132号住居床下	
PT1429	10YR 3/3（暗褐）に10YR 6/6（明黄褐）が５%、焼土１%、炭化物５%混じる。しまる。シルト粒土。	19×18	11	125号住居床下	
PT1430	10YR 4/3（にぶい黄褐）に10YR 5/6（黄褐）が20%、焼土１%、炭化物１%混じる。しまる。シルト粒土。	60×40	7	125号住居床面	
PT1431	10YR 3/4（暗褐）に10YR 4/4（褐）が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。			30a号掘立柱建物	
DK330	10YR 3/1（黒褐）に10YR 6/6（明黄褐）が10%、焼土５%、炭化物５%混じる。しまる。シルト粒土。	85×61	31	123号住居床面	
DK331	10YR 3/2（黒褐）に10YR 6/6（明黄褐）が30%、焼土２%、炭化物１%混じる。しまる。シルト粒土。	103×103	14	123号住居床面	
DK332	10YR 3/3（暗褐）に10YR 4/4（褐）が10%、焼土５%、炭化物１%混じる。しまる。シルト粒土。	65×50	29	122号住居床面	
DK333	10YR 4/3（にぶい黄褐）に10YR 3/2（黒褐）が20%、焼土10%、炭化物１%混じる。しまる。シルト粒土。	114×70	7	122号住居床面	カマド右脇に位置する
DK334	10YR 3/3（暗褐）に10YR 5/4（にぶい黄褐）が20%、焼土が５%混じる。しまる。シルト粒土。	70×64	26	124号住居床面	DK335に切られる
DK335	7.5YR 4/3（褐）に10YR 3/3（暗褐）が20%、焼土40%、炭化物10%混じる。固くしまる。シルト粒土。	78×62	15	124号住居床面	DK334を切る
DK337	10YR 3/2（黒褐）に10YR 6/6（明黄褐）が30%混じる。しまる。シルト粒土。	64×58	40	126号住居床面	混入土は直径５㎝のブロック状
DK338	10YR 4/2（灰黄褐）に10YR 5/8（明褐）が10%、焼土３%、炭化物５%混じる。ややしまる。シルト粒土。	87×84	18	130号住居床面	
DK339	10YR 2/3（黒褐）に10YR 3/3（暗褐）が20%、焼土２%、炭化物１%混じる。固くしまる。シルト粒土。	60×60	16	129号住居床面	
DK340	10YR 2/3（黒褐）に10YR 3/4（暗褐）が20%、焼土２%、炭化物３%混じる。しまる。シルト粒土。	85×84	30	129号住居床面	礫・土師器片
DK341	10YR 3/4（暗褐）に7.5YR 3/4（暗褐）が20%、焼土２%、炭化物３%混じる。しまる。シルト粒土。	45×43	34	129号住居床面	
DK342	10YR 3/4（暗褐）に10YR 2/3（黒褐）が10%、焼土３%、炭化物５%混じる。しまる。シルト粒土。	73×73	12	132号住居床面	土師器片
DK343	10YR 2/3（黒褐）に10YR 2/2（黒褐）が30%、焼土が１%混じる。しまる。シルト粒土。	43×41	11	132号住居床面	
DK344	10YR 2/3（黒褐）に10YR 3/3（暗褐）が20%、焼土１%、炭化物２%混じる。しまる。シルト粒土。	114×70	11	129号住居床面	
DK345	10YR 3/2（黒褐）に10YR 3/4（暗褐）が10%、焼土２%、炭化物１%混じる。しまる。シルト粒土。	90×85	18	129号住居床面	DK329に切られる
DK346	10YR 3/2（黒褐）に10YR 6/6（明黄褐）が40%、焼土が１%混じる。固くしまる。シルト粒土。	118×88	20	134号住居床面	
DK347	10YR 4/4（褐）に10YR 3/4（暗褐）が20%、焼土２%、炭化物２%混じる。固くしまる。シルト粒土。	67×63	7	127号住居床面	
DK348	10YR 3/2（黒褐）に10YR 3/4（暗褐）が10%、焼土１%、炭化物２%混じる。しまる。シルト粒土。	78×64	35	127号住居床面	
DK349	10YR 3/4（暗褐）に10YR 5/6（黄褐）が30%、焼土７%、炭化物３%混じる。固くしまる。シルト粒土。	137×92	30	127号住居床面	覆土中より土師器片、礫出土
DK350	10YR 4/2（灰黄褐）に10YR 4/6（褐）が20%、炭化物が２%混じる。しまる。シルト粒土。	76×76	12		
DK351	10YR 4/2（灰黄褐）に10YR 3/3（暗褐）が20%、炭化物が１%混じる。しまる。シルト粒土。	70×66	14		
DK352	観察前に完掘			128号住居	
DK353	10YR 3/4（暗褐）に10YR 5/6（黄褐）が20%、焼土１%、炭化物１%混じる。しまる。シルト粒土。	63×53	9	128号住居	
DK354	10YR 5/6（黄褐）に10YR 6/6（明黄褐）が20%、炭化物が３%混じる。しまる。シルト粒土。	96×93	16	130号住居床下	
DK355	7.5YR 4/3（褐）に7.5YR 2/2（黒褐）が10%、炭化物が２%混じる。しまる。シルト粒土。	40×40	9	132号住居床面	
DK356	7.5YR 3/3（暗褐）に7.5YR 2/2（黒褐）が10%、炭化物が３%混じる。しまる。シルト粒土。	96×96	19	132号住居床面	
DK357	7.5YR 5/6（明褐）に7.5YR 3/4（暗褐）が20%、炭化物５%混じる。しまる。シルト粒土。	66×66	13	130号住居床下	
DK358	10YR 4/6（褐）に10YR 2/3（黒褐）が30%、焼土７%、炭化物５%混じる。しまる。シルト粒土。	60×50	9	130号住居床下	
DK359	10YR 5/3（にぶい黄褐）に10YR 6/6（明黄褐）が10%、炭化物が２%混じる。しまる。シルト粒土。	136×90	9	131号住居床下	
DK360	10YR 3/3（暗褐）に10YR 5/6（黄褐）が20%、焼土５%、炭化物３%混じる。しまる。シルト粒土。	64×53	15	130号住居床下	中層に土器片
DK361	10YR 2/2（黒褐）に10YR 4/6（褐）が10%、炭化物が３%混じる。しまる。シルト粒土。	95×50	28	134号住居床面	DK346を切る、土師器坏片出土
DK362	10YR 5/6（黄褐）に10YR 4/2（灰黄褐）が10%、焼土１%、炭化物10%混じる。しまる。シルト粒土。	175×140	8	134号住居床面	底面固くしまる
DK363	10YR 3/4（暗褐）に10YR 4/6（褐）が30%、焼土５%、炭化物20%混じる。しまる。シルト粒土。	130×79	16	125号住居床面	底面固くしまる
DK364	10YR 3/3（暗褐）に10YR 4/6（褐）が20%、焼土２%、炭化物１%混じる。しまる。シルト粒土。	100×89	16	125号住居床面	底面固くしまる
DK365	7.5YR 3/2（黒褐）に10YR 5/6（黄褐）が10%、焼土１%、炭化物５%混じる。しまる。シルト粒土。	120×116	8	125号住居床面	底面固くしまる
DK366	10YR 3/1（黒褐）に10YR 6/6（明黄褐）が20%、焼土が１%混じる。しまる。シルト粒土。	90×90	13	129号住居床下	DK345に切られる
DK370	10YR 3/2（黒褐）に10YR 6/6（明黄褐）が30%、焼土10%、炭化物５%混じる。固くしまる。シルト粒土。	62×53	24	125号住居床下	上層に貼床
DK371	10YR 4/2（灰黄褐）に10YR 6/6（明黄褐）が20%、焼土５%、炭化物10%混じる。固くしまる。シルト粒土。	116×83	22	125号住居床下	上層に貼床
DK373	10YR 3/3（暗褐）に10YR 5/4（にぶい黄褐）が10%、炭化物が１%混じる。固くしまる。シルト粒土。	103×91	14	125号住居床下	甲斐型坏片

第５表　平安時代の土器・土製品一覧　（　）内の数値は口径・底径は推定値、器高は残存値

図版番号	種　別	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土分類	胎土色調	残存度	重量(g)	胎土質、釉調、特徴、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
8図1	手捏ね土器	埦	(10.8)	(5.3)	—		7.5YR5/4	1/3	116.0	鉱物粒子の混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
8図2	土師器	甕	(13.6)	8.4	—		10YR6/4	小破片	100.0	鉱物粒子の混じる粗い胎土、カマド内より出土
8図3	土師器	甕	(21.6)	12.5	(14.2)		10R4/6	1/3	490.0	最大幅（22.2）、鉱物粒子の混じる粗い胎土、カマド内より出土
8図4	土師器	甕	(18.9)	(9.9)	—		5YR4/4	小破片	105.0	鉱物粒子の混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
9図1	土師器	甕	—	(2.6)	(6.8)		5YR5/4	小破片	115.0	鉱物粒子の混じる粗い胎土
9図2	土師器	羽釜	(29.0)	(20.1)	—		10YR6/3	1/4	1360.0	最大幅（33.0）、鉱物粒子の混じる粗い胎土、カマド内より出土
9図3	土師器	羽釜	(32.0)	(12.8)	—		5YR4/4	小破片	200.0	最大幅（36.8）、鉱物粒子の混じるやや粗い胎土、内外面ヘラケズリ、カマド内より出土
9図4	土師器	羽釜	—	(8.9)	—		7.5YR4/4	小破片	150.0	最大幅（33.6）、鉱物粒子の混じる粗い胎土、カマド内より出土
9図5	灰釉陶器	碗	(16.5)	6.1	(7.7)		2.5Y8/3	1/3	105.0	緻密で細かい胎土、口縁部に輪花、カマド内より出土
11図1	土師器	羽釜	(29.6)	(10.5)	—		7.5YR5/4	1/4	160.0	最大幅（32.4）、鉱物粒子の混じる粗い胎土、カマド内より出土
11図2	土師器	甕	—	(3.9)	8.6		7.5YR7/4	1/4	292.0	鉱物粒子の混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
11図3	土師器	甕	—	(3.8)	(9.6)		5YR6/6	1/4	218.0	鉱物粒子の混じる粗い胎土、カマド内より出土
12図1	土師器	皿	—	(1.4)	(5.0)		5YR4/6	小破片	28.0	鉱物粒子の混じるやや粗い胎土
12図2	土師器	甕	—	(4.1)	—		7.5YR5/4	小破片	65.0	鉱物粒子の混じるやや粗い胎土
12図3	土師器	甕	—	(2.8)	(8.2)		7.5YR5/4	小破片	85.0	鉱物粒子の混じるやや粗い胎土
12図4	灰釉陶器	壺	—	(7.5)	—		10YR8/1	小破片	53.0	緻密で細かい胎土
12図5	灰釉陶器	碗・皿	—	(1.5)	(3.8)		10YR7/1	小破片	11.0	緻密で細かい胎土
15図1	土師器	坏	11.2	2.9	6.0		2.5YR5/8	完形	90.5	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土、北東角南寄り床面直上より出土、口縁部スス付着、胴部外面に墨書
16図1	甲斐型	坏	(12.2)	(4.1)	—	8	5YR6/6	小破片	5.0	胴部下半手持ちヘラケズリ
16図2	甲斐型	皿	(12.6)	(2.6)	—	5	5YR5/4	小破片	15.0	内面黒色処理、ミガキ
16図3	甲斐型	坏	(12.5)	4.3	(2.8)	8	7.5YR6/6	1/3	25.0	胴部下半・底部手持ちヘラケズリ、DK373より出土
16図4	甲斐型	皿	(13.4)	2.6	(7.0)	6	7.5YR6/8	小破片	12.0	内面黒色処理、ミガキ、胴部手持ちヘラケズリ
16図5	甲斐型	皿	—	(2.2)	(1.8)	8	5YR6/8	小破片	13.0	胴部下半・底部手持ちヘラケズリ
16図6	土師器	坏	(11.6)	(3.0)	—		5YR6/8	小破片	15.0	鉱物粒子の混じる細かい胎土、口縁部スス付着
16図7	土師器	皿	(11.4)	(2.2)	—		2.5YR5/6	小破片	15.0	鉱物粒子の混じる細かい胎土、口縁部及び内面スス付着
17図1	土師器	皿	(11.6)	(2.2)	—		5YR6/8	小破片	5.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる細かい胎土、口縁部スス付着、胴部外面に墨書、床面直上より出土
17図2	土師器	坏	(13.2)	3.8	(7.0)		5YR5/6	小破片	24.0	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土
17図3	土師器	皿	(10.6)	2.2	5.1		5YR5/6	2/3	50.5	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土
17図4	土師器	坏	(11.6)	(2.5)	—		10R5/8	小破片	10.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる細かい胎土
17図5	土師器	坏	(13.0)	(2.8)	—		7.5YR7/4	小破片	15.0	鉱物粒子の混じる細かい胎土
17図6	土師器	皿	(10.0)	2.4	4.7		5YR6/6	2/3	40.5	鉱物粒子の混じる細かい胎土、DK369より出土
17図7	土師器	皿	—	(1.8)	(5.4)		5YR5/6	小破片	22.0	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土
17図8	土師器	皿	—	(1.3)	(5.2)		7.5YR6/6	小破片	28.0	鉱物粒子の混じるやや粗い胎土
17図9	土師器	坏	(12.9)	(4.1)	(5.0)	88	7.5YR5/4	1/3	50.5	鉱物粒子の混じるやや粗い胎土、内面黒色処理、ミガキ
17図10	土師器	刧？	—	(1.8)	(6.0)		7.5YR6/6	小破片	16.0	鉱物粒子の混じるやや粗い胎土、見込部スス付着
17図11	土師器	甕	(34.6)	(3.9)	—		10R4/6	小破片	80.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土
17図12	土師器	高脚高台坏	—	(3.6)	—		7.5YR6/6	1/3	67.0	鉱物粒子の混じる細かい胎土
17図13	土師器	甕	(41.0)	(3.9)	—		10YR6/6	小破片	71.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じるやや粗い胎土
17図14	甲斐型	甕	—	(4.2)	(6.0)		2.5YR4/4	小破片	51.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じるやや粗い胎土
17図15	土師器	甕	(32.8)	(3.9)	—		7.5YR5/6	小破片	48.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じるやや粗い胎土
17図16	甲斐型	甕	(26.6)	(15.9)	—		2.5YR4/8	小破片	150.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じるやや粗い胎土
17図17	土師器	羽釜	(22.4)	(9.7)	—		2.5YR4/6	小破片	117.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じるやや粗い胎土
18図1	甲斐型	甕	—	(5.4)	—		5YR4/3	小破片	40.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じるやや細かい胎土
18図2	灰釉陶器	皿	(14.8)	(1.8)	—		2.5Y8/2	小破片	15.0	緻密で細かい胎土、灰釉漬け掛け
18図3	灰釉陶器	碗	—	(2.3)	(7.0)		2.5Y6/3	小破片	22.0	緻密で細かい胎土
18図4	灰釉陶器	碗	(15.8)	(4.1)	—		5Y7/2	小破片	5.0	緻密で細かい胎土
18図5	灰釉陶器	碗	(16.0)	(4.1)	—		2.5Y8/2	小破片	5.0	緻密で細かい胎土
18図6	灰釉陶器	碗	(15.8)	(2.7)	—		5Y8/2	小破片	10.0	緻密で細かい胎土
18図7	灰釉陶器	皿	(9.8)	(1.6)	—		5Y7/1	小破片	7.0	緻密で細かい胎土
18図8	灰釉陶器	皿	(17.0)	(2.6)	—		5Y8/2	小破片	10.0	緻密で細かい胎土
18図9	灰釉陶器	皿	(14.8)	(2.0)	—		2.5Y8/4	1/4	27.0	緻密で細かい胎土
18図10	灰釉陶器	皿	(15.4)	(1.9)	—		2.5Y8/2	小破片	10.0	緻密で細かい胎土、灰釉付け掛け
18図11	灰釉陶器	皿	(26.6)	2.6	(7.8)		2.5Y7/2	1/3	40.5	緻密で細かい胎土、灰釉漬け掛け、付高台
18図12	灰釉陶器	皿	(14.4)	2.4	(7.1)		2.5Y7/2	1/2	60.5	緻密で細かい胎土、灰釉漬け掛け、付高台
19図1	土師器	高脚高台坏	—	(2.4)	—		5YR5/6	1/4	83.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じるやや粗い胎土、胴部下半及び高台部に敲打痕、床面直上より出土
19図2	土師器	羽釜	(28.8)	(12.5)	—		5YR6/8	小破片	156.0	最大幅（37.8）、粒子、雲母粒子の混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
22図1	土師器	坏	(15.0)	(3.6)	—		5YR6/8	小破片	15.0	鉱物粒子の混じる細かい胎土、カマド内より出土
22図2	灰釉陶器	碗	(14.8)	5.2	8.0		2.5GY8/1	1/3	180.0	緻密で細かい胎土、付高台、カマド脇床面直上より出土
22図3	土師器	坏	(13.0)	3.6	5.0		5YR6/6	2/3	115.0	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土、カマド内より出土
22図4	土師器	坏	(12.0)	(3.2)	—		5YR5/6	小破片	25.0	鉱物粒子の混じる細かい胎土
23図1	土師器	坏	(13.0)	(3.1)	—		7.5YR5/3	小破片	9.0	鉱物粒子の混じる細かい胎土
23図2	土師器	坏	—	(2.8)	(6.6)		5YR6/6	小破片	15.0	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土
23図3	土師器	坏	—	(2.0)	(7.0)		5YR5/6	小破片	12.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じるやや粗い胎土
23図4	土師器	坏	—	(2.7)	5.4		5YR5/6	1/3	60.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じるやや粗い胎土、胴部下半及び高台部に敲打痕、床面直上より出土カマド内より出土
23図5	土師器	坏・皿	—	(1.0)	—		5YR6/6	小破片	1.0	鉱物粒子の混じる細かい胎土、口縁部破片、穿孔あり
23図6	土師器	甕	—	(8.4)	(7.0)		2.5YR5/8	1/4	210.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じるやや粗い胎土、カマド内より出土

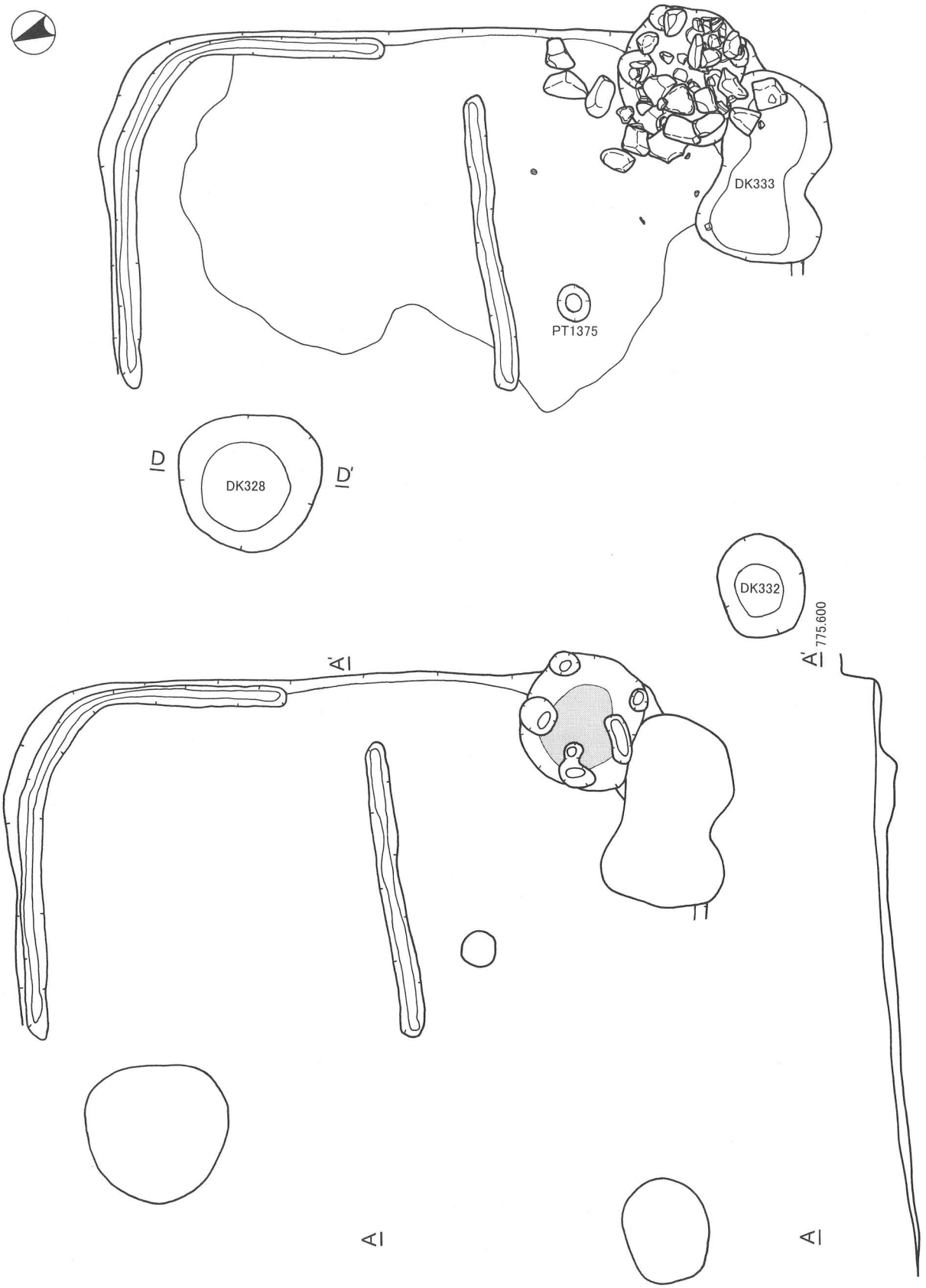
図版番号	種　別	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土分類	胎土色調	残存度	重量(g)	胎土質、釉調、特徴、出土位置（特に記述のない場合は遺構覆土より出土している）
23図7	土師器	甕	(32.0)	(6.5)	—		2.5YR5/6	小破片	110.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土、床面直上より出土
23図8	土師器	甕	(36.0)	(5.9)	—		2.5YR6/8	小破片	83.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土、床面直上より出土
23図9	灰釉陶器	碗	(11.6)	4.1	(6.6)		7.5Y7/1	1/3	46.0	緻密で細かい胎土、付高台、口縁部外面に沈線1条、カマド内より出土
23図10	土師器	甕	(32.8)	(6.7)	—		5YR6/6	小破片	81.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土、床面直上より出土
23図11	灰釉陶器	碗	—	(2.2)	(7.8)		5Y7/1	小破片	37.0	緻密で細かい胎土、付高台
23図12	土師器	甕	—	(15.8)	—		2.5YR6/8	1/4	305.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
23図13	灰釉陶器	碗	(13.2)	4.4	(6.6)		5Y7/1	小破片	50.0	緻密で細かい胎土、付高台
23図14	灰釉陶器	碗	(14.8)	(3.7)	—		5Y8/1	小破片	15.0	緻密で細かい胎土、カマド内より出土
23図15	灰釉陶器	碗	(15.8)	(4.4)	—		7.5Y8/2	小破片	25.0	緻密で細かい胎土、灰釉漬け掛け
23図16	緑釉陶器	碗	—	(2.4)	—		7.5Y8/2	小破片	3.0	緻密で細かい胎土、口縁部破片、床面直上より出土
25図1	甲斐型	甕	(24.6)	(6.5)	—		7.5YR4/3	小破片	55.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土、カマド内より出土
25図3	甲斐型	甕	(27.6)	(8.3)	—		7.5YR4/6	小破片	102.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土、カマド内より出土
25図4	土師器	甕	(15.0)	(3.2)	—		7.5YR5/4	小破片	10.0	鉱物粒子を含むやや粗い胎土、ロクロ整形、カマド内より出土
25図6	須恵器	蓋	(15.4)	(2.6)	(5.2)		N5/	小破片	42.0	摘み欠損、カマド内より出土
25図7	須恵器	蓋	—	(2.4)	—		7.5Y5/1	小破片	6.0	摘み部、胴部との接合部に敲打痕
28図1	土師器	坏	(12.0)	3.8	6.0		5YR6/8	2/3	93.0	鉱物粒子の混じる細かい胎土、DK340内より出土
28図2	土師器	坏	(13.0)	(2.7)	—		7.5YR5/4	小破片	10.0	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土、カマド内及びDK329より出土
28図3	土師器	坏	(11.8)	(2.8)	—		5YR5/6	小破片	21.0	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土
28図4	土師器	坏	(12.6)	(3.5)	—		7.5YR5/8	1/3	29.0	鉱物粒子の混じる細かい胎土、DK329内より出土
28図5	土師器	甕	(37.0)	(11.5)	—		2.5YR4/6	小破片	108.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土、床面直上より出土
28図6	土師器	坏	—	(1.8)	6.2		7.5YR6/6	1/4	35.0	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土
28図7	土師器	甕	—	(4.1)	(10.6)		5YR4/4	小破片	152.0	鉱物粒子の混じる粗い胎土
28図8	土師器	甕	(28.0)	(4.1)	—		10YR6/8	小破片	41.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土
28図9	土師器	甕	(27.0)	(6.2)	—		7.5YR6/8	小破片	95.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土
28図10	灰釉陶器	皿	(14.6)	(1.9)	—		N8/1	小破片	34.0	緻密で細かい胎土、輪花、カマド内より出土
28図11	灰釉陶器	碗	(15.4)	(4.3)	—		N8/0	小破片	43.0	緻密で細かい胎土、輪花
30図1	土師器	坏	—	(1.5)	6.0		5YR5/8	1/4	55.0	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土
30図2	土師器	坏	11.0	3.8	5.0		2.5YR5/8	1/2	84.0	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土、
30図3	土師器	坏	(12.0)	(2.3)	—		7.5YR6/6	小破片	8.0	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土、カマド内より出土
30図4	土師器	坏	(12.0)	2.3	(7.0)		7.5YR6/8	1/4	24.0	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土
30図5	土師器	甕	(27.8)	(6.4)	—		2.5YR5/8	小破片	98.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
30図6	土師器	甕	(31.8)	(5.2)	—		7.5YR5/8	小破片	75.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土
30図7	土師器	甕	(29.0)	(5.0)	—		2.5YR5/8	小破片	35.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土
30図8	灰釉陶器	碗	(17.6)	(6.8)	—		2.5GY7/1	1/3	156.0	緻密で細かい胎土、高台に敲打痕
30図9	灰釉陶器	段皿	(15.6)	2.5	(9.6)		N7/0	1/4	33.0	緻密で細かい胎土
31図1	甲斐型	甕	(27.6)	(8.0)	—		7.5YR4/6	小破片	144.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土、カマド内より出土
31図2	土師器	坏	—	(2.9)	(6.2)	88	7.5YR6/6	小破片	24.0	内面黒色処理、ミガキ
31図3	土師器	甕	(27.4)	(3.1)	—		7.5YR5/4	小破片	59.0	鉱物粒子の混じる粗い胎土
35図1	甲斐型	坏	11.0	4.1	4.8	5	5YR5/6	完形	104.0	内面放射状暗文、カマド内より出土
35図2	甲斐型	蓋	18.0	3.2	7.2	8	2.5YR5/8	ほぼ完形	234.0	摘み無し、内面渦巻状暗文、カマド内より出土
35図3	甲斐型	皿	—	(1.6)	(5.2)	8	5YR5/8	小破片	28.0	内面渦巻状暗文、胴部内面に墨書
35図4	土師器	坏	(15.0)	(3.6)	—	88	2.5Y7/4	小破片	14.0	内面黒色処理、ミガキ、胴部逆位「生」字墨書あり、カマド内より出土
35図5	土師器	坏	(11.2)	3.6	6.6	88	10YR7/4	1/2	74.0	内面黒色処理、ミガキ
35図6	土師器	坏	(10.8)	4.2	(3.9)	88	10YR7/8	1/4	29.0	内面黒色処理、ミガキ
35図7	土師器	坏	(22.6)	(6.4)	—		5YR6/8	小破片	51.0	鉱物粒子、赤色粒子の混じる細かい胎土、内面黒色処理、ミガキ
36図1	土師器	坏	(12.6)	4.2	6.2	88	10YR7/3	1/2	90.0	内面黒色処理、ミガキ
36図2	土師器	甕	—	(5.2)	(9.0)		5YR4/8	小破片	84.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土
36図3	甲斐型	甕	—	(5.4)	6.6		2.5YR3/4	1/4	90.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土
36図4	土師器	甕	(19.8)	(5.8)	—		10YR7/4	小破片	74.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じるやや粗い胎土
36図5	甲斐型	甕	—	(8.0)	(9.4)		2.5YR4/6	小破片	59.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土、カマド内より出土
36図6	土師器	甕	(16.2)	(7.2)	—		2.5YR5/6	小破片	39.0	鉱物粒子の混じるやや粗い胎土、外面カキメ、ロクロ整形、床面直上より出土
36図7	土師器	甕	—	(3.7)	(10.6)		5YR5/4	小破片	48.0	鉱物粒子の混じる粗い胎土
36図8	須恵器	壷・甕	—	(16.3)	(19.8)		5Y6/1	小破片	360.0	微小な鉱物粒子の混じる細粒の胎土、カマド内より出土
36図9	須恵器	壷・甕	—	—	—		5Y6/3	小破片	495.0	微小な鉱物粒子の混じる細粒の胎土
36図10	須恵器	壷・甕	—	—	—		5Y6/2	小破片	61.0	微小な鉱物粒子の混じる細粒の胎土、カマド内より出土
37図1	甲斐型	甕	(29.8)	(18.2)	—		7.5YR4/6	1/4	246.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土、カマド内より出土
40図1	土師器	坏	(11.4)	3.6	(5.4)		7.5YR4/6	小破片	22.0	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土
40図2	土師器	坏	(10.4)	3.6	(3.4)		7.5YR7/8	1/4	43.0	鉱物粒子の混じるやや粗い胎土、カマド内より出土
40図3	土師器	坏	(12.2)	(3.1)	—		5YR5/6	1/2	70.0	鉱物粒子の混じる細かい胎土、カマド内より出土、底部に墨書あり
40図4	土師器	坏	(10.8)	(2.0)	—		5YR4/6	小破片	5.0	鉱物粒子の混じる細かい胎土
40図5	土師器	坏	—	(1.9)	(6.6)		5YR5/6	2/3	45.0	鉱物粒子の混じるやや細かい胎土
40図6	土師器	坏	(11.0)	3.7	(4.8)		7.5YR6/8	小破片	28.0	鉱物粒子の混じる細かい胎土、カマド内及びDK361より出土
40図7	土師器	鉢？	(23.6)	(5.1)	—		5YR5/8	小破片	83.0	鉱物粒子の混じる粗い胎土、カマド内より出土
40図8	土師器	甕	(18.4)	(7.1)	—		7.5YR4/4	小破片	95.0	鉱物粒子の混じる粗い胎土、カマド内より出土
40図9	土師器	甕	(28.4)	(7.7)	—		7.5YR5/6	小破片	67.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土
40図10	土師器	甕	(31.0)	(4.3)	—		7.5YR6/8	小破片	54.0	鉱物粒子、雲母粒子の混じる粗い胎土
40図11	灰釉陶器	碗	(15.6)	7.1	(9.0)		5Y7/2	1/2	200.0	緻密で細かい胎土、付高台

第6表　金属製品一覧

図版番号	出土遺構	種　別	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	材　質	重量(g)	特徴、出土位置、など
9図6	122	刀子	5.2	1.5	0.6	鉄	5	カマド内から出土
9図7	122	鉄滓	5.2	5.5	2.9	鉄	750	覆土下層から出土
9図8	122	鉄滓	5.0	6.2	2.2	鉄	110	覆土中層から出土
12図6	124	鉄滓	10.7	10.4	4.7	鉄	380	覆土下層から出土、碗型滓
12図7	124	鉄滓	5.5	6.4	3.4	鉄	90	覆土下層から出土、碗型滓
18図13	125	刀子	17.4	2.0	0.6	鉄	35	先端欠損
18図15	125	刀子	6.8	1.2	0.9	鉄	8	先端欠損
18図16	125	鉄滓	4.6	5.8	2.1	鉄	50	覆土下層から出土
18図17	125	鉄滓	8.8	10.5	4.5	鉄	270	覆土下層から出土
20図1	126	鉄滓	7.3	6.8	3.3	鉄	120	覆土下層から出土
24図3	127	鉄鏃	8	1.8	0.7	鉄	13	茎部欠損
24図4	127	鉄鏃	4	0.8	0.7	鉄	7	先端、茎部欠損
24図6	127	刀子	5.3	1.1	0.5	鉄	4	先端、茎部欠損
25図2	128	鉄滓	6.1	9.0	2.9	鉄	145	カマド脇から出土、碗型滓
25図5	128	鉄滓	3.2	7.2	3.1	鉄	80	カマド脇から出土
25図8	128	鉄滓	4.5	4.8	2.6	鉄	45	カマド脇から出土
25図9	128	鉄滓	3.1	5.5	2.4	鉄	50	カマド脇から出土
28図12	129	鉄滓	6.9	8.6	5.0	鉄	305	覆土下層から出土
30図10	130	鉄滓	5.6	8.9	4.0	鉄	190	床面直上から出土

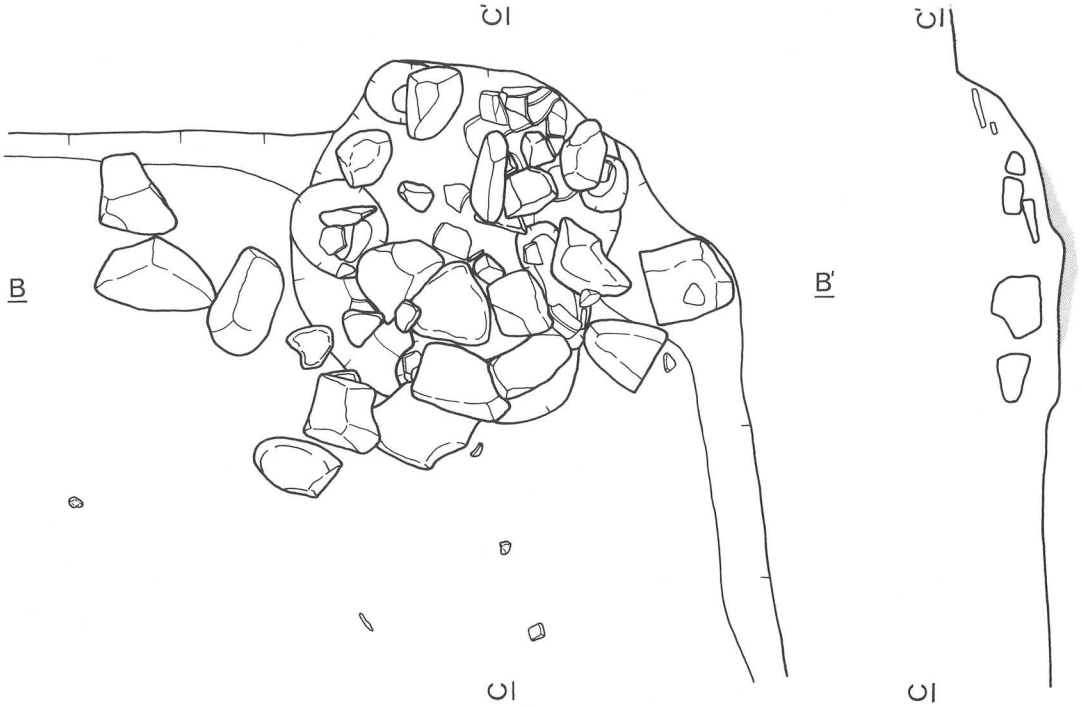
第7表　石器・石製品一覧

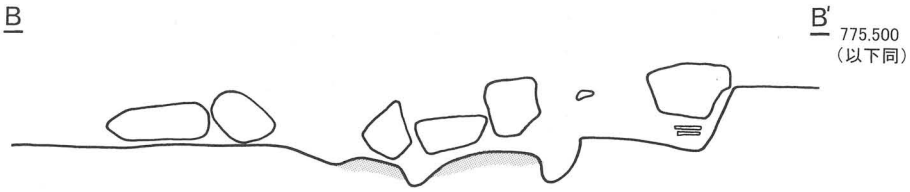
図版番号	種　　別	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	石　質	重量(g)	特徴、出土位置など
18図14	磨石	5.8	5.3	4.7	砂岩	215.0	DK367より出土、表面にスス付着
24図1	石棒	58.1	24.9	18.1	安山岩	44,750.0	床面直上より出土
24図2	多孔石	29.0	22.4	12.1	安山岩	7,000.0	
24図5	不明	7.1	5.9	5.5	凝灰岩	430.0	DK349より出土
36図11	火打石	4.0	2.7	1.2	石英	15.0	



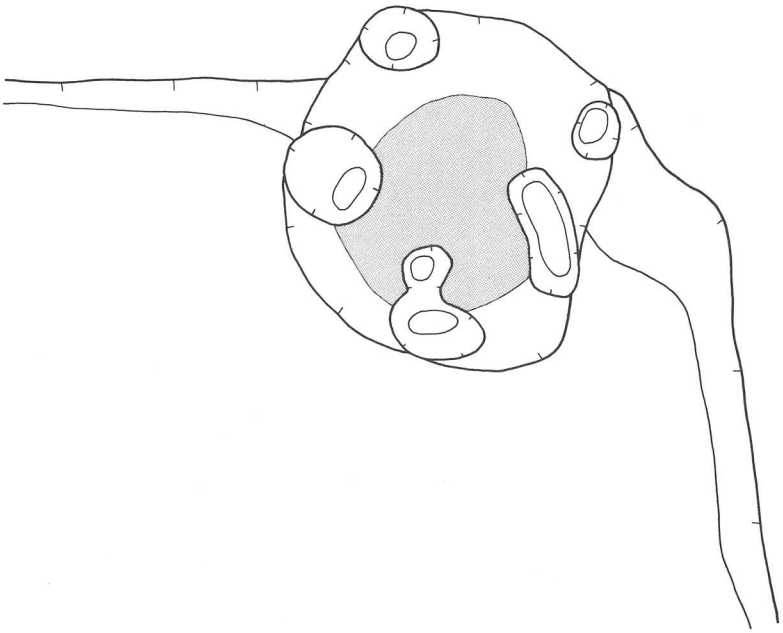
覆土　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が5%、10YR4/6(褐)が3%、焼土・炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
床面　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が3%混じる。固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が3%、10YR2/3(黒褐)が1%混じる。しまる。シルト粒土。

第6図　122号住居（1/40）



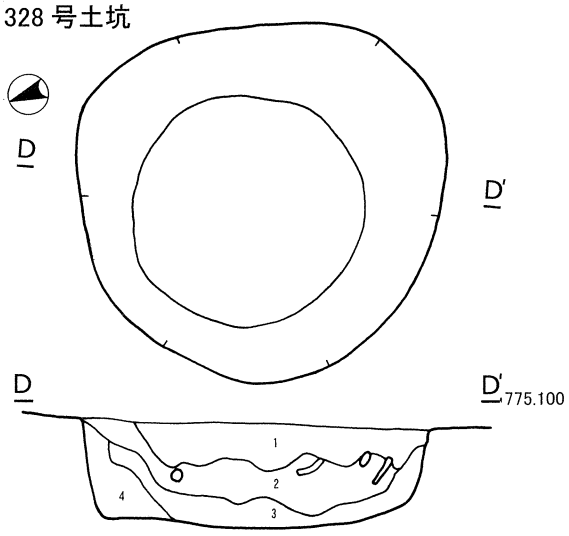


覆土　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が5%、焼土が2%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。

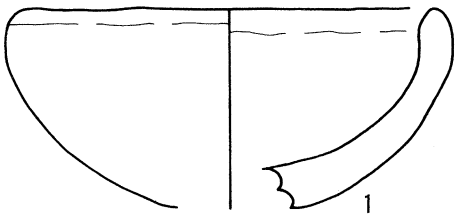


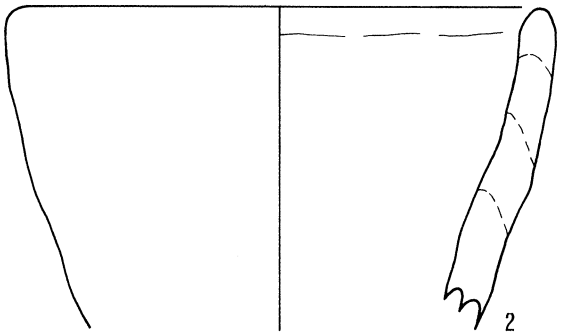
第７図　122号住居カマド（1/20）

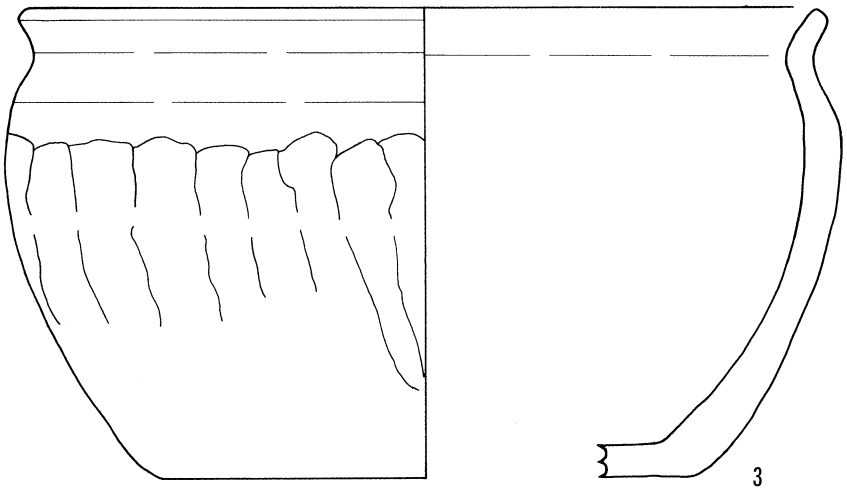
328 号土坑

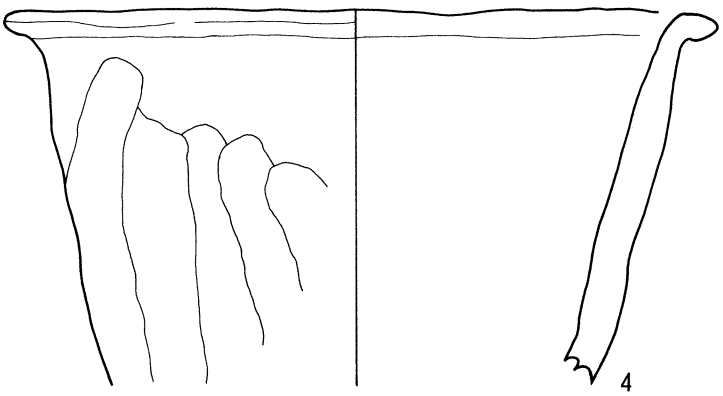


1 層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が2%、焼土、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
2 層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が2%、10YR4/6(褐)が1%,焼土・炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
3 層　10YR4/4(褐)に10YR2/3(黒褐)が2%混じる。しまる。シルト粒土。
4 層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が2%、10YR4/6(褐)が1%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。

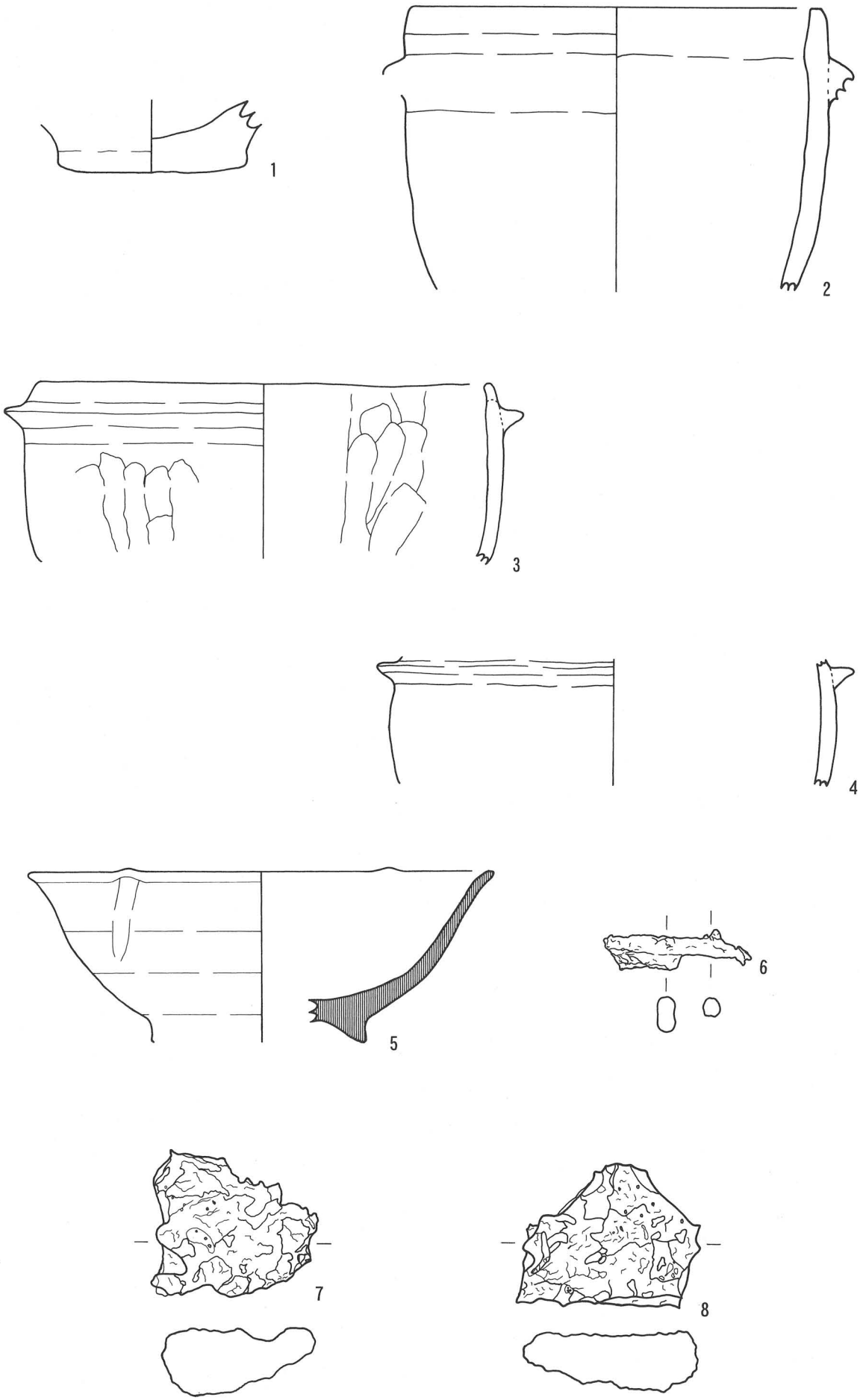




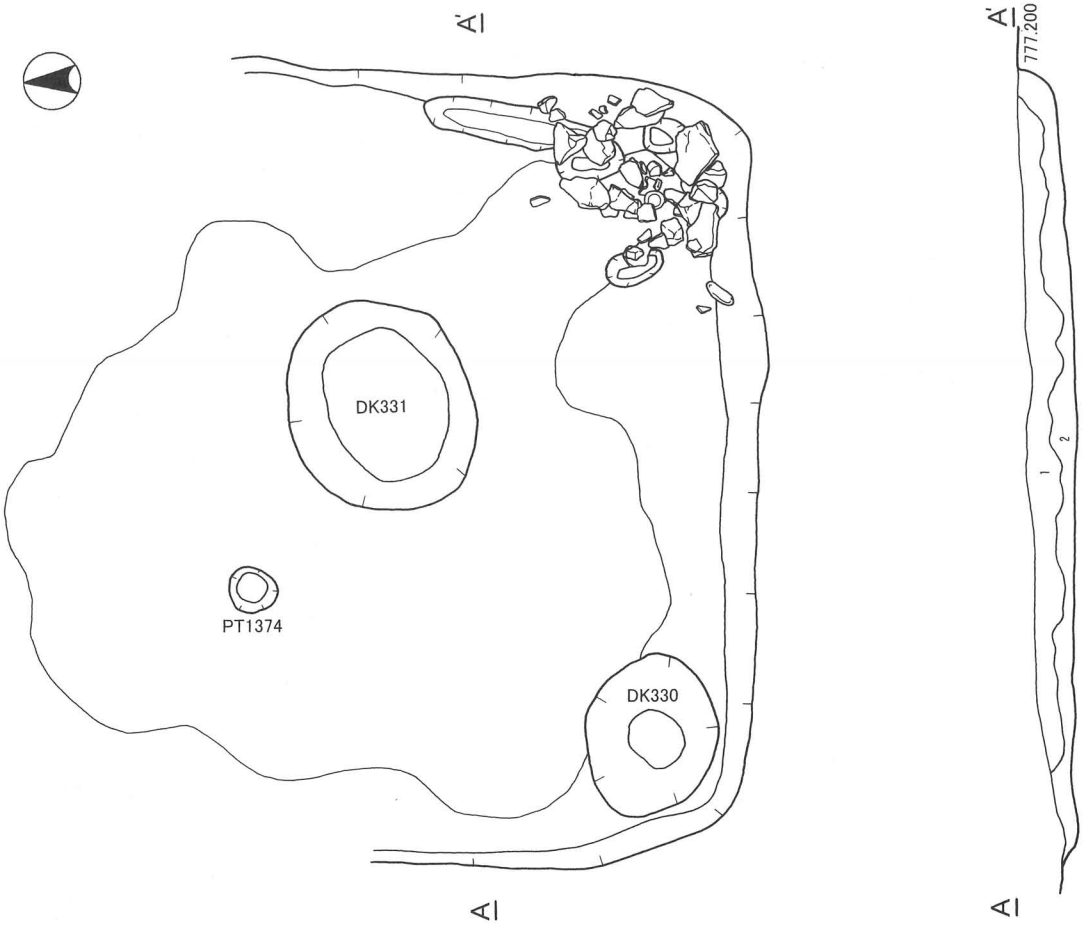




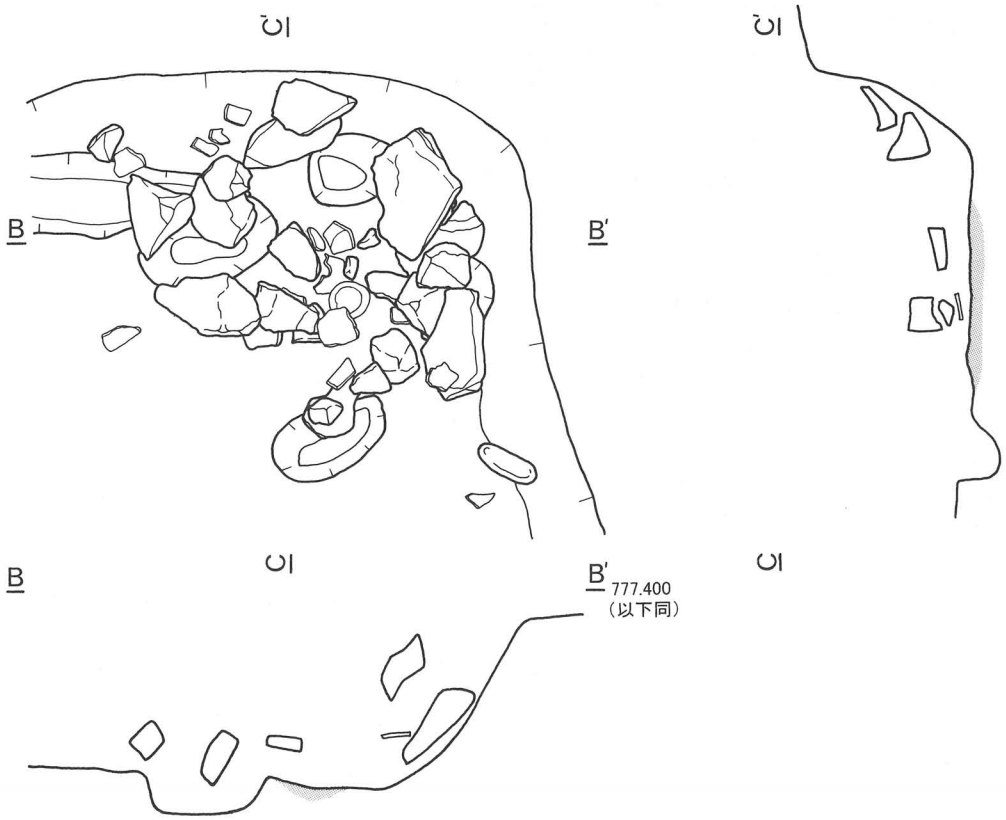
第 8 図　328号土坑（1/20）　122号住居出土遺物（1/2）



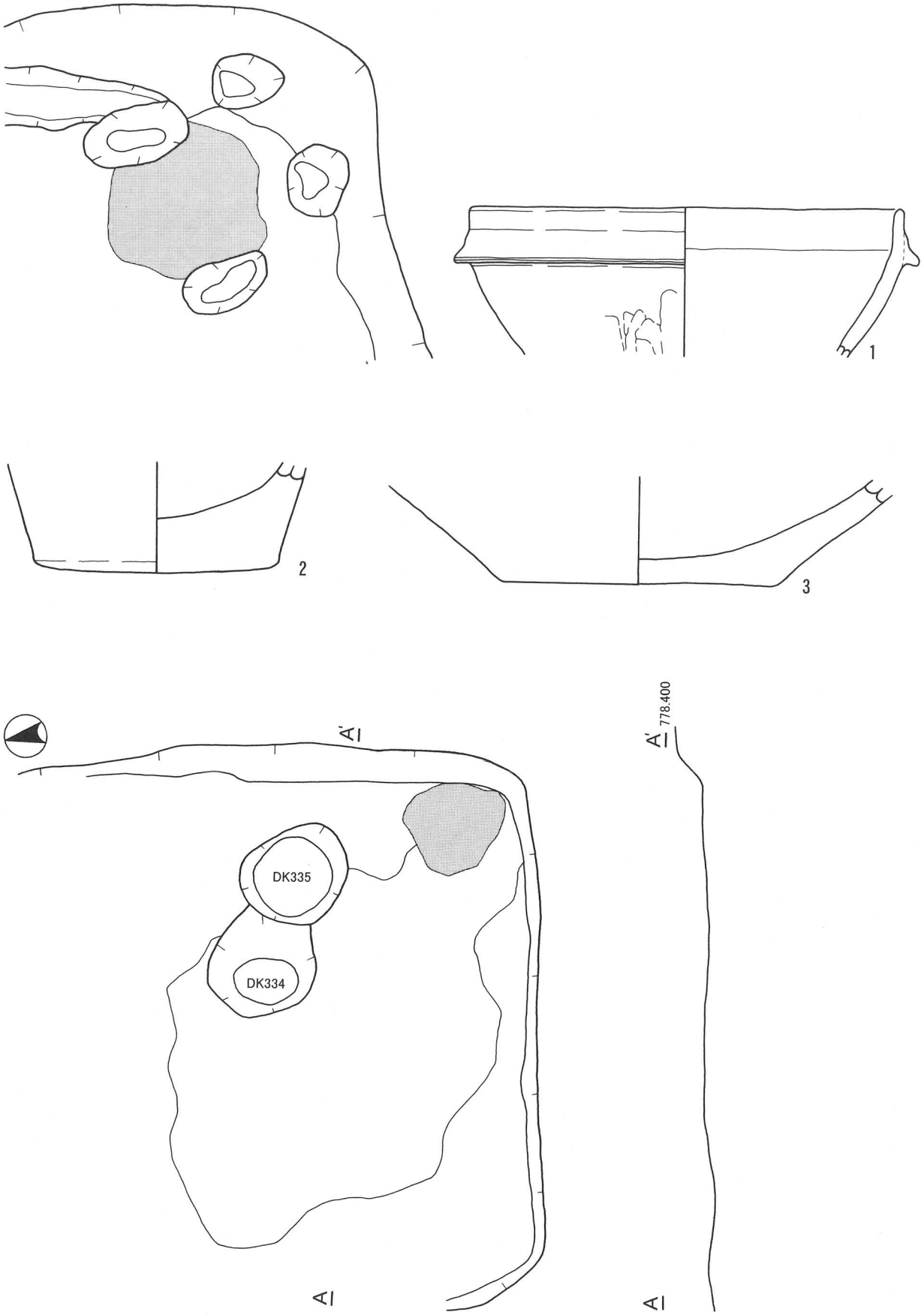
第９図　122号住居出土遺物（1/2、2～4は1/4）



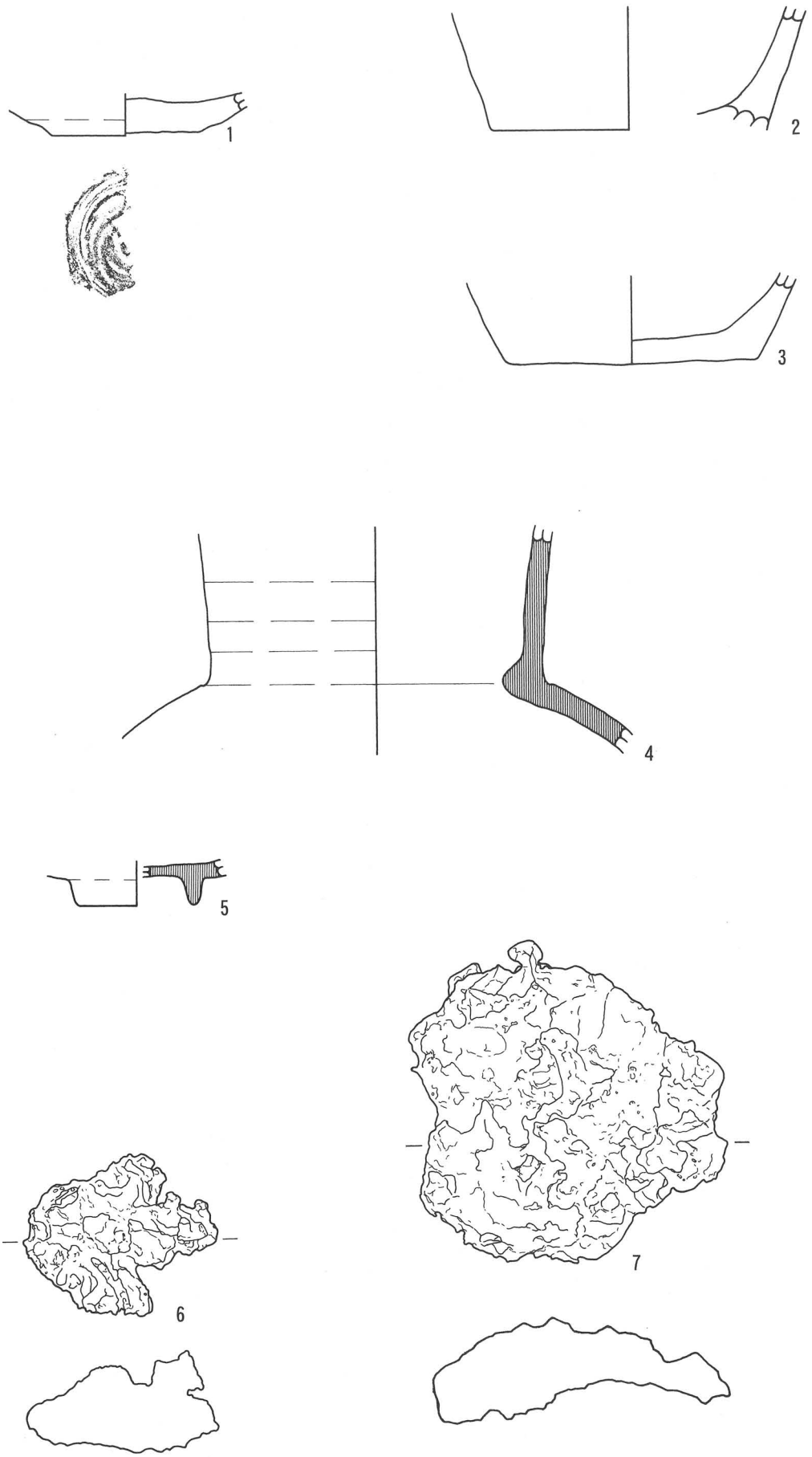
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が2%、焼土が2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が7%、2～7㎜の焼土ブロックが3%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。



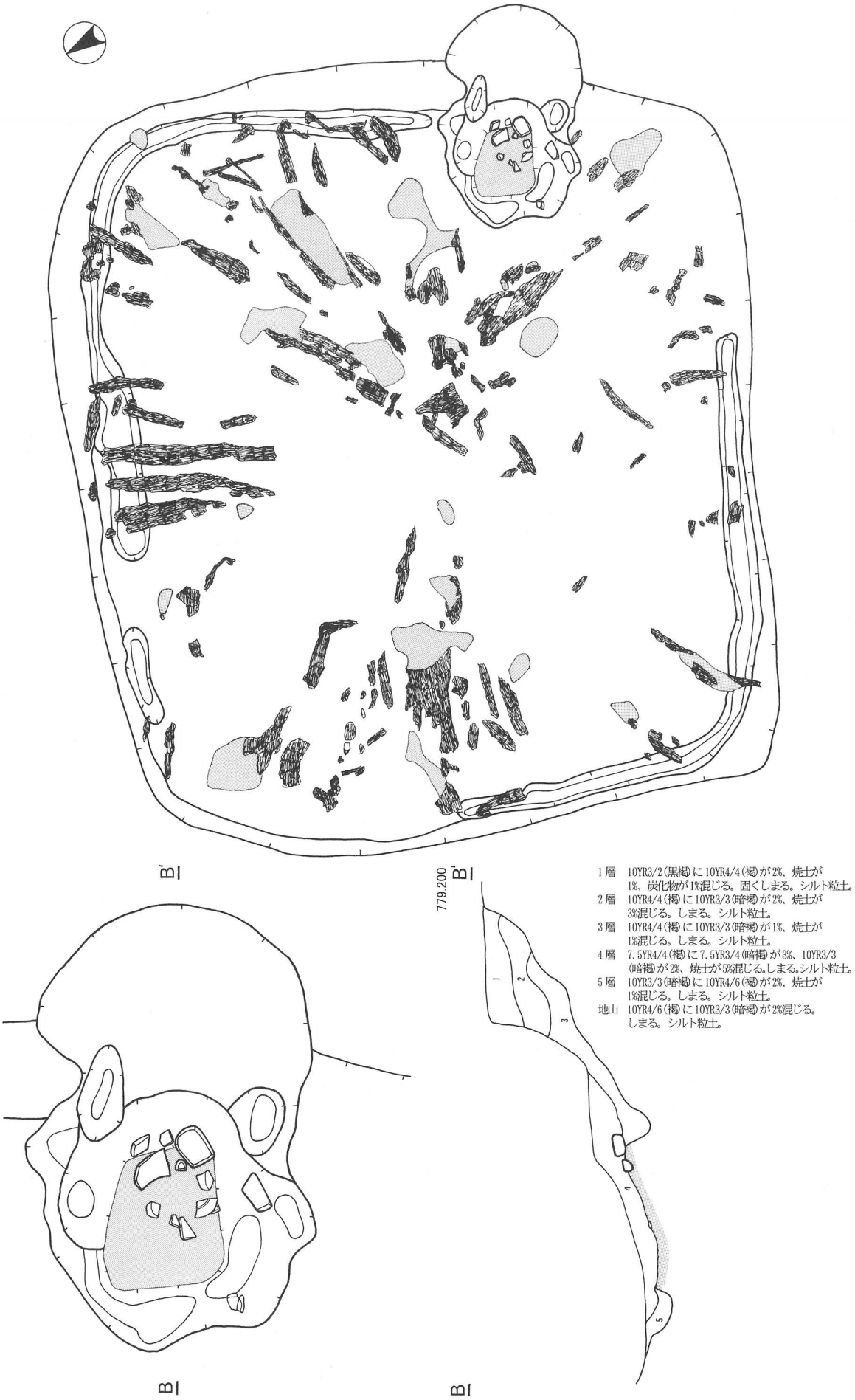
第10図　123号住居（1/40）　123号住居カマド（1/20）



第11図　123号住居カマド（1/20）　123号住居出土遺物（1/2、1は1/4）　124号住居（1/40）

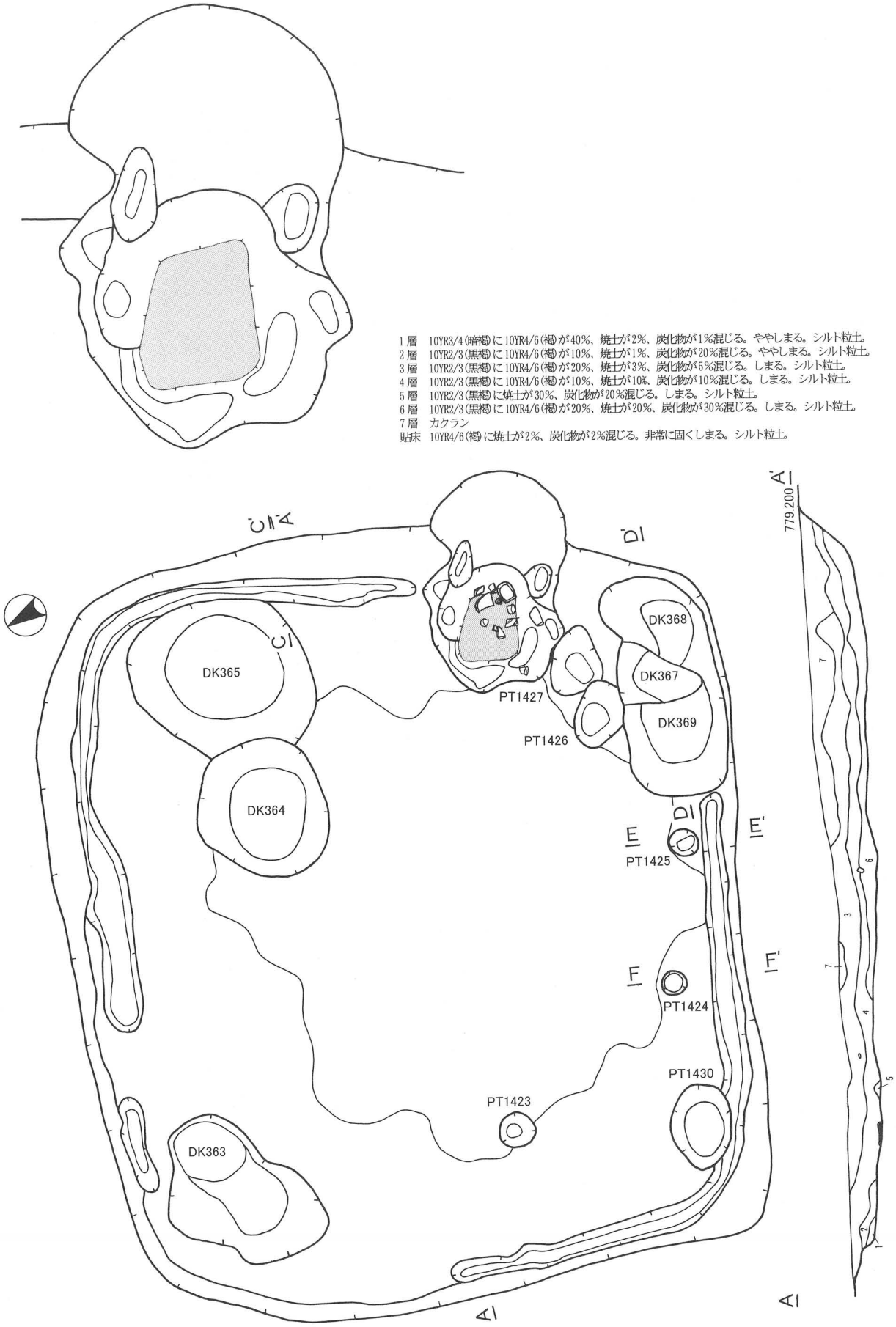


第12図　124号住居出土遺物（1/2）



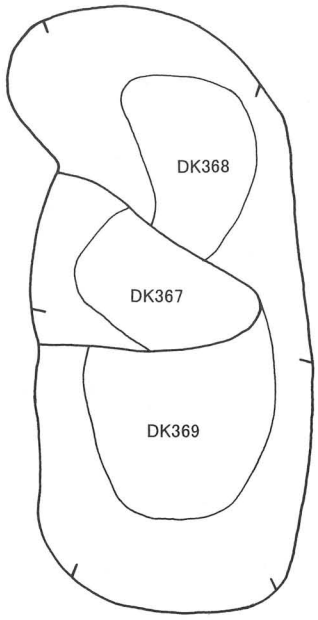
1層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が2%、焼土が1%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が2%、焼土が3%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が1%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　7.5YR4/4(褐)に7.5YR3/4(暗褐)が3%、10YR3/3(暗褐)が2%、焼土が5%混じる。しまる。シルト粒土。
5層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が2%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が2%混じる。しまる。シルト粒土。

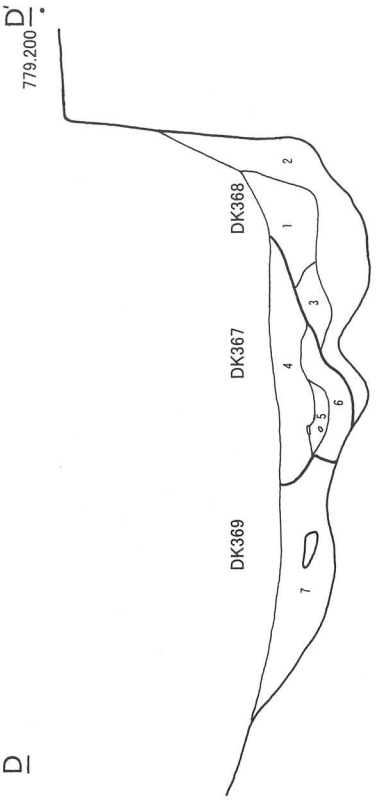
第13図　125号住居（1/40）　125号住居カマド（1/20）



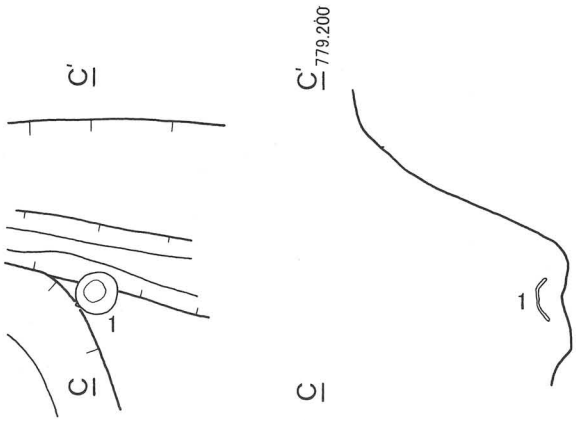
第14図　125号住居カマド（1/20）　125号住居（1/40）

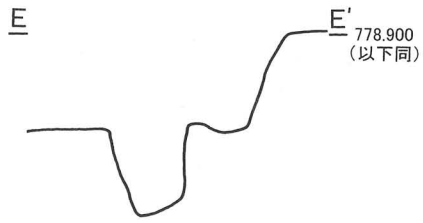
368・367・369 号土坑

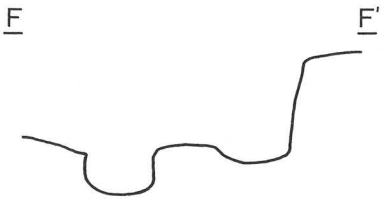


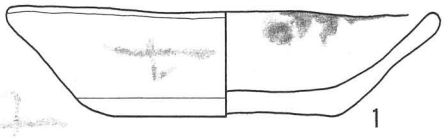


1 層　2.5YR4/6(赤褐)の焼土に10YR3/4(暗褐)が20%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2 層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が30%、焼土が5%、炭化物が3%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3 層　10YR3/4(暗褐)に焼土が30%、炭化物が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
4 層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%、焼土が3%、炭化物が2%混じる。ややしまる。シルト粒土。
5 層　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が5%、焼土が10%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
6 層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が20%、焼土が2%、炭化物が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
7 層　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、焼土が2%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が2%混じる。固くしまる。シルト粒土。

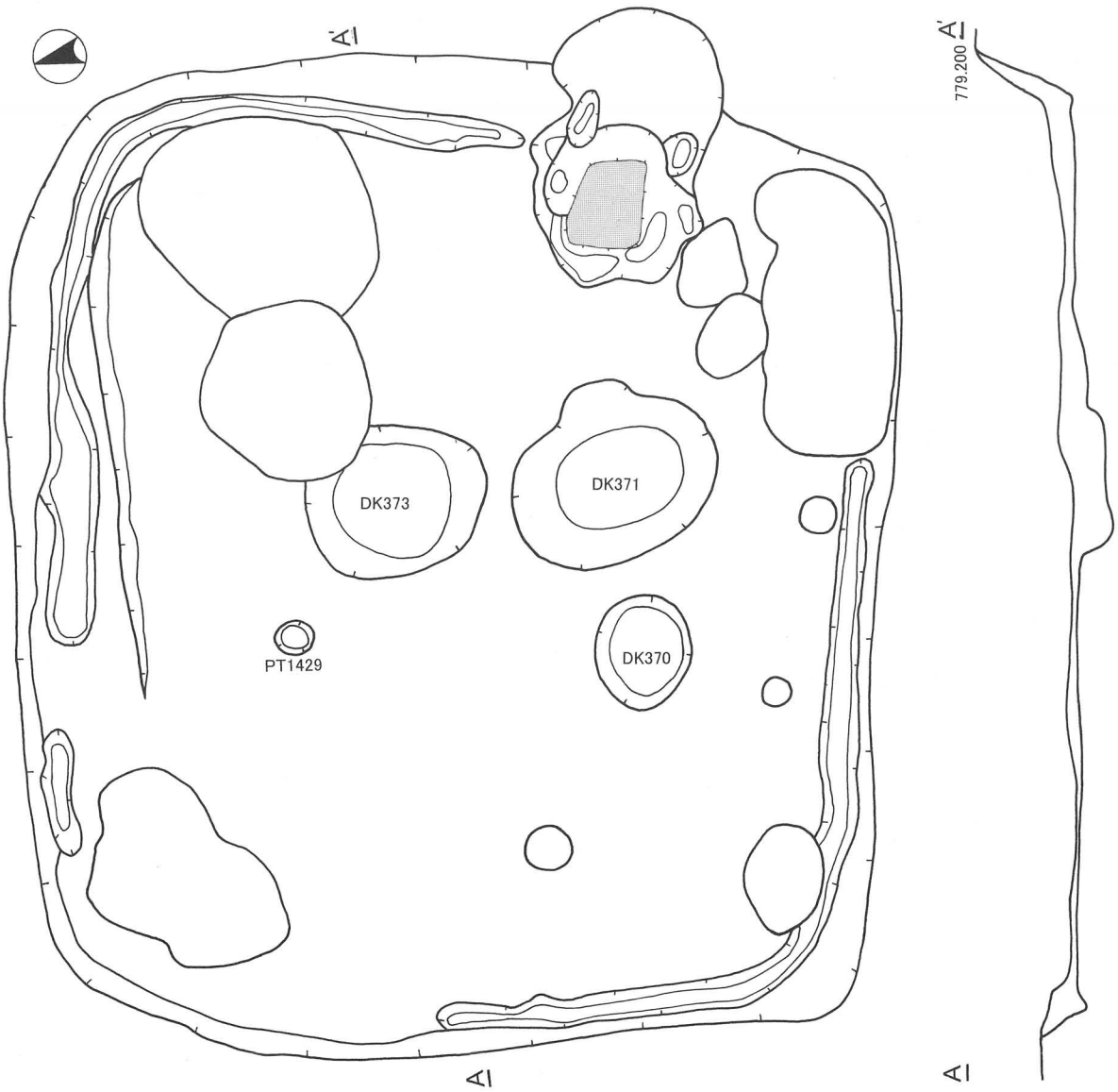




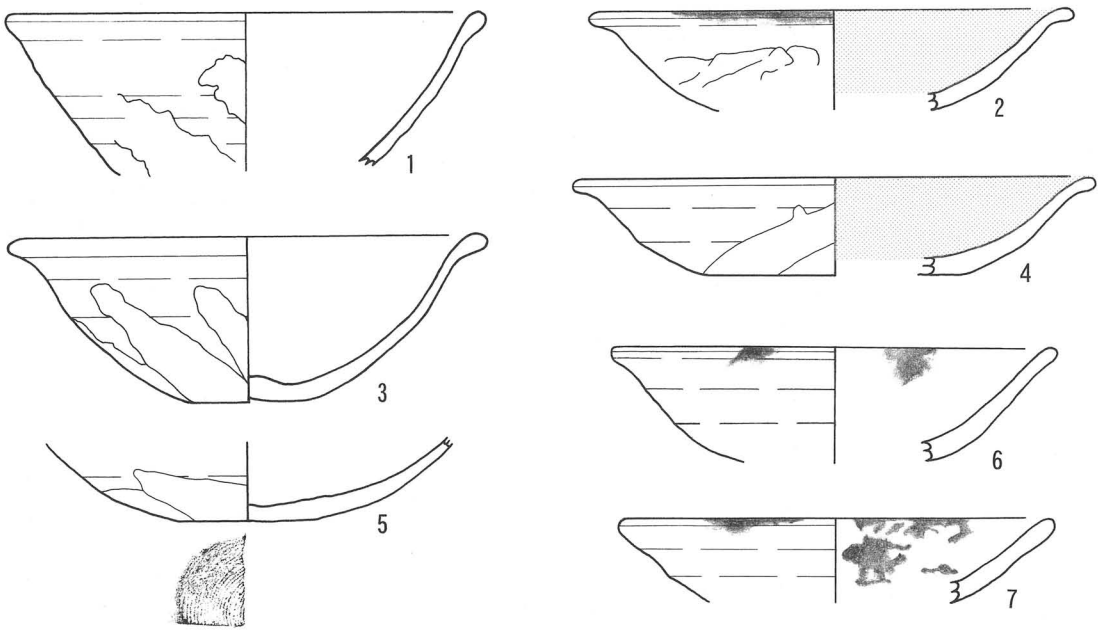




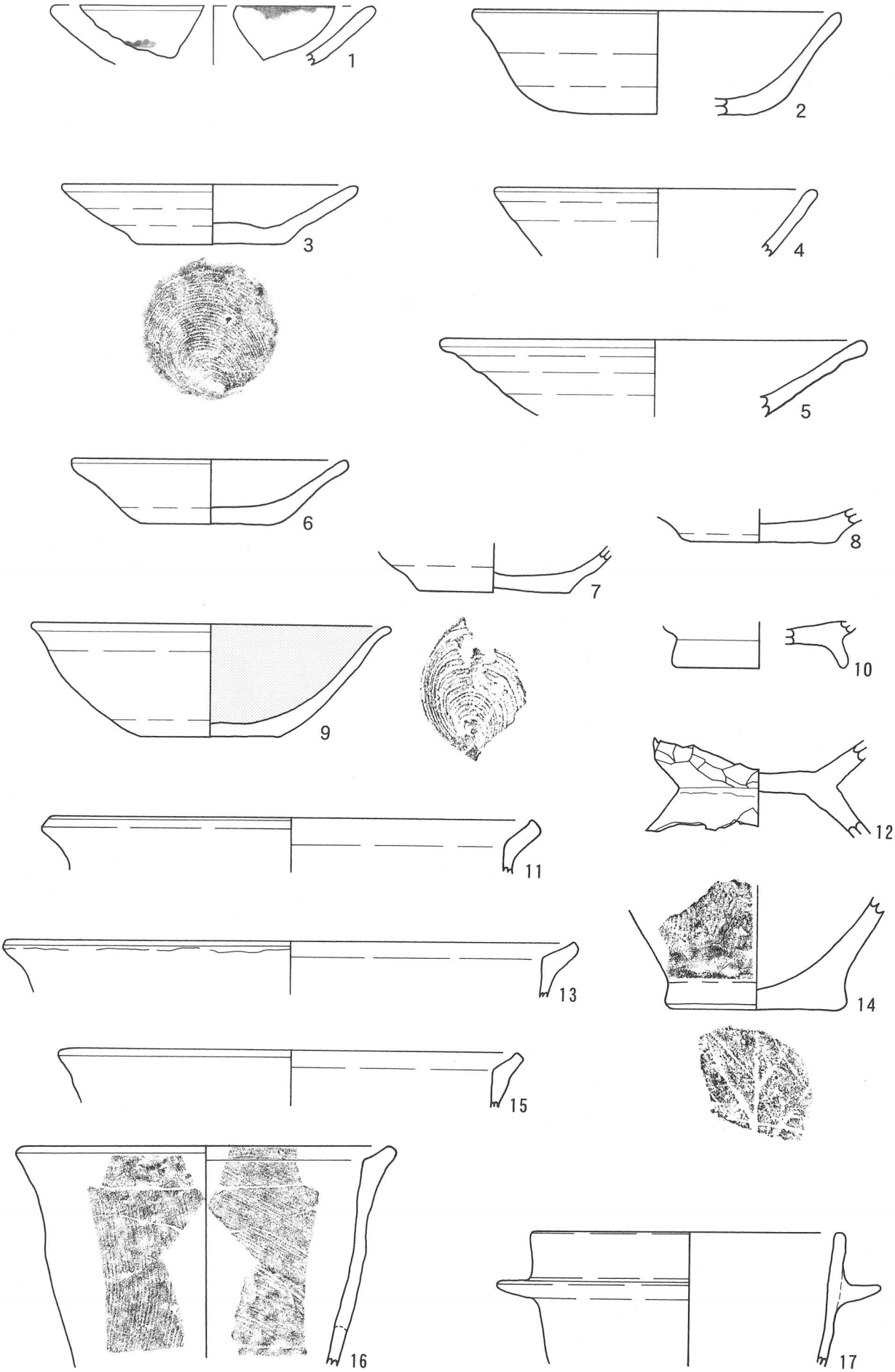
第15図　367～369号土坑（1/20）　125号住居出土遺物（1/2）



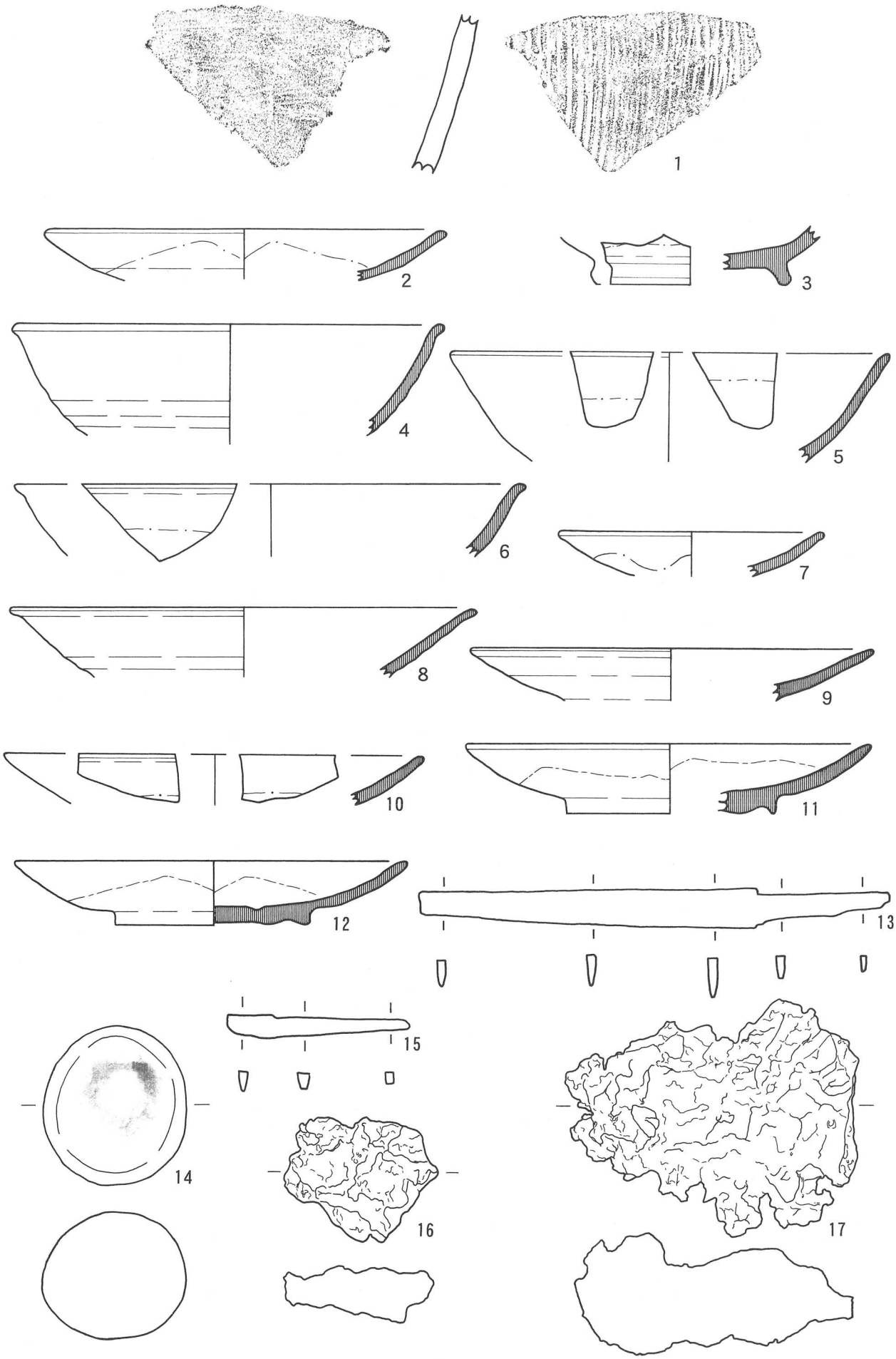
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が20%混じる。固くしまる。シルト粒土。



第16図　125号住居（1/40）および出土遺物（1/2）

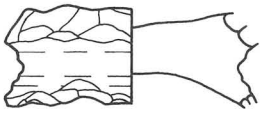


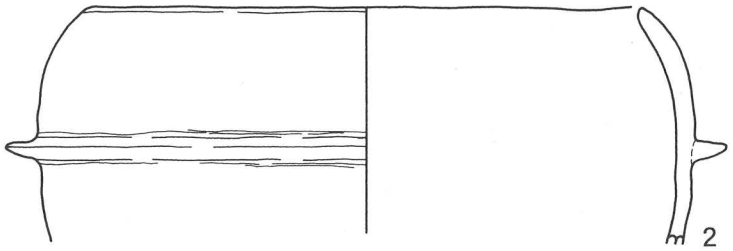
第17図　125号住居出土遺物（1/2、11、13、15～17は1/4）



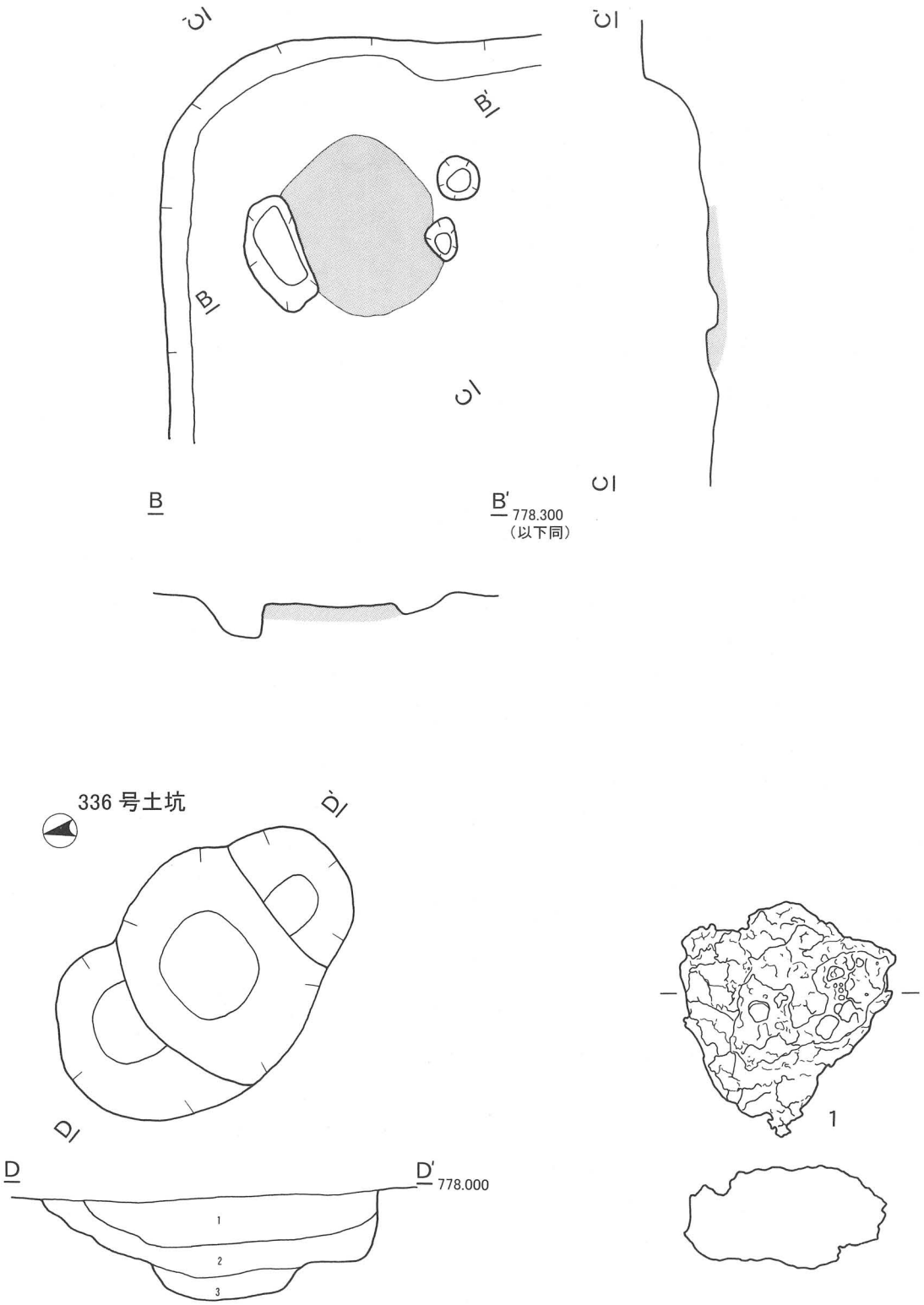
第18図　125号住居出土遺物（1/2）

1層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が40%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、焼土が2%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が50%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が20%、焼土が1%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が20%、焼土が1%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
6層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
7層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が20%混じる。しまる。シルト粒土。
貼床　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が30%混じる。しまる。シルト粒土。



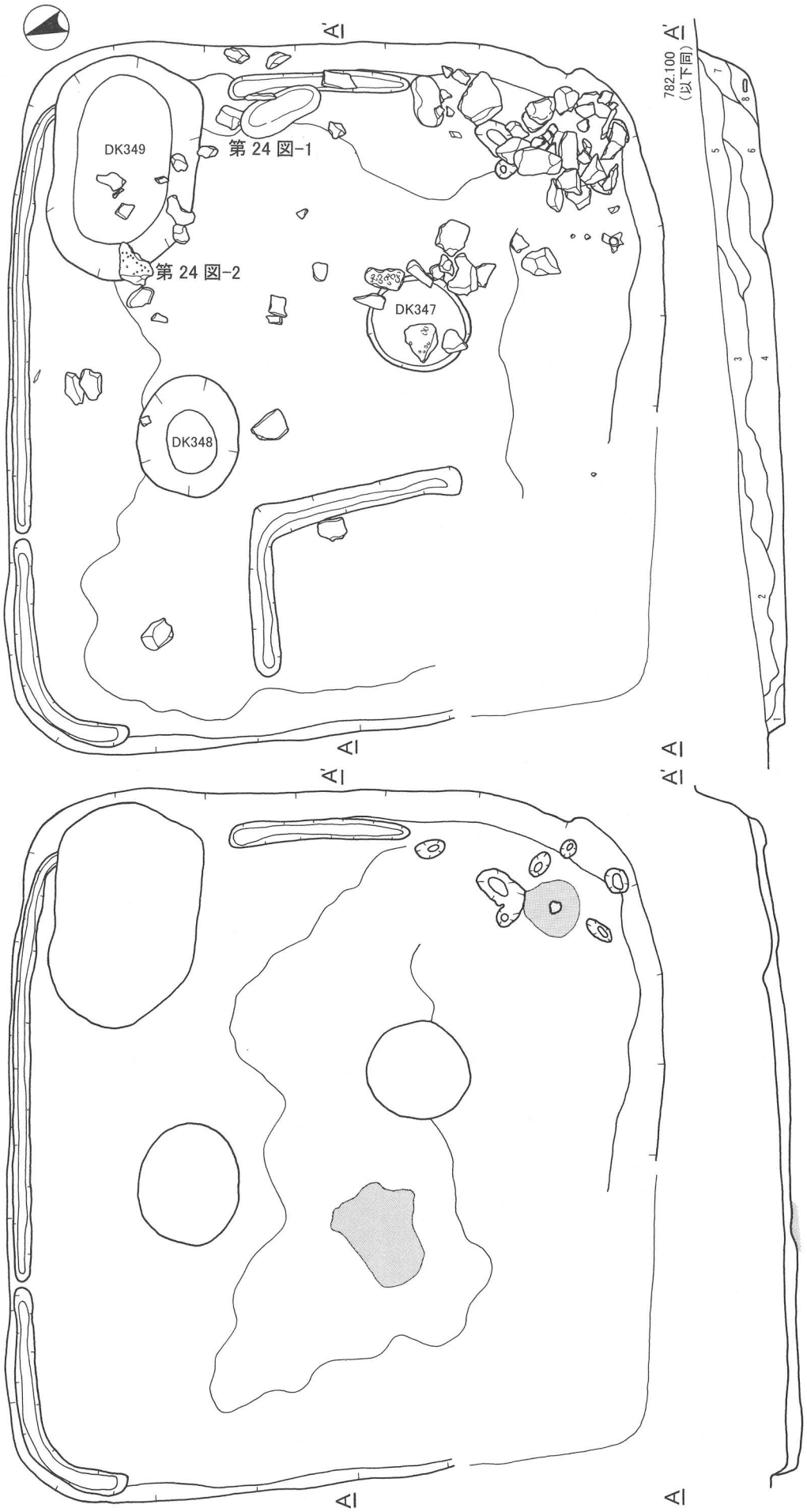


第19図　126号住居（1/40）および出土遺物（1/2、2は1/4）



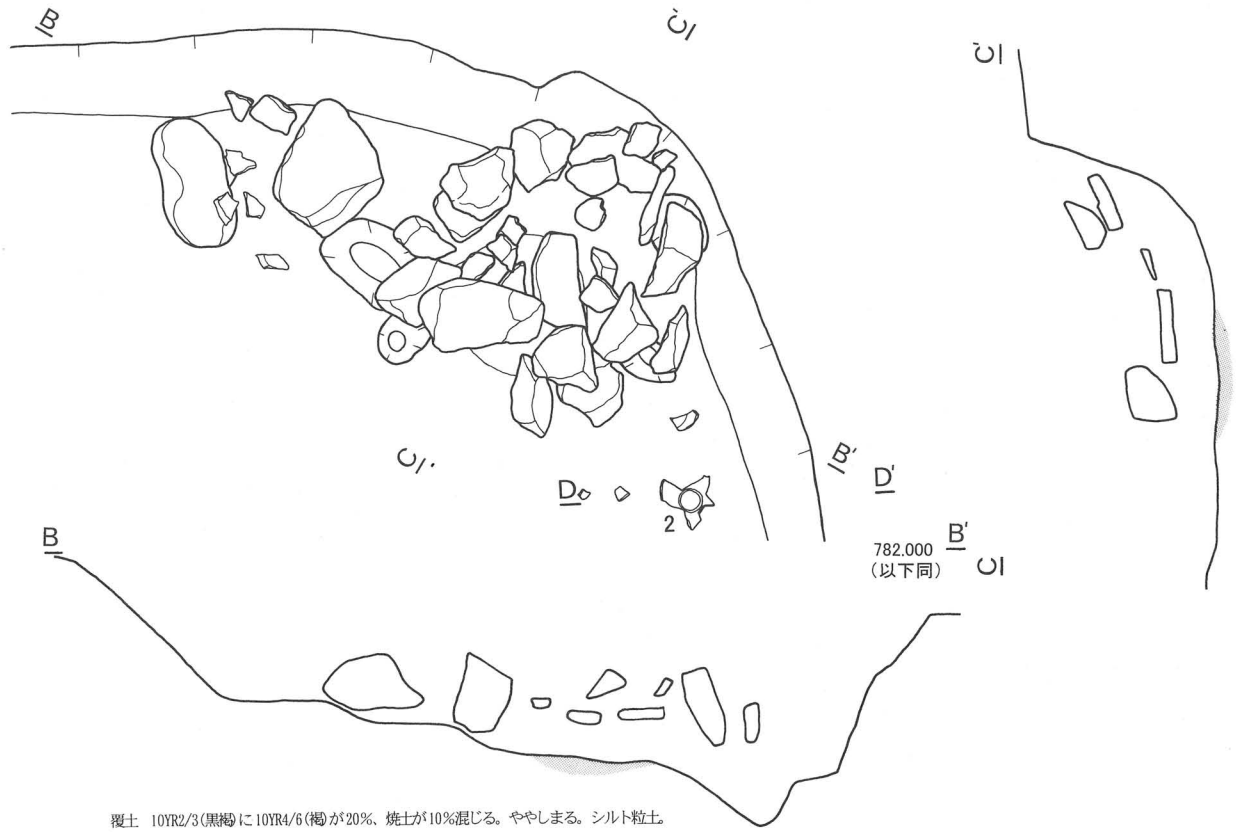
1 層　10YR2/3（黒褐）に10YR3/4（暗褐）が5%、10YR4/6（褐）が2%、焼土が2%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土
2 層　10YR4/4（褐）に10YR3/4（暗褐）が10%、10YR4/6（褐）が3%、焼土が直径3㎝大のブロック状で2%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
3 層　10YR3/3（暗褐）に10YR4/6（褐）が2%、焼土が1%、炭化物が25%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6（褐）に10YR3/3（暗褐）が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。

第20図　126号住居カマド（1/20）　336号土坑（1/20）　126号住居出土遺物（1/2）

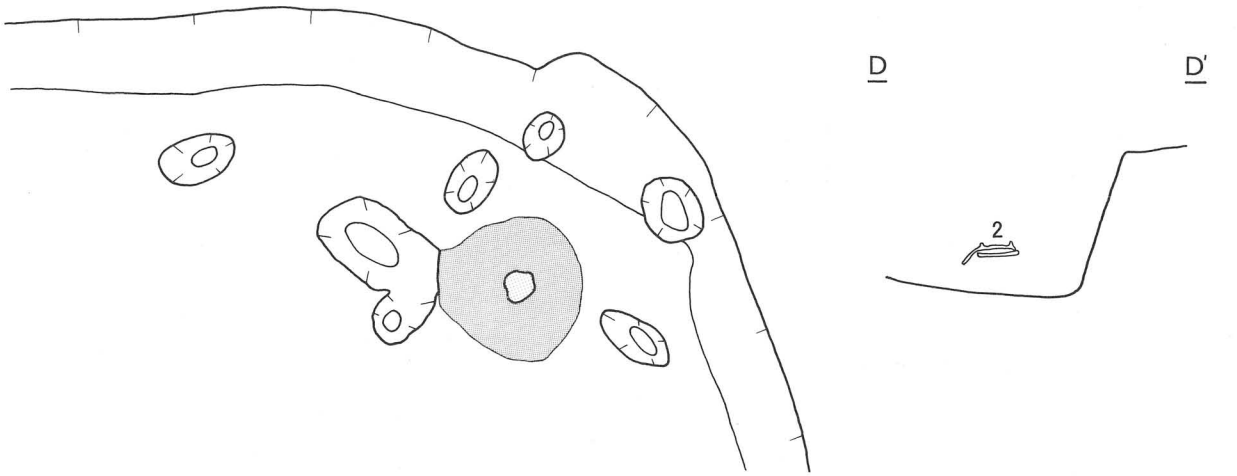


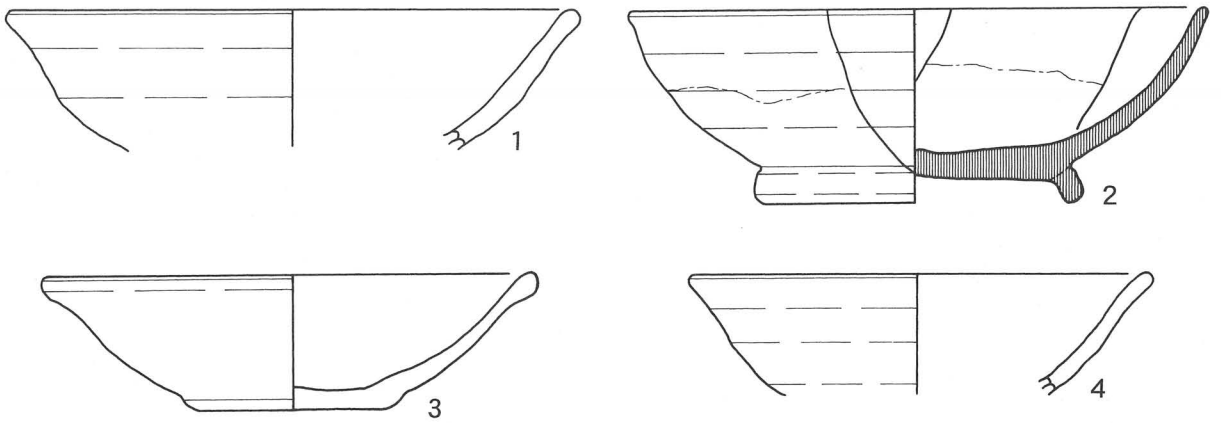
1 層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が20%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
2 層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が20%、10YR4/6(褐)が5%、焼土が2%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
3 層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が30%、10YR4/6(褐)が10%、焼土・炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
4 層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が20%、10YR2/2(黒褐)が5%、焼土・炭化物が5%混じる。しまる。シルト粒土。
5 層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%、10YR2/2(黒褐)が10%、焼土が3%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
6 層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が20%、焼土が7%、炭化物が5%混じる。しまる。シルト粒土。
7 層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が30%、焼土・炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
8 層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が40%、焼土・炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
貼床　10YR4/6(褐)に焼土・炭化物が2%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)、固くしまる。シルト粒土。

第21図　127号住居（1/40）

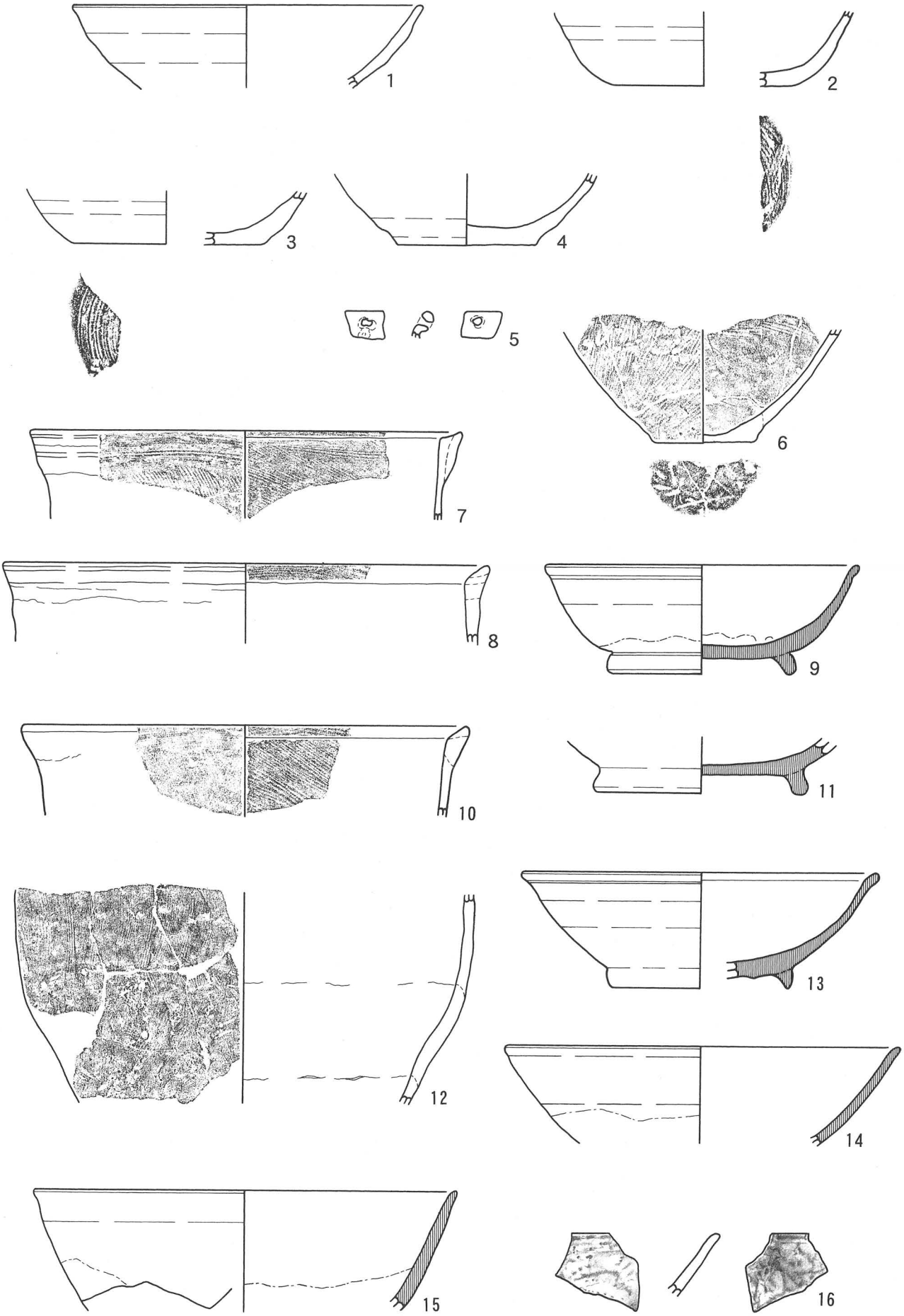


覆土　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が20%、焼土が10%混じる。ややしまる。シルト粒土。



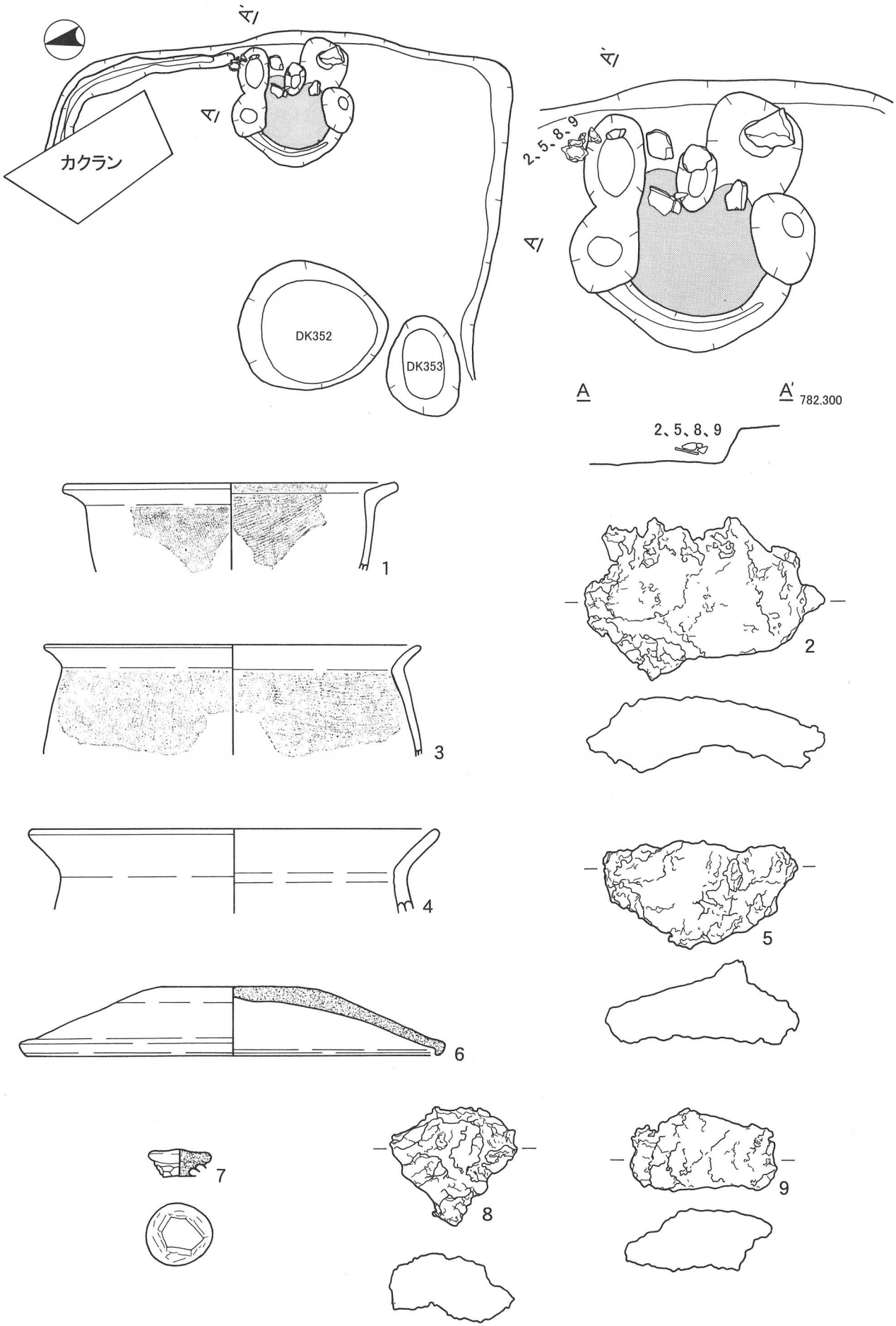


第22図　127号住居カマド（1/20）　127号住居出土遺物（1/2）

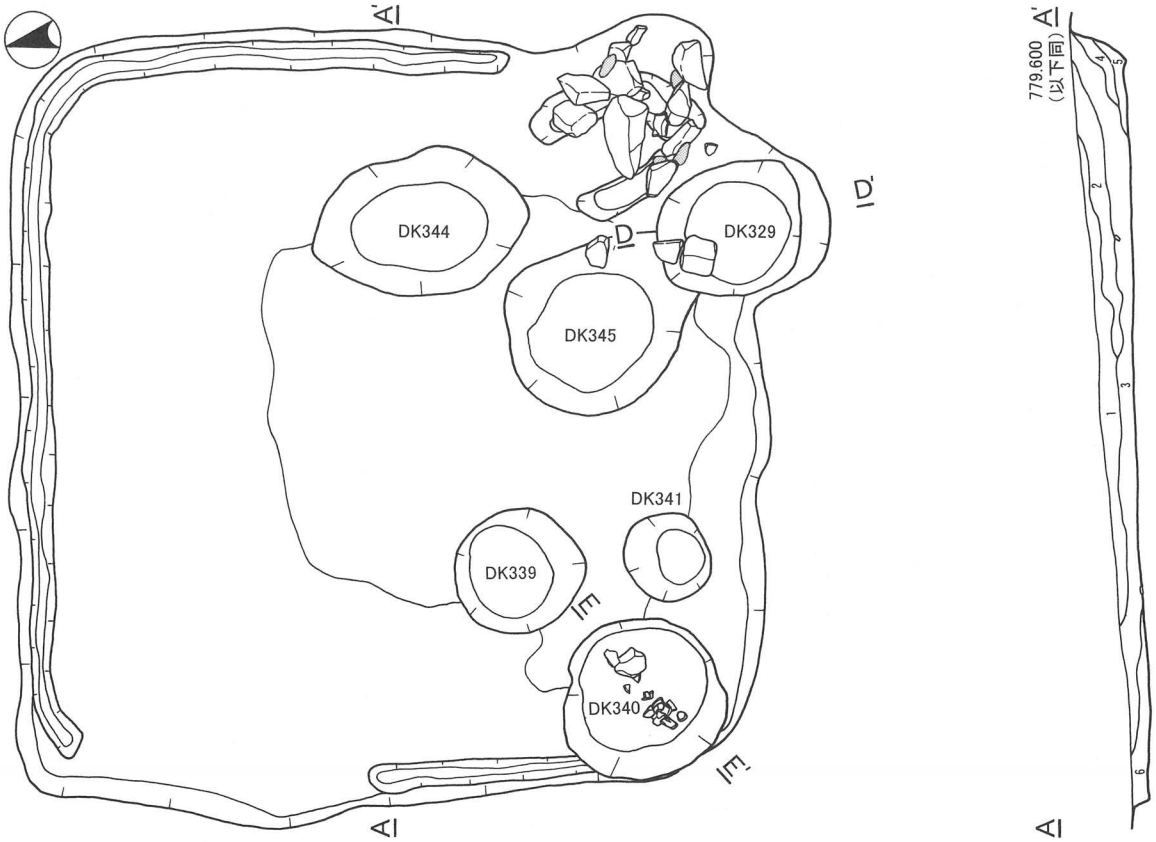


第23図　127号住居出土遺物（1/2、6～8、10、12は1/4）

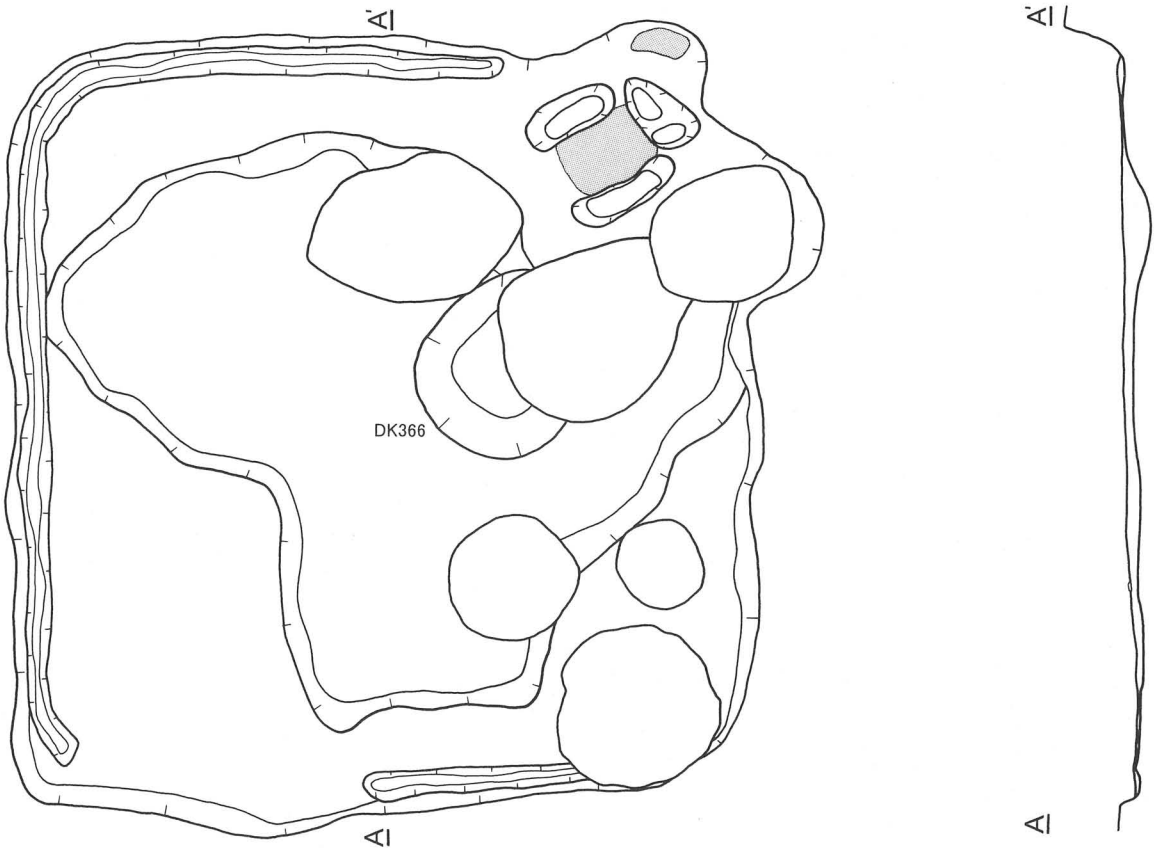
第24図　127号住居出土遺物（1/2、1、2は1/4）



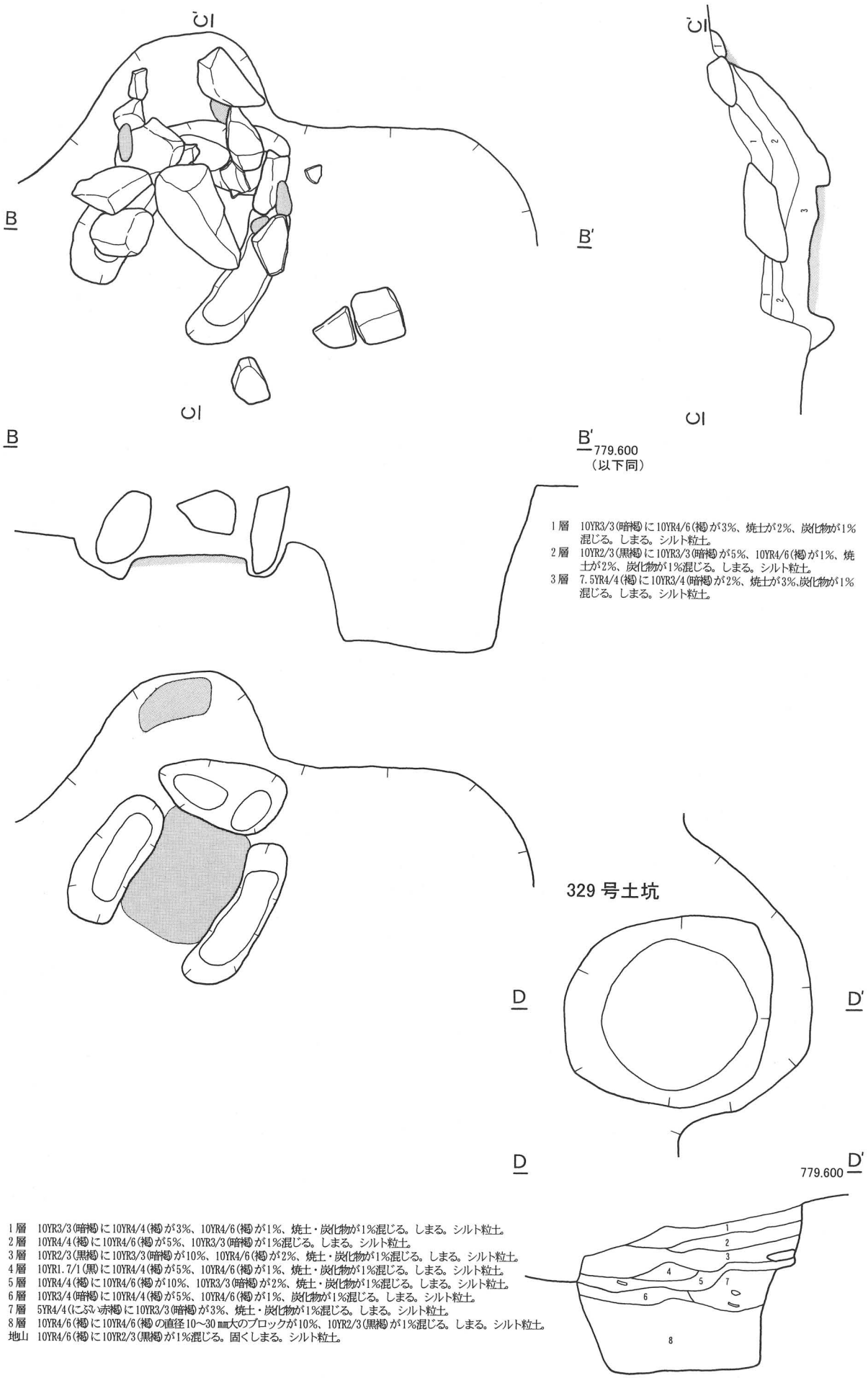
第25図　128号住居（1/40）　128号住居カマド（1/20）　128号住居出土遺物（1/2、1・3は1/4）



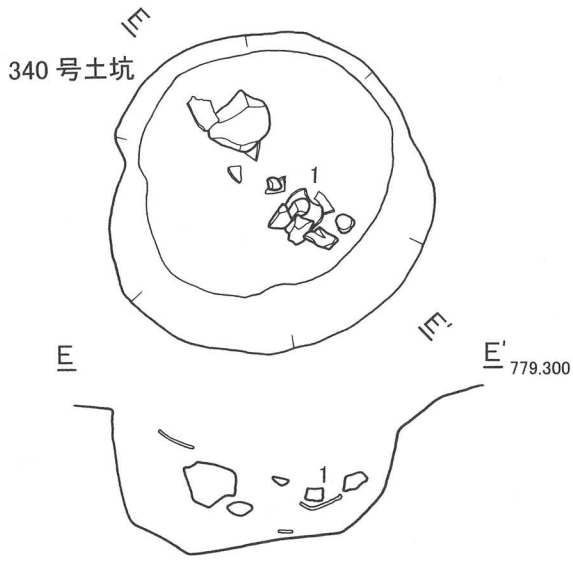
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が2%、焼土・炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が3%、10YR4/6(褐)が2%、焼土・炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が5%、10YR4/6(褐)が3%、焼土が2%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
4層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が2%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
5層　10YR4/6(褐)に10YR4/4(褐)が2%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
6層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が3%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
貼床　10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が1%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に10YR4/4(褐)が2%、10YR3/3(暗褐)が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。



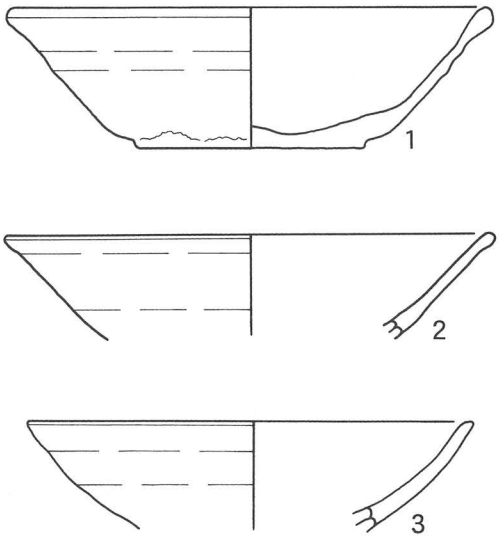
第26図　129号住居（1/40）

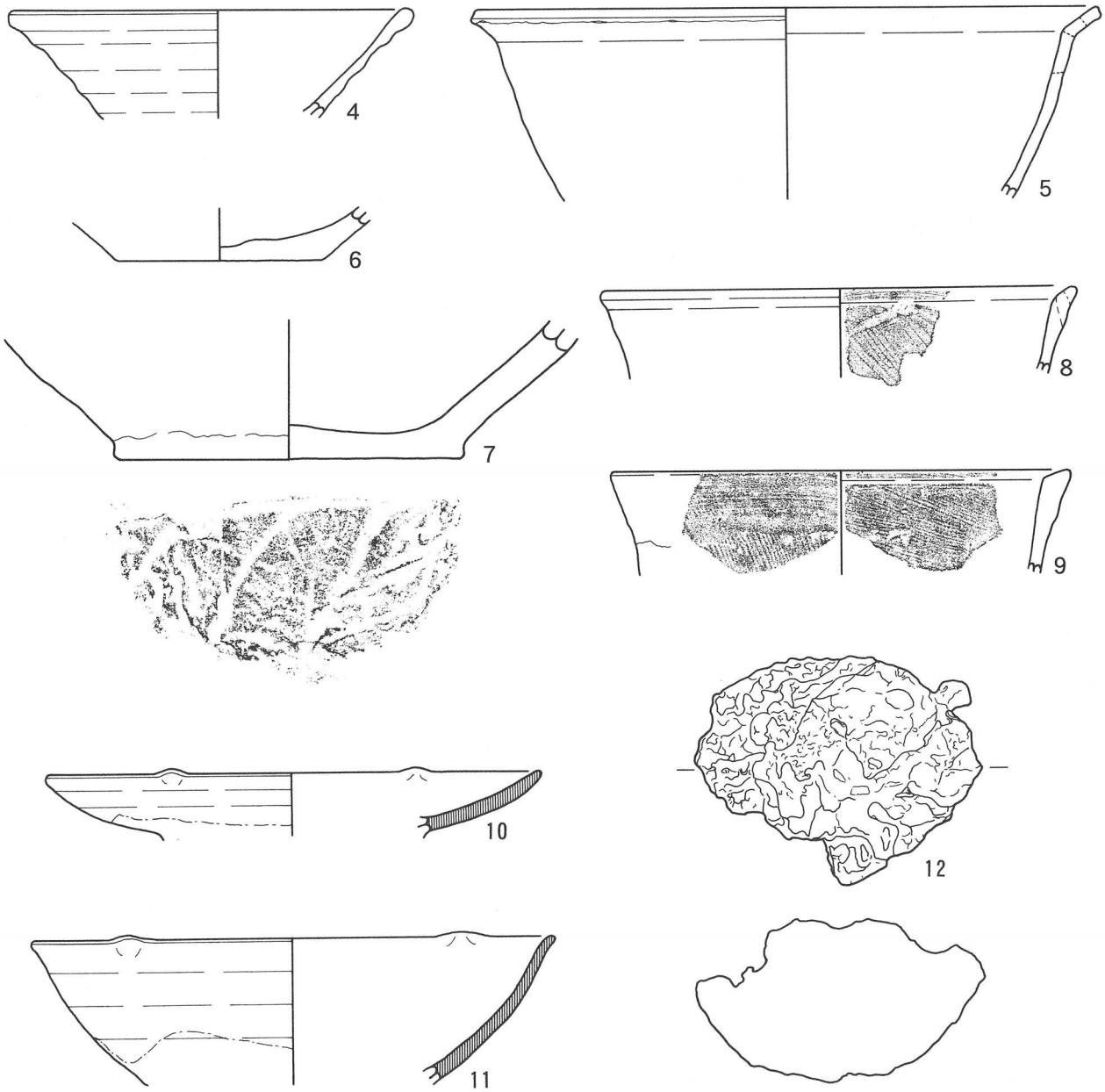


第27図　129号住居カマド（1/20）　329号土坑（1/20）

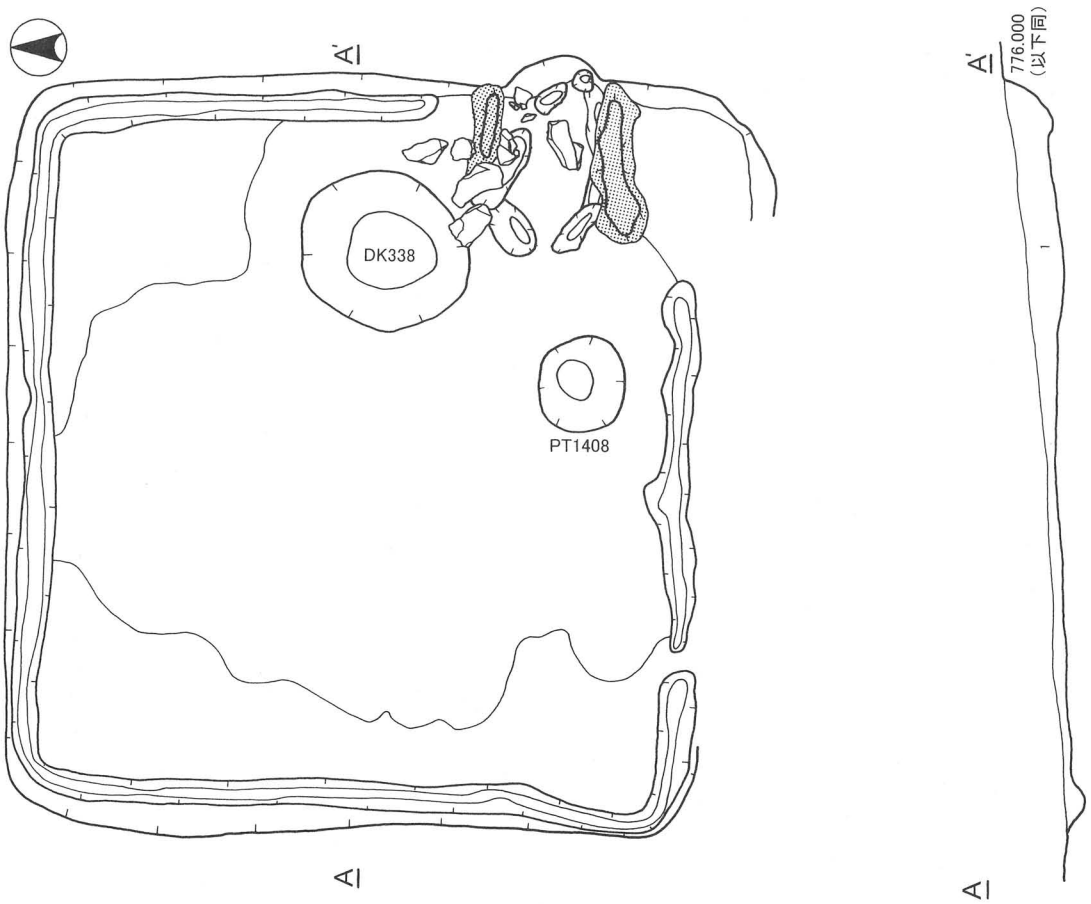


覆土　10YR3/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、焼土が2%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。

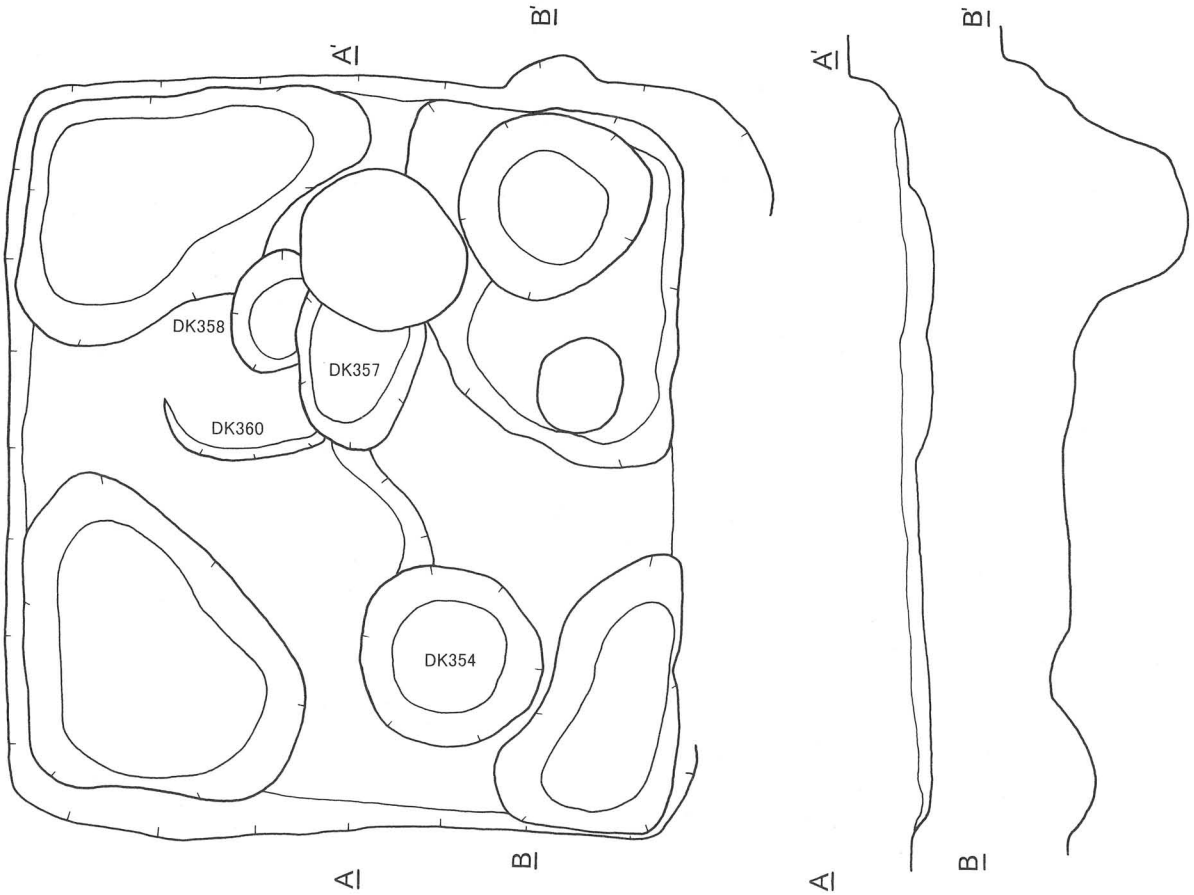




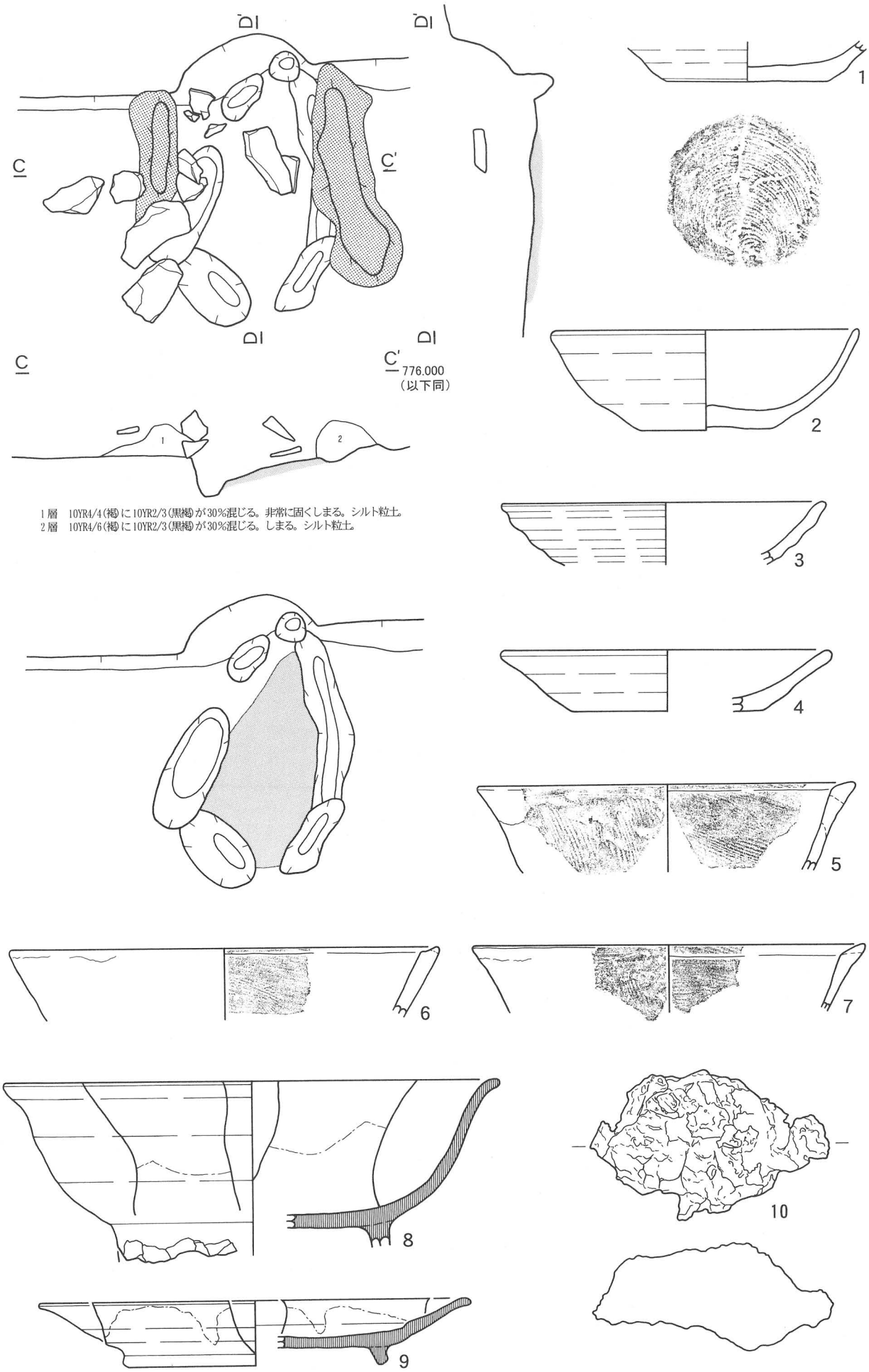
第28図　340号土坑（1/20）　129号住居出土遺物（1/2、5、8、9は1/4）



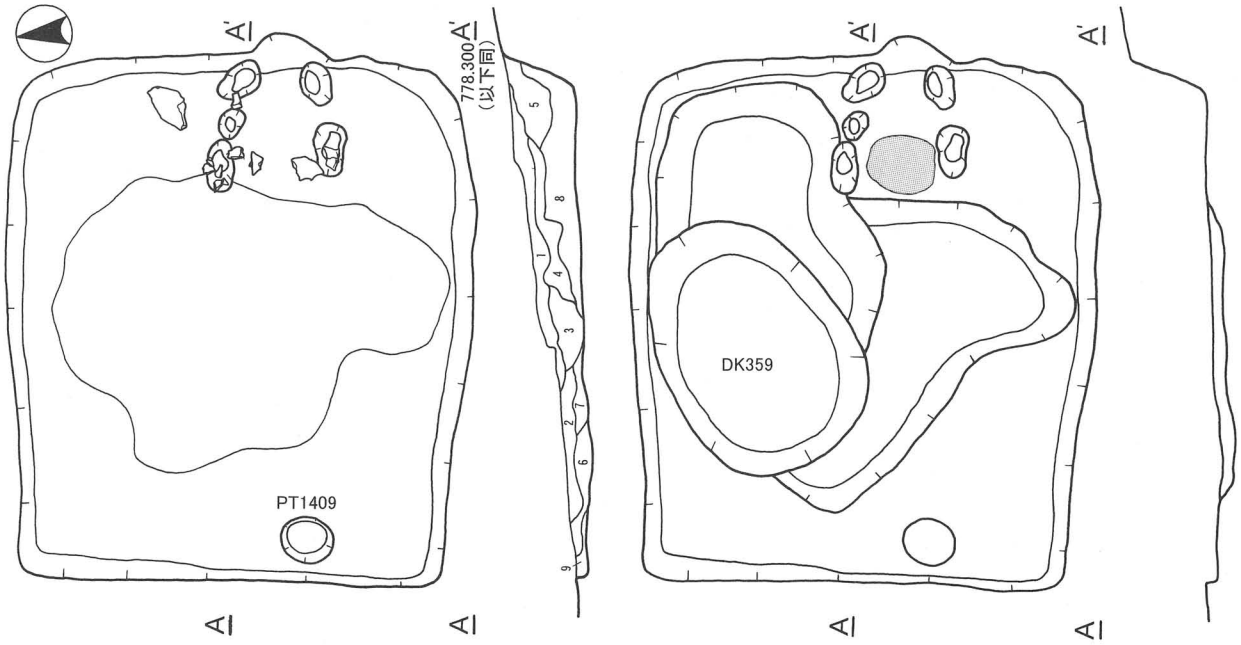
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が10%、10YR2/2(黒褐)が7%、焼土が3%、炭化物が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
貼床　10YR3/4(暗褐)に10YR3/1(黒褐)が1%、焼土が1%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。



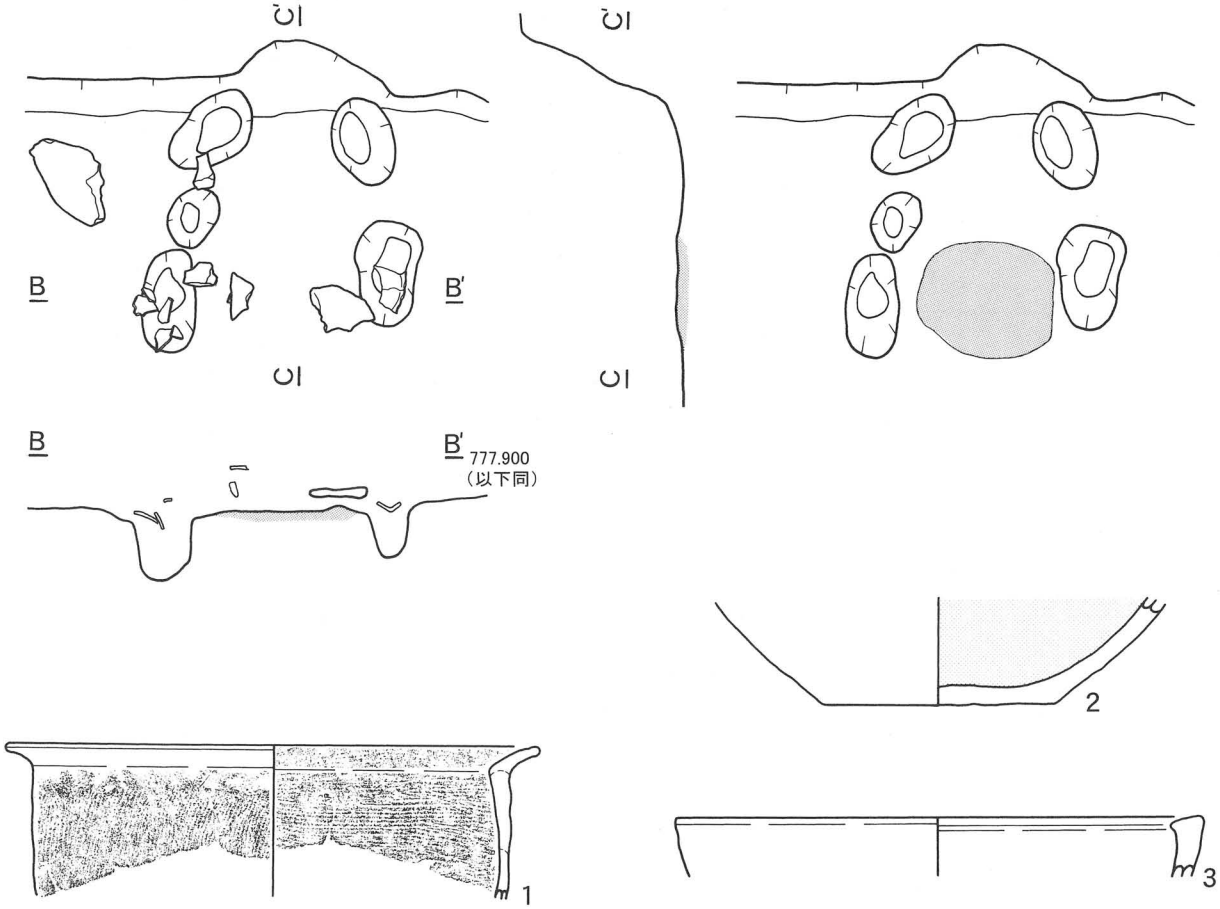
第29図　130号住居（1/40）



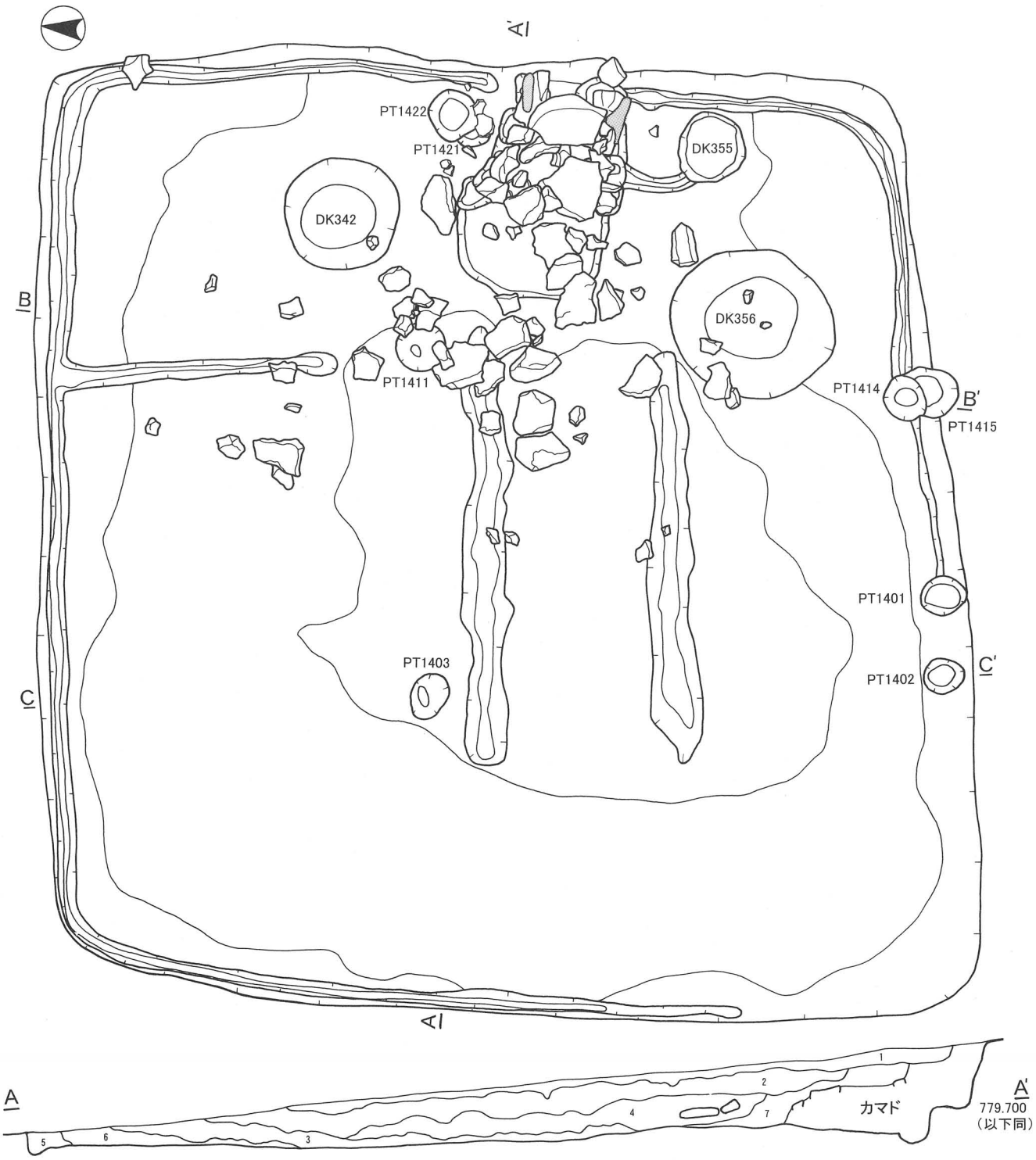
第30図　130号住居カマド（1/20）　130号住居出土遺物（1/2、5、6、7は1/4）



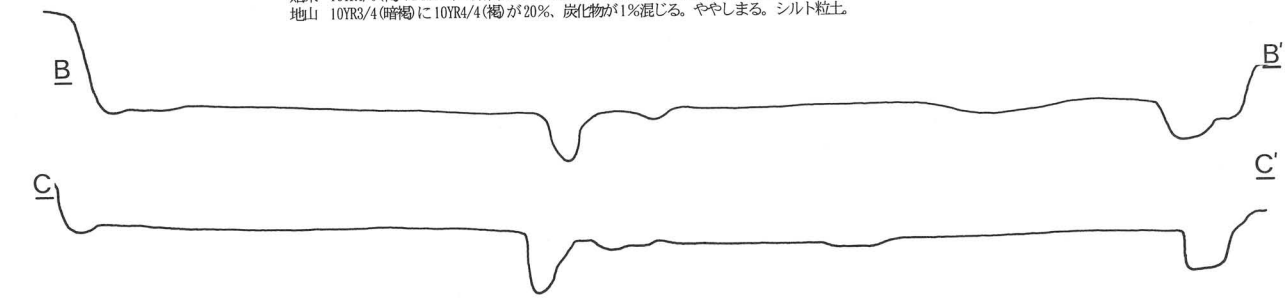
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が25%、10YR2/2(黒褐)が7%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が25%、10YR1.7/1(黒)が20%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が3%、10YR2/1(黒)が5%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が15%、10YR4/4(褐)が3%、10YR1.7/1(黒)が10%混じる。しまる。シルト粒土。
5層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が10%、10YR4/4(褐)が10%混じる。ややしまる。シルト粒土。
6層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR1.7/1(黒)が5%混じる。しまる。シルト粒土。
7層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が5%、10YR2/1(黒)が5%混じる。しまる。シルト粒土。
8層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)が30%、10YR2/1(黒)が3%、焼土が2%混じる。固くしまる。シルト粒土。
9層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が10%混じる。しまる。シルト粒土。
貼床　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が15%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に10YR2/3(黒褐)が10%混じる。しまる。シルト粒土。



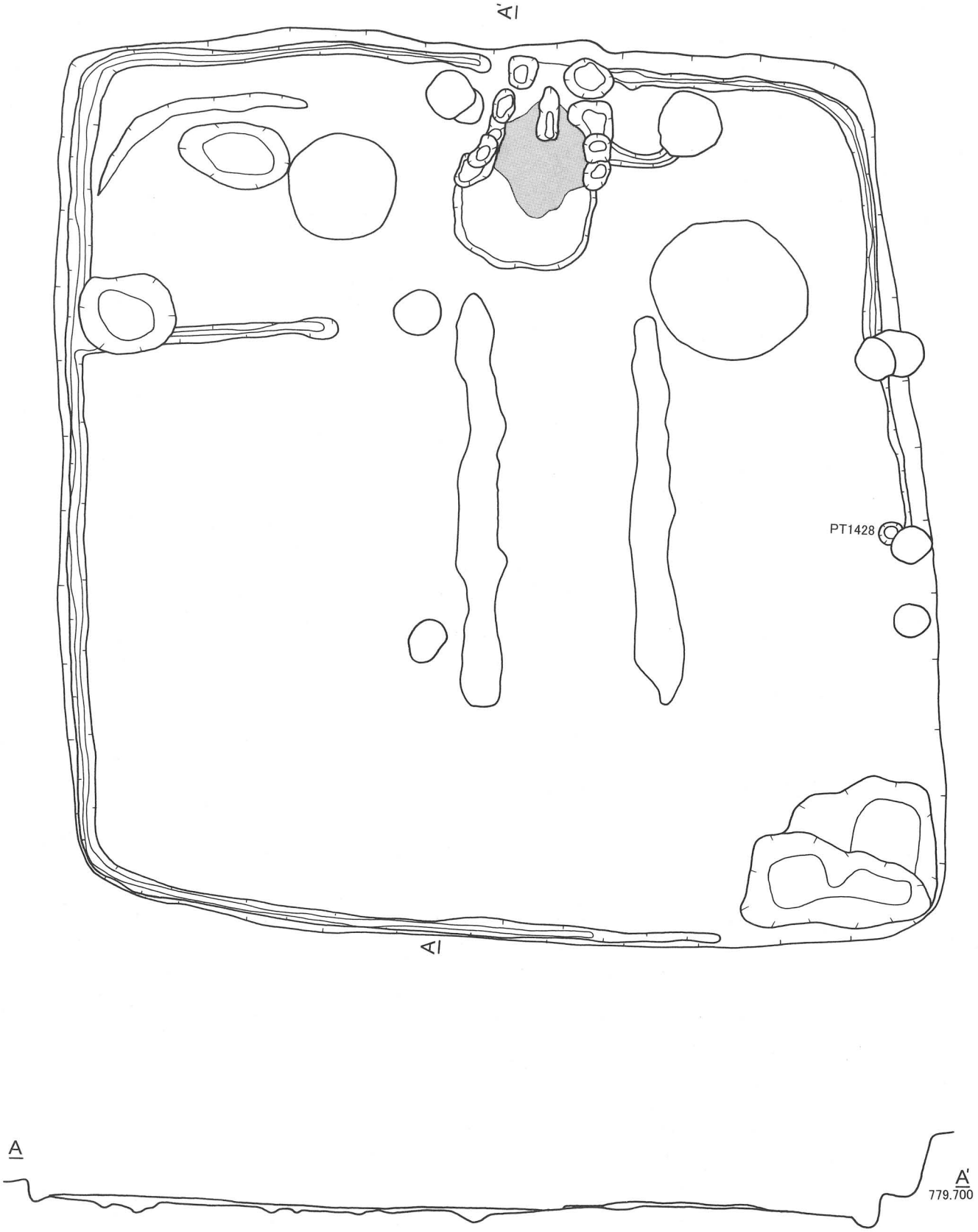
第31図　131号住居（1/40）　131号住居カマド（1/20）　131号住居出土遺物（1/2、1、3は1/4）



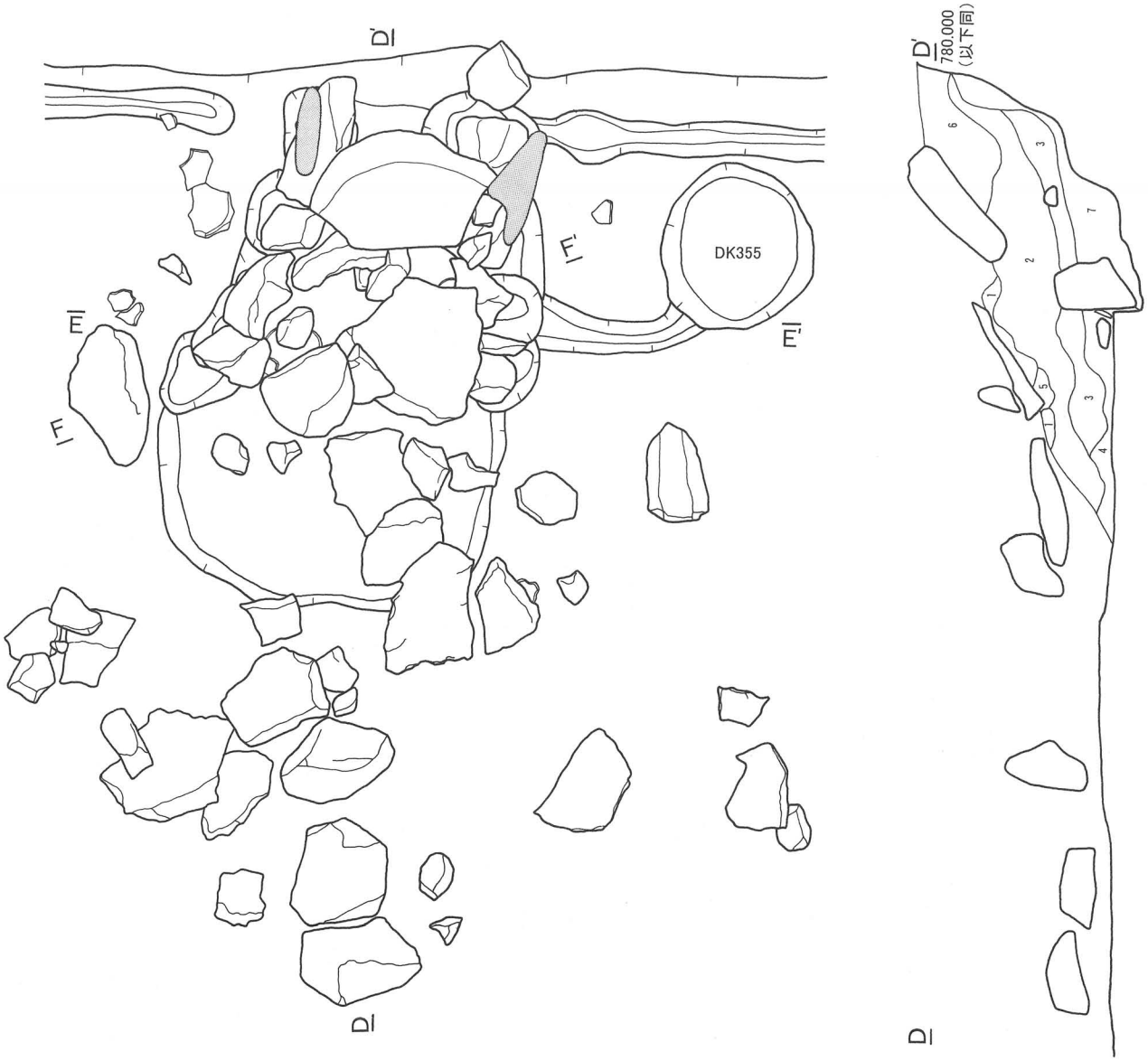
1 層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が10%、10YR4/4(褐)が3%、焼土が1%混じる。固くしまる。シルト粒土。
2 層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が2%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
3 層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が15%混じる。ややしまる。シルト粒土。
4 層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、焼土が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
5 層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。
6 層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が5%、10YR4/6(褐)が7%混じる。ややしまる。シルト粒土。
7 層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が10%、10YR2/2(黒褐)が5%混じる。焼土が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
貼床　10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が30%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、炭化物が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。

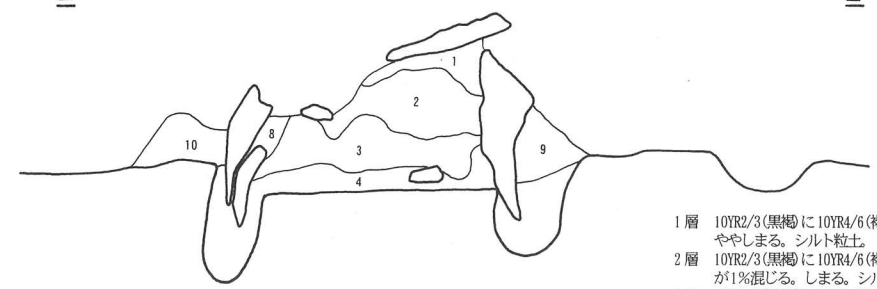


第32図　132号住居（1/40）



第33図　132号住居（1/40）

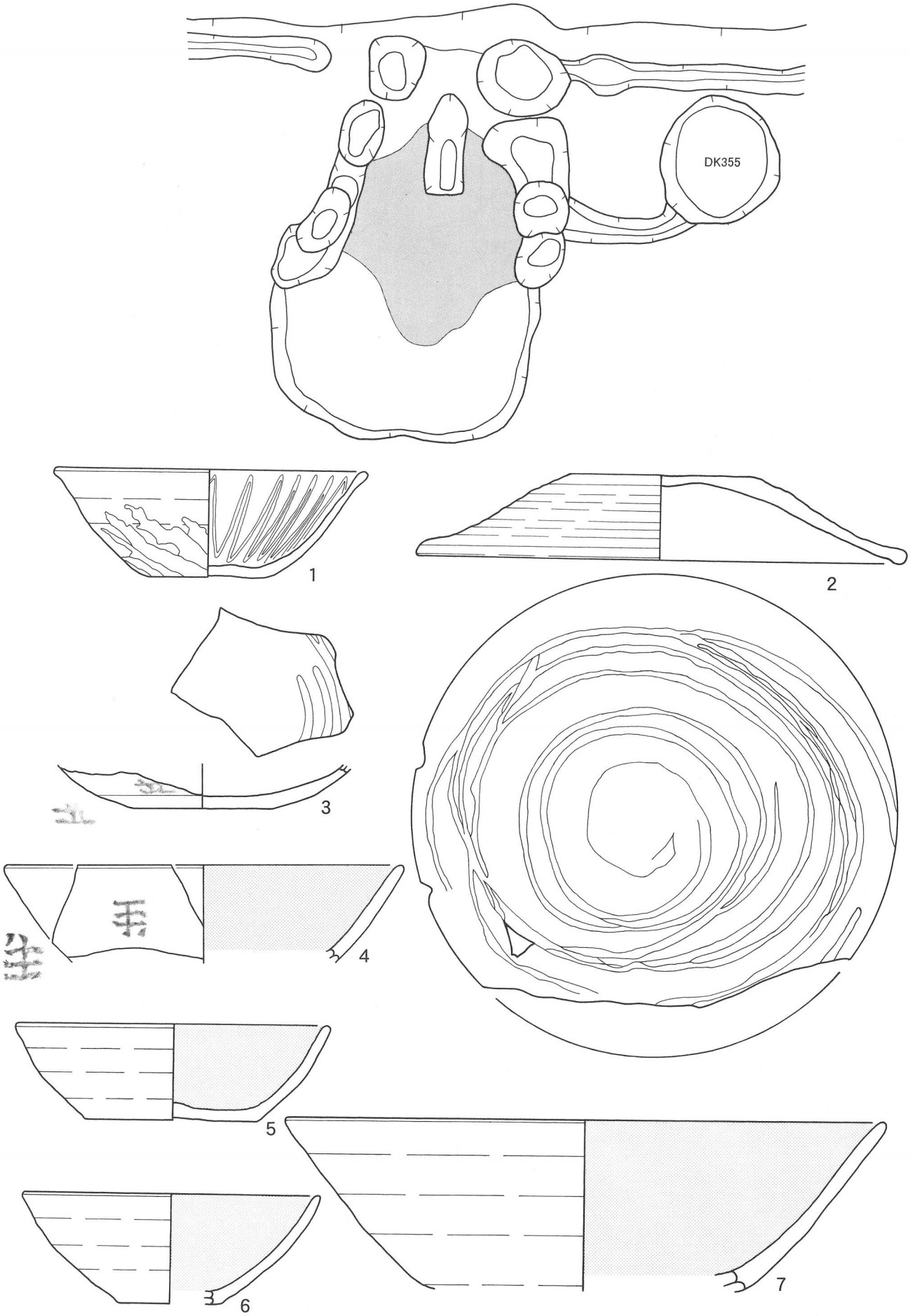




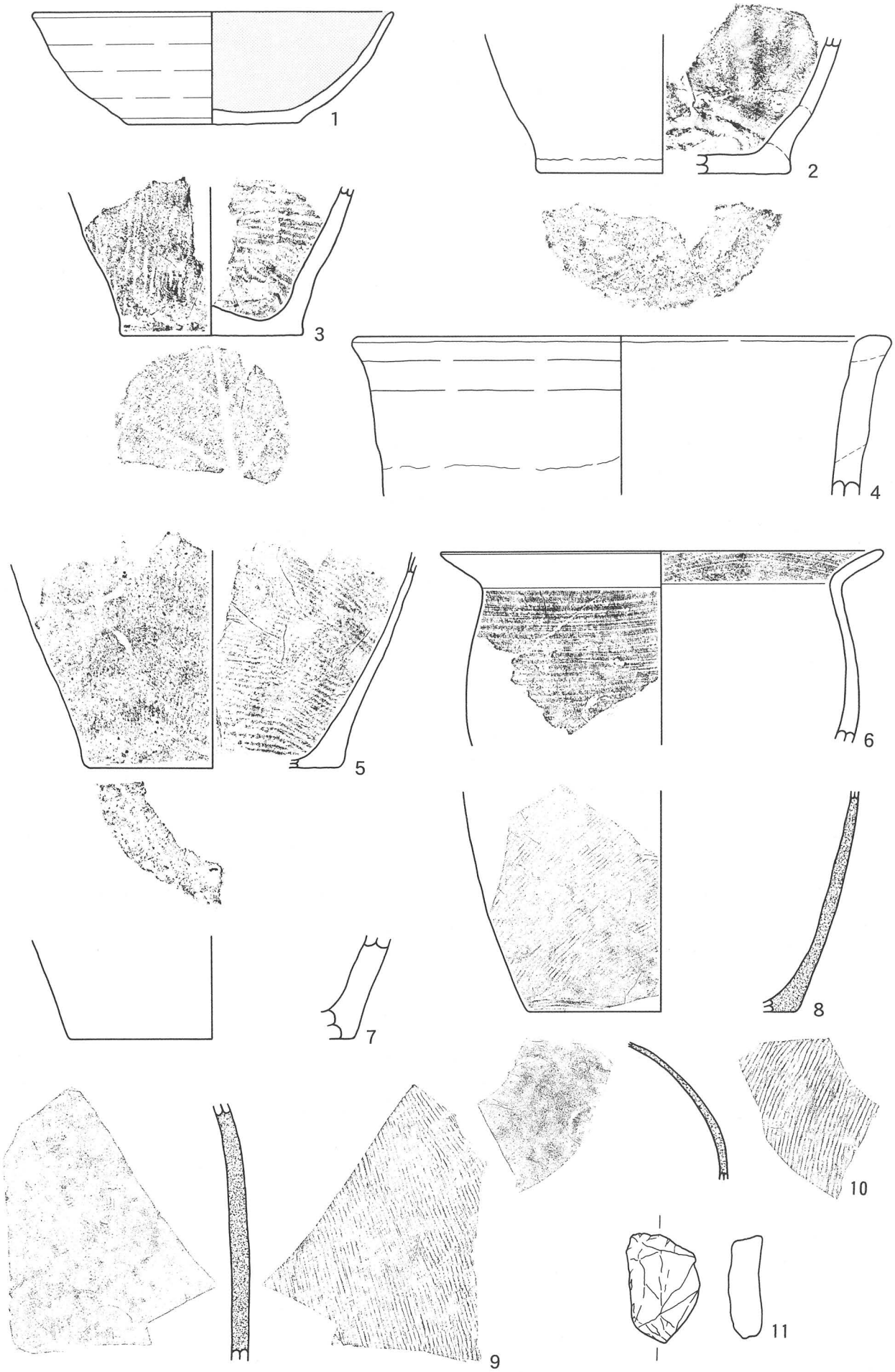
1 層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が3%、10YR2/2(黒褐)が2%、焼土が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2 層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が5%、10YR2/2(黒褐)が2%混じる。焼土・炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
3 層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が7%、10YR2/2(黒褐)が1%、焼土が5%混じる。しまる。シルト粒土。
4 層　10YR3/3(暗褐)に焼土が30%混じる。しまる。シルト粒土。
5 層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が3%混じる。ややしまる。シルト粒土。
6 層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%、10YR2/2(黒褐)が5%混じる。固くしまる。シルト粒土。
7 層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が40%混じる。ややしまる。シルト粒土。
8 層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が3%混じる。ややしまる。シルト粒土。
9 層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%、焼土が10%混じる。しまる。シルト粒土。
10 層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が5%、10YR4/6(褐)が5%、焼土が15%混じる。しまる。シルト粒土。

第 35 図-2　第 35 図-1

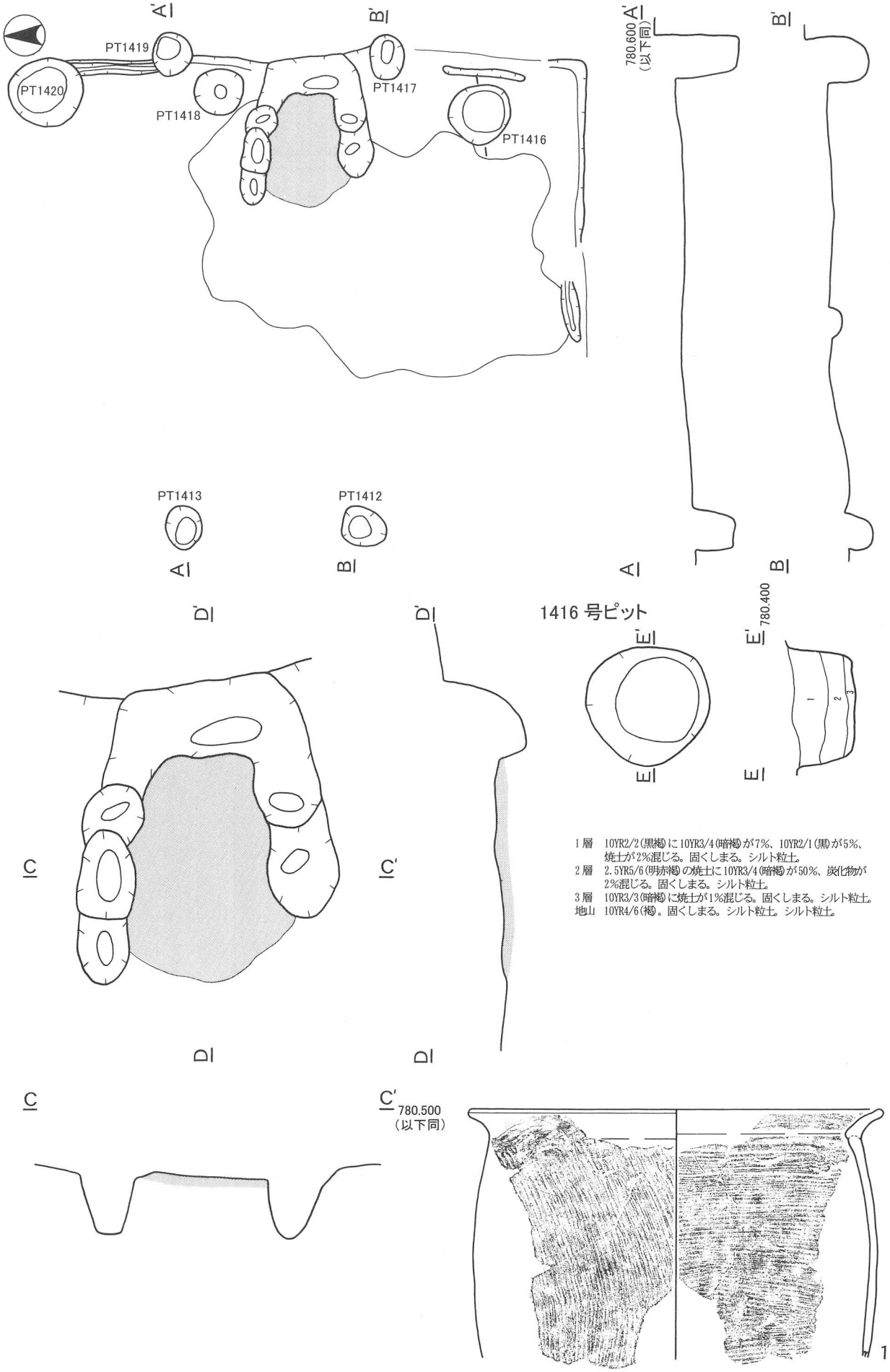
第34図　132号住居カマド（1/20）



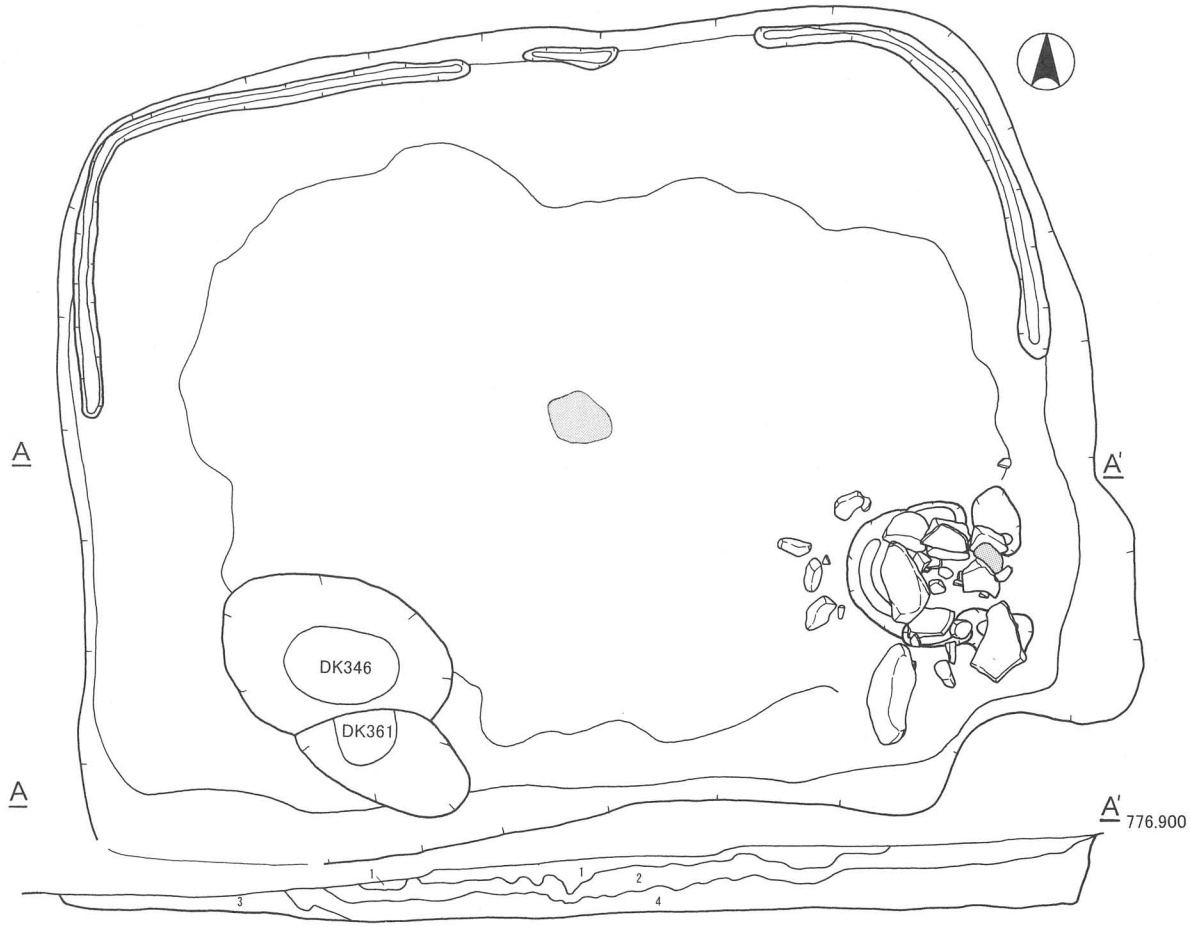
第35図　132号住居カマド（1/20）　132号住居出土遺物（1/2）



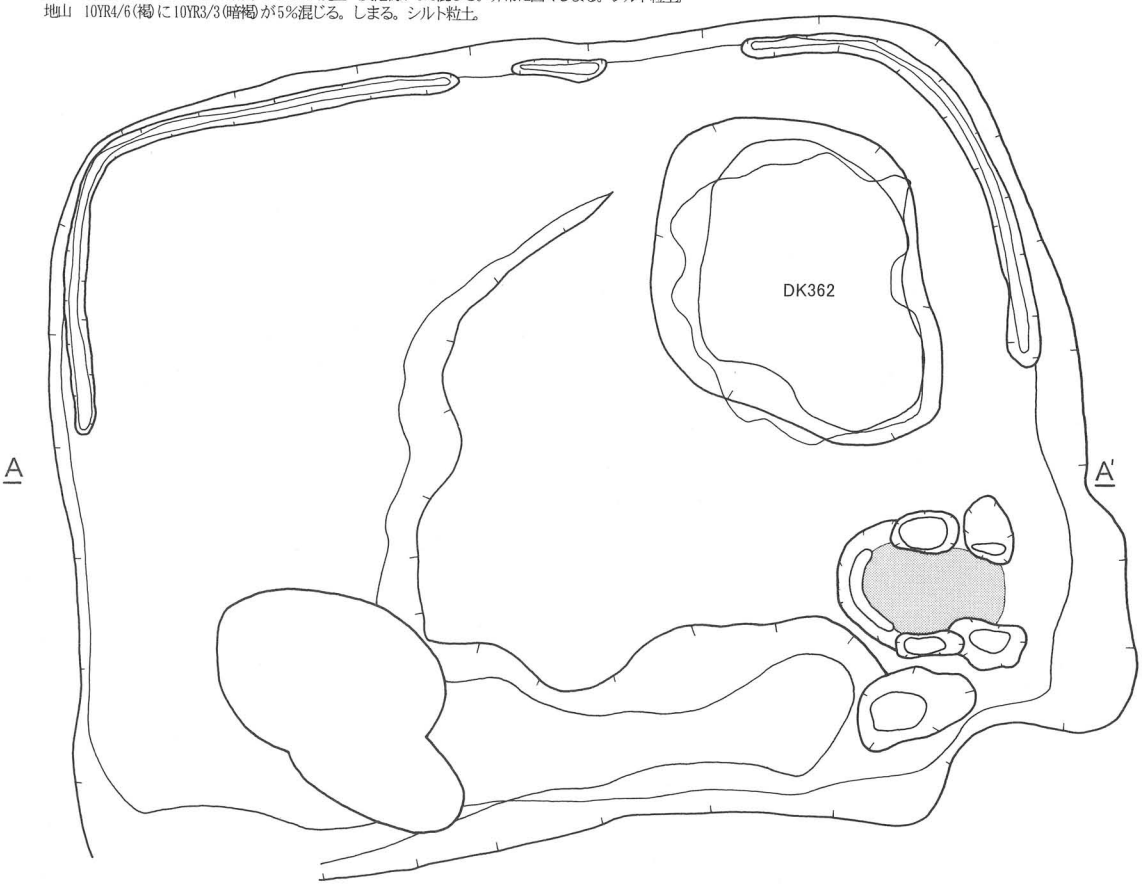
第36図　132号住居出土遺物（1/2、5、8～10は1/4）



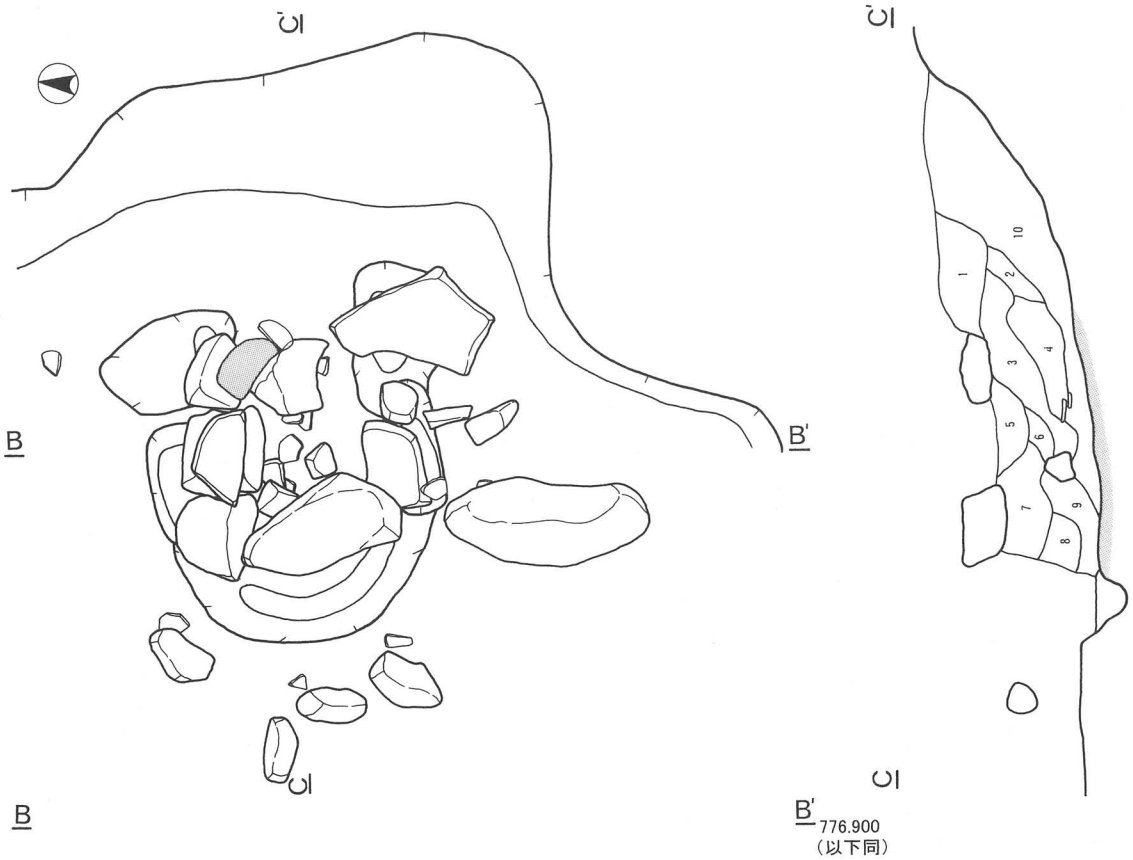
第37図　133号住居（1/40）　カマド（1/20）　1416号ピット（1/20）　133号住居出土遺物（1/4）

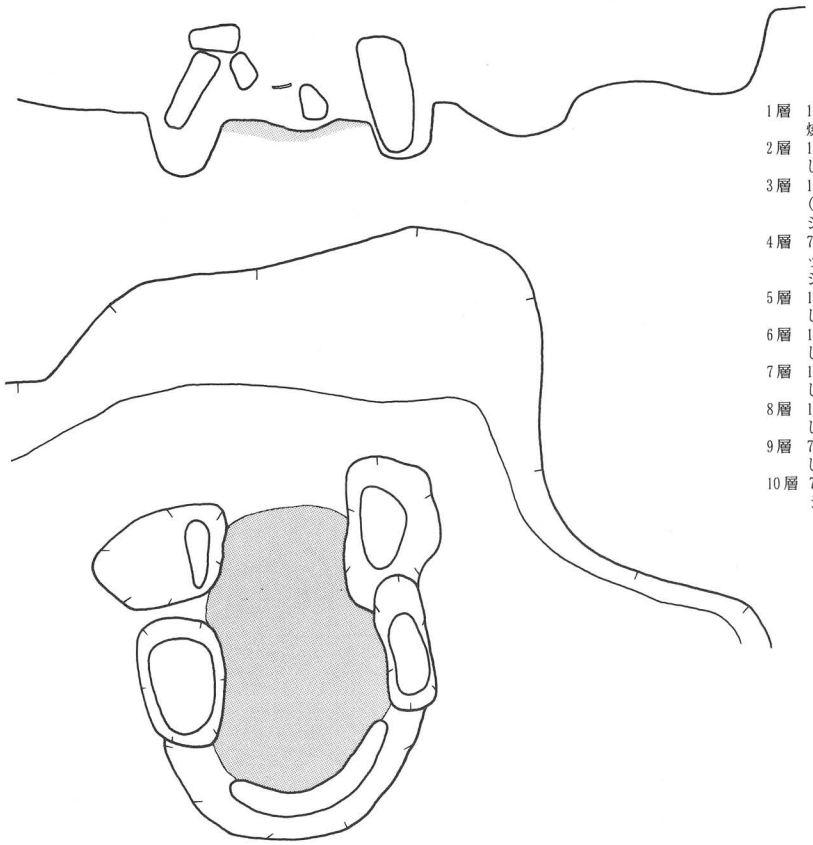


1層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が3%、10YR2/2(黒褐)が2%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
2層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が3%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が3%混じる。しまる。シルト粒土。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が7%、焼土が3%、炭化物が1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
貼床　10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、焼土・炭化物が1%混じる。非常に固くしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。



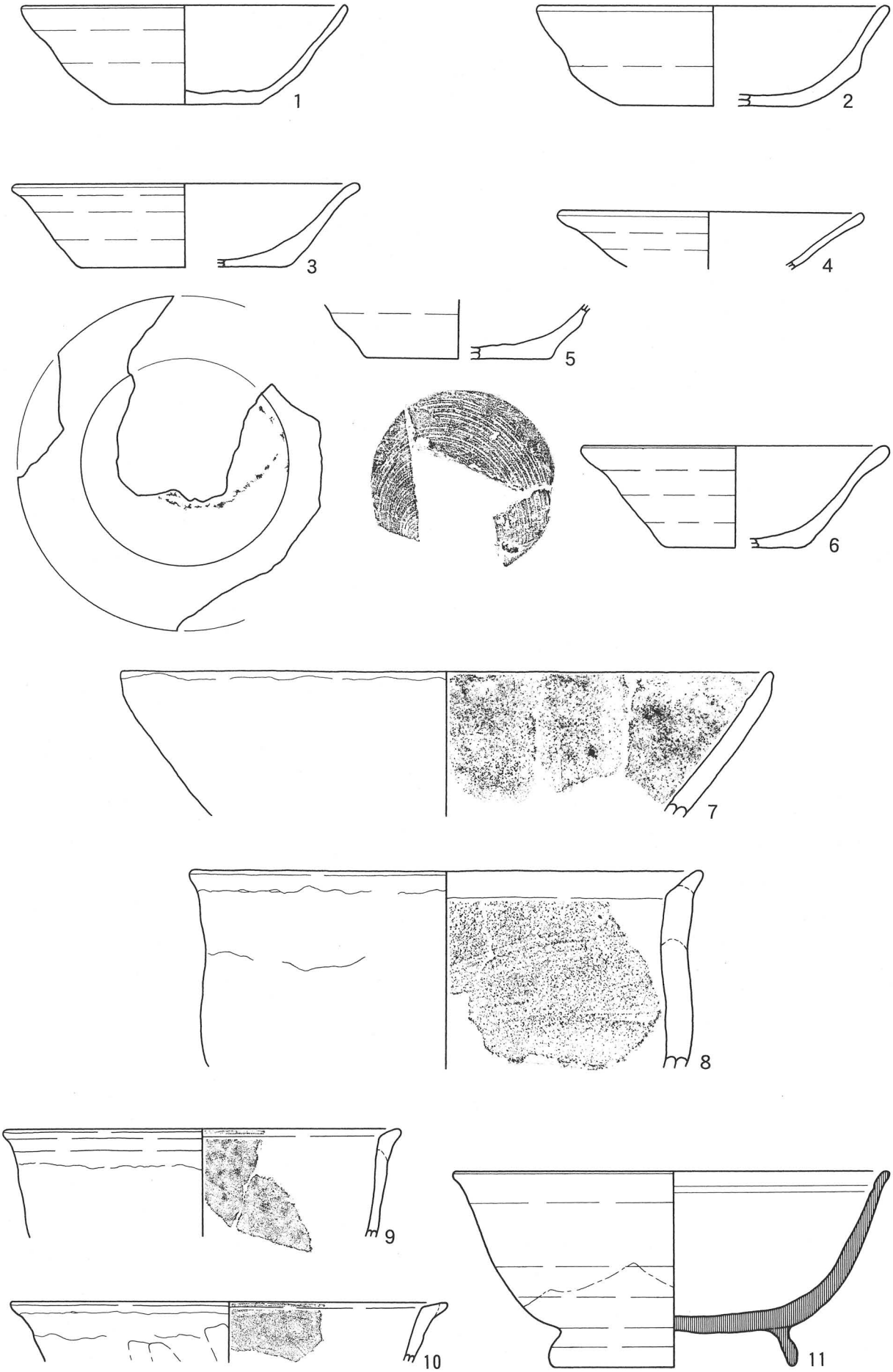
第38図　134号住居（1/40）



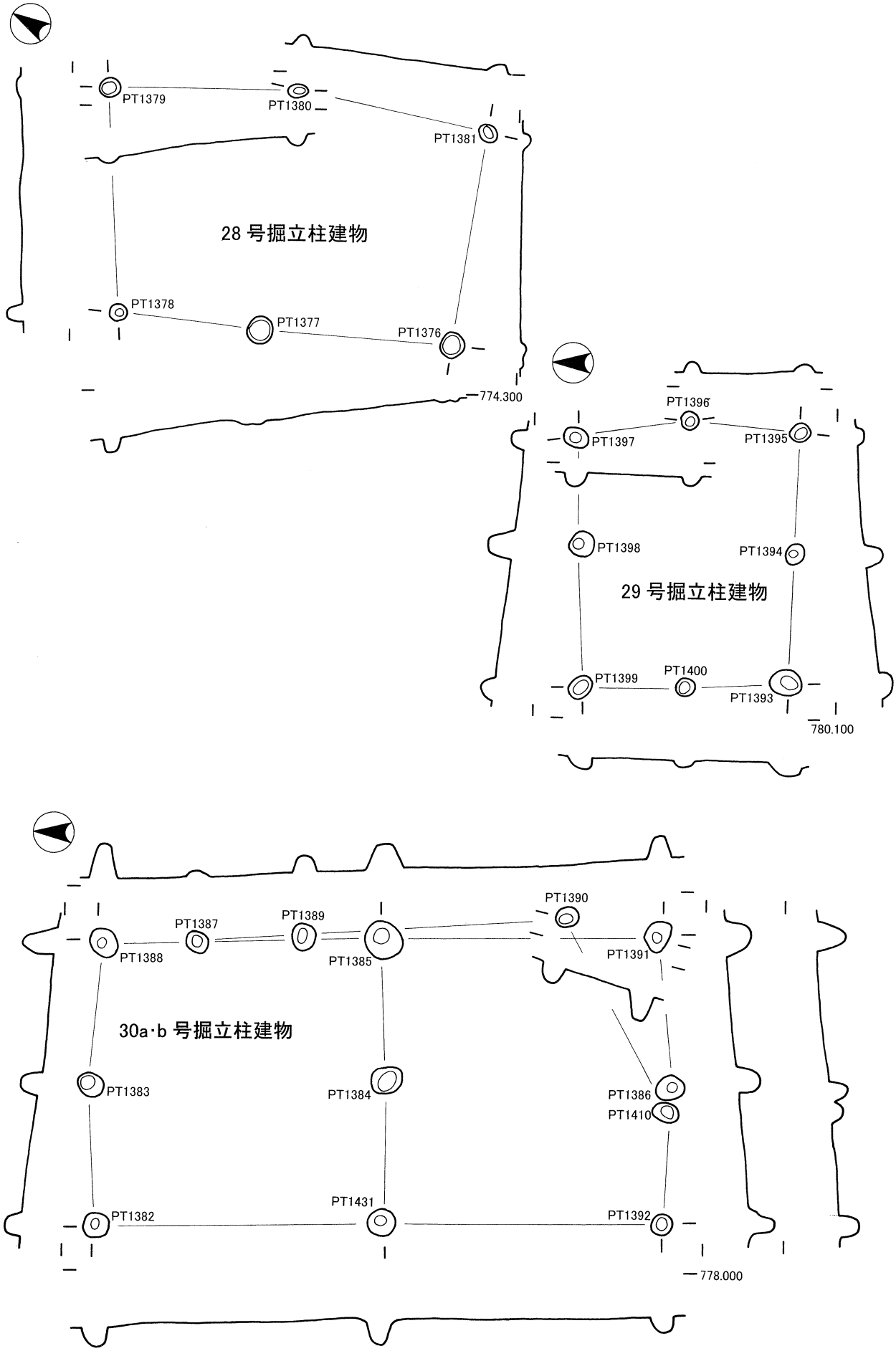


1 層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が5%、10YR3/3(暗褐)が3%、焼土・炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
2 層　10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が1%、焼土・炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
3 層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)がブロック状で2%、10YR4/4(褐)が2%、焼土が2%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
4 層　7.5YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が2%、10YR4/6(褐)がブロック状で1%、焼土が2%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
5 層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が2%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
6 層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が1%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
7 層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/3(褐)が7%、焼土が1%混じる。しまる。シルト粒土。
8 層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が3%、炭化物が1%混じる。しまる。シルト粒土。
9 層　7.5YR3/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が3%、焼土が3%混じる。しまる。シルト粒土。
10 層　7.5YR3/4(暗褐)に10YR3/3(暗褐)が1%混じる。しまる。シルト粒土

第39図　134号住居カマド（1/20）



第40図　134号住居出土遺物（1/2、9、10は1/4）



第41図　掘立柱建物（1/80）

2003年度に行われた発掘調査で検出された縄文３号住居の出土遺物から分析試料として良好な土器付着炭化物が得られたため、^{14}C年代測定を行った。分析結果をここに報告する。なお遺物、遺構の詳細に関しては『梅之木遺跡Ⅱ』（明野村教育委員会2003年）を参照されたい。

第４節　山梨県明野村梅之木遺跡出土土器付着物の^{14}C年代測定

小林謙一[2)1)]・今村峯雄[1)]・坂本　稔[1)]・陳　建立[1)]
１）国立歴史民俗博物館　情報資料研究部
２）総合研究大学院大学　博士後期課程　日本歴史研究専攻

山梨県明野村梅之木遺跡出土縄紋土器の、土器付着炭化物の^{14}C年代測定を試みた。試料番号はYNAKとした。

今回、数点の縄紋土器から、測定用の炭化物を採取したが、そのうちの１点から^{14}C年代を得た。以下に、採取試料の状況、処理方法、測定及び暦年較正を報告する。

測定した土器は、YNAK15である。柱状区画が見られる甕型土器胴部破片で、曽利Ⅳb式と思われる。多摩武蔵野地域の土器編年（新地平編年（黒尾・小林・中山1995））に対比すると12b期に比定される。胴部内面に付着していた炭化物を採取した。

１　炭化物の処理

試料については、以下の手順で試料処理を行った。⑴の作業は、国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室において小林、⑵⑶は、坂本・陳が行った。

⑴前処理：有機溶媒による油脂成分等の除去、酸・アルカリ・酸による化学洗浄（AAA処理）。

まずアセトンに浸け振とうし、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した（２回）。AAA処理として、80℃、各１時間で、希塩酸溶液（1N－HCl）で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去（２回）し、さらにアルカリ溶液（0.1N－NaOH）でフミン酸等を除去する。３回処理を行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに１回酸処理を行い中和後、水により洗浄した（４回）。各試料は、採集した総重量（表２の採取量（mg）以下同じ）、AAA前処理を行った量（処理量）、前処理後回収した量（回収量）、二酸化炭素化精製に供した量（精製）、二酸化炭素の炭素相当量（ガス）を、それぞれ表１に示す。通常は、基本的に前処理した試料の半分を精製する。前処理のうち、最初のアルカリ溶液を保存してある。

⑵二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を酸化（二酸化炭素化）、真空ラインを用いて不純物を除去。

⑶グラファイト化：鉄（またはコバルト）触媒のもとで水素還元しグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

AAA処理の済んだ乾燥試料を、500mgの酸化銅とともにバイコールガラス管に投じ、真空に引いてガスバーナーで封じ切った。このガラス管を電気炉で850℃で３時間加熱して試料を完全に燃焼させた。得られた二酸化炭素には水などの不純物が混在しているので、ガラス真空ラインを用いてこれを分離・精製した。

1.5mgのグラファイトに相当する二酸化炭素を分取し、水素ガスとともにバイコールガラス管に封じた。これを電気炉で650℃で12時間加熱してグラファイトを得た。管にはあらかじめ触媒となる鉄粉が投じてあり、グラファイトはこの鉄粉の周囲に析出する。グラファイトは鉄粉とよく混合した後、穴径１㎜のアルミニウム製カソードに60kgfの圧力で充填した。

2　測定結果と暦年の較正

AMSによる^{14}C測定は、加速器分析研究所（測定機関番号IAAA）に依頼して行った。

年代データの^{14}CBPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した^{14}C年代（モデル年代）であることを示す（BPまたはyr BPと記すことも多いが、本稿では^{14}CBPとする）。^{14}Cの半減期は国際的に5,568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差（１標準偏差、68％信頼限界）である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の^{14}C/^{12}C比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した^{13}C/^{12}C比により、^{14}C/^{12}C比に対する同位体効果を調べ補正する。表には、加速器分析研究所による誤差を付して記してある。^{13}C/^{12}C比は、標準体（古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの^{13}C/^{12}C比）偏差値に対する千分率δ^{13}C（パーミル，‰）で示され、この値を－25‰に規格化して得られる^{14}C/^{12}C比によって補正する。補正した^{14}C/^{12}C比から、^{14}C年代値（モデル年代）が得られる（英語表記ではConventional Ageとされることが多い）。

＜暦年較正＞

測定値を較正曲線INTCAL98（暦年代と炭素14年代を暦年代に修正するためのデータベース、1998年版）（Stuiver, M., et.al. 1998）と比較することによって実年代（暦年代）を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、OxCal Programに準じた方法で作成したプログラムを用いている。統計誤差は２標準偏差に相当する、95％信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦 cal BCで示す。（ ）内は推定確率である。図は、各試料の暦年較正の確率分布である。

表１　試料の重量・炭素含有率

No.	試料の状態（mg）			含有率１（％）	状　態	精製用	ガス＊	含有率２（％）	含有率３（％）
	採　集	処　理	回　収						
YNAK15	117	84	19.99	23.8%	良m微	4.13	2.53	61.2%	14.6%

註）mはミネラル。ガス＊は、二酸化炭素ガス圧からの炭素換算量（mg）。
含有率１は回収量／処理量、含有率２はガス相当量／精製用重量、含有率３は含有率１＊含有率２。

表２　測定結果と暦年較正年代

試料番号	測定機関番号	炭素年代 δ^{13}C‰	^{14}CBP（補正値）	暦年較正cal BC（2σ）（％）は確率密度	
YNAK　15	IAAA－30270	－25.0±0.9	4240　±50	2920－2830	39.1%
				2810－2660	54.2%
				2640－2620	1.8%

＜結　果＞

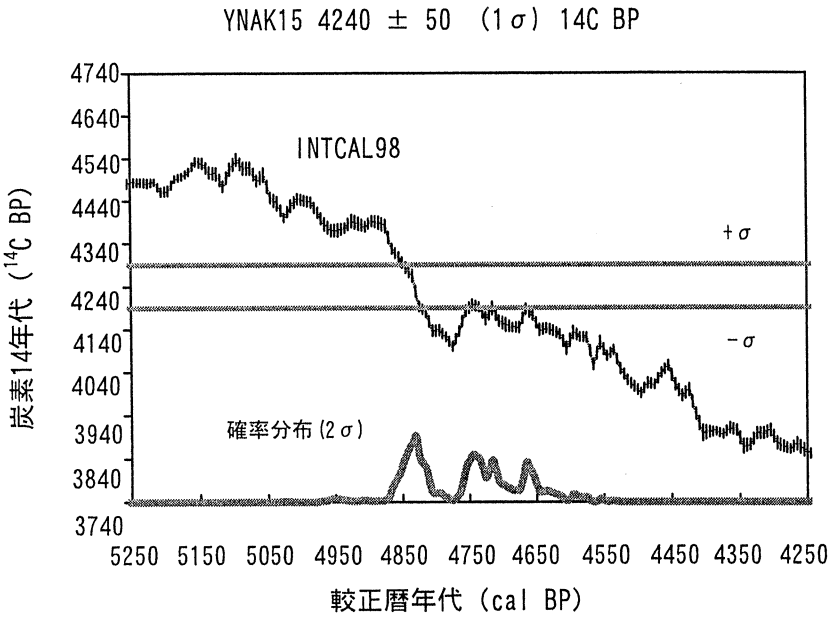
YNAK15は、紀元前2920－2660年に含まれる可能性が高く、その中でも紀元前2810－2660年の間に含まれる確率密度が54％と最も高い。縄紋時代中期後葉の年代として整合的である。

この分析は、日本学術振興会科学研究費　平成15年度基盤研究（A・１）（一般）「縄文時代・弥生時代の高精度年代体系の構築」（課題番号13308009）の成果を用いている。

参考文献

Stuiver, M., et.al. 1998　INTCAL98 Radiocarbon age calibration, 24,000-0 cal BP. Radiocarbon　40(3), 1041－1083.
黒尾和久・小林謙一・中山真治1995「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定」『シンポジウム縄文中期集落研究の新地平』（発表要旨・資料）　縄文中期集落研究グループ　pp.1－21

第42図　試料採取遺物（1/3）『梅之木遺跡Ⅱ』より転載



解析結果

t_{median} =	4750 cal BP
95% range	
2920 cal BC ～	2830 cal BC (39.1%)
2810 cal BC ～	2660 cal BC (54.2%)
2640 cal BC ～	2620 cal BC (1.8%)

梅之木遺跡Ⅰ出土墨書・刻書土器一覧

「梅之木遺跡Ⅰ」（明野村教育委員会2002年）掲載の「第12表　墨書・刻書土器一覧」において、墨書の判読に誤りがあるとのご指摘を平川南氏（国立歴史民俗博物館）にいただいた。誤りを訂正して掲載する。

第８表　墨書・刻書土器一覧

図版番号	遺構番号	墨書・刻書	種別	器種	記銘部位	記銘状態	時　　期
15図１	３号住	田	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
15図２	３号住	田	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
15図３	３号住	田	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
16図４	３号住	田（刻書）	甲斐型	皿	底部	—	宮ノ前Ⅸ期
16図５	３号住	田	甲斐型	皿	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
16図６	３号住	田	甲斐型	皿	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
16図７	３号住	吉	甲斐型	皿	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
18図１	３号住	田	土師器	皿	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
18図２	３号住	田	甲斐型	皿	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
18図３	３号住	□（生ヵ万ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
18図４	３号住	□（田ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
18図６	３号住	□（田ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
18図７	３号住	□（田ヵ）	土師器	甕	体部外面	—	宮ノ前Ⅸ期
21図１	４号住	乙	甲斐型	坏	体部外面	横位	宮ノ前Ⅸ期
21図２	４号住	□（田ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
21図３	４号住	丸	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
21図10	４号住	田	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
22図13	４号住	田	土師器	皿	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
22図14	４号住	□（田ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅸ期
22図15	４号住	□（田ヵ）	土師器	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅸ期
22図16	４号住	□（田ヵ）	土師器	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅸ期
22図17	４号住	全（刻書）	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
28図１	７号住	正	甲斐型	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅷ期
28図２	７号住	真	甲斐型	皿	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
28図３	７号住	又	甲斐型	坏	体部外面	横位	宮ノ前Ⅷ期
28図４	７号住	□（田ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
28図５	７号住	□（有ヵ、刻書）	土師器	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅷ期
30図６	７号住	□（田ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
30図９	７号住	尓	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
30図10	７号住	□（山ヵ王ヵ生ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅷ期
33図１	９号住	乙	甲斐型	坏	底部	—	宮ノ前Ⅷ期
33図２	９号住	田	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅷ期
34図11	９号住	田	土師器	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅷ期
34図12	９号住	乙	土師器	坏	底部	—	宮ノ前Ⅷ期
37図１	13号住	乙（刻書）	甲斐型	坏	底部	—	宮ノ前Ⅶ期
37図２	13号住	東	甲斐型	坏	底部	—	宮ノ前Ⅶ期
40図１	14号住	悪、人	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
43図４	16号住	本	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
48図４	17号住	□	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
49図１	17号住	本	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
49図２	17号住	源	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
49図３	17号住	□（人ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
53図２	18号住	乙	土師器	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
53図４	18号住	仁	土師器	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
53図５	18号住	乙	土師器	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
53図14	18号住	刑部	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
53図15	18号住	人	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
53図16	18号住	□（人ヵ）	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
53図17	18号住	□（人ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
53図18	18号住	□（人ヵ）	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
53図19	18号住	□（人ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
53図20	18号住	□（人ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
53図21	18号住	□（人ヵ）	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
56図１	19号住	奉（刻書）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
60図１	20号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
60図３	20号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
60図６	20号住	真	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
64図１	21号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
64図３	21号住	山	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
64図15	21号住	吉、仁（刻書）	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
65図５	21号住	□（人ヵ）	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
65図８	21号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
65図11	21号住	□（吉ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅸ期
65図12	21号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期

図版番号	遺構番号	墨書・刻書	種別	器種	記銘部位	記銘状態	時　期
65図14	21号住	□	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
65図16	21号住	□（吉ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
65図18	21号住	□（仁ヵ）刻書	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
65図19	21号住	年ヵ	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
65図20	21号住	益	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
65図21	21号住	□（梶ヵ）	甲斐型	坏	底部	—	宮ノ前Ⅸ期
66図4	21号住	東、口	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
66図9	21号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
66図10	21号住	正	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
67図1	21号住	財	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
67図3	21号住	囚	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
70図2	22号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
70図3	22号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
70図5	22号住	□（梶ヵ）	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
70図6	22号住	□（梶ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
70図7	22号住	□（真ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
70図8	22号住	梶ヵ	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
70図11	22号住	□（仁ヵ）刻書	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
74図7	23号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
74図9	23号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅷ期
74図10	23号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
74図14	23号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
74図15	23号住	□（田ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅷ期
74図16	23号住	□（梶ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
74図17	23号住	田（刻書）	土師器	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅷ期
76図1	24号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
76図2	24号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
77図2	24号住	慈	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
88図1	28号住	政	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
89図3	28号住	政	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
91図1	29a号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
91図2	29a号住	□	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅷ期
91図13	29a号住	□	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
92図5	29b号住	中	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅷ期
92図6	29b号住	真、真（刻書）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
93図3	29号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
98図6	31号住	人	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
98図9	31号住	乙（刻書）	甲斐型	坏	底部	—	宮ノ前Ⅶ期
102図3	36号住	矢	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
102図7	36号住	□	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
102図11	36号住	□	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
104図2	37号住	□	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
104図5	37号住	酒	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
107図5	40号住	□矢ヵ	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
107図9	40号住	□矢ヵ	甲斐型	坏	底部	—	宮ノ前Ⅶ期
115図8	46号住	真（刻書）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
119図1	47号住	真	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
119図2	47号住	山	土師器	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
119図6	48号住	岑、岑（刻書）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
125図1	49号住	□（田ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	正位？	宮ノ前Ⅸ期
125図2	49号住	篆書体風「本」	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
125図3	49号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
125図4	49号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
125図5	49号住	田	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
125図6	49号住	□（刻書）	甲斐型	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅸ期
125図7	49号住	真（刻書）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
126図7	49号住	万	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
126図8	49号住	国	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
126図14	49号住	田	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
126図16	49号住	□（真ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅸ期
132図2	53a号住	七	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
133図1	53a号住	Ω	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
135図13	53b号住	仁（刻書）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
136図1	53号住	□（仁ヵ）刻書	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
137図1	55号住	生	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅹ期
137図3	55号住	真	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅹ期
141図1	56号住	□（乙ヵ）刻書	甲斐型	坏	底部	—	宮ノ前Ⅶ期
143図1	57号住	□（奉ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅷ期
143図2	57号住	吉	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅷ期
146図2	58号住	則天文字「地」ヵ	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅹ期
152図1	60号住	表、表	甲斐型	坏	体部内外面	正位	宮ノ前Ⅹ期
158図3	62号住	福	土師器	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
158図4	62号住	田	土師器	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅶ期

図版番号	遺構番号	墨書・刻書	種別	器種	記銘部位	記銘状態	時　　期
158図 5	62号住	田	土師器	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
158図 6	62号住	田	土師器	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
162図 3	63号住	仁（刻書）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
163図 1	63号住	又	甲斐型	坏	体部外面	横位	宮ノ前Ⅸ期
163図 2	63号住	源	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
163図 4	63号住	源	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
165図 1	63号住	□（神ヵ）	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
180図 1	70号住	奉	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
180図 3	70号住	奉	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
181図 4	71号住	□（奉ヵ）	土師器	坏	体部外面	横位	宮ノ前Ⅶ期
186図 1	72a号住	□（大ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
187図10	72号住	□	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
187図11	72a号住	酒	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
190図10	73号住	□（奉ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	斜位	宮ノ前Ⅶ期
190図 9	73号住	□（奉ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	斜位	宮ノ前Ⅶ期
194図 1	74号住	真	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
194図 8	74号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
195図10	74号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
195図14	74号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
197図 2	75号住	山、八	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
205図 2	77号住	奉	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
206図 5	77号住	□（家ヵ）	土師器	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
210図 1	80号住	真	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
211図 1	80号住	矢	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
214図 9	81b号住	□（真ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
220図 4	84号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
223図 1	85号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
223図 2	85号住	□（浄ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
223図 3	85号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
223図 4	85号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
223図 5	85号住	□（浄ヵ）刻書	甲斐型	坏	底部	—	宮ノ前Ⅸ期
223図 7	85号住	□（真ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
223図 8	85号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
223図 9	85号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
224図 1	85号住	仁（刻書）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
224図 2	85号住	真（刻書）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
224図 5	85号住	□（主ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
225図 1	85号住	山部ヵ	甲斐型	坏	体部外面	山正、部逆	宮ノ前Ⅸ期
225図 2	85号住	梶	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
225図 3	85号住	仁	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
225図12	85号住	□（真ヵ）	土師器	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
226図 3	85号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
226図 6	85号住	女	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
226図 7	85号住	□（真ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
226図 9	85号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
226図10	85号住	真	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
226図12	85号住	□（真ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
226図14	85号住	□（梶ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
226図15	85号住	□（女ヵ真ヵ）刻書	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
227図 5	86号住	□（長ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅷ期
228図 4	87号住	□（梶ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
232図 9	88号住	丸	甲斐型	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅷ期
244図 1	93号住	丸万	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
244図 2	93号住	丸万	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
244図 4	93号住	□	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
244図 6	93号住	丸	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅸ期
244図10	93号住	□（国ヵ）	土師器	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅸ期
244図12	93号住	□（最ヵ取ヵ）	土師器	坏	体部外面	横位	宮ノ前Ⅸ期
245図 4	93号住	田	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅸ期
249図 1	94号住	政、矢、矢（刻書）	甲斐型	坏	体部外面		宮ノ前Ⅶ期
249図 4	94号住	源	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
249図 5	94号住	乙	甲斐型	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
249図 6	94号住	□（矢ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅶ期
249図 8	94号住	□（矢ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	—	宮ノ前Ⅶ期
250図 3	94号住	田	土師器	坏	体部外面	正位	宮ノ前Ⅶ期
256図 1	DK55	乙	甲斐型	坏	体部外面	横位	宮ノ前Ⅷ期
257図 5	DK63	酒	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
258図 3	DK74	一人ヵ又ヵ	土師器	坏	体部外面	横位	宮ノ前Ⅷ～Ⅸ期
258図 4	DK74	一人ヵ又ヵ	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ～Ⅸ期
258図 5	DK74	□	土師器	坏	体部外面	横位	宮ノ前Ⅷ～Ⅸ期
261図 6	PT465	仁（刻書）	土師器	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ期
261図10	PT604	□（真ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ～Ⅸ期
261図11	遺跡一括	□（麻呂ヵ麿ヵ）	甲斐型	坏	体部外面	逆位	宮ノ前Ⅷ～Ⅸ期

永井原（ながいはら）Ⅴ遺跡

第１章　調査に至る経緯

第１節　調査に至る経緯と調査区の設定

永井原Ｖ遺跡は、すでに縄文・平安時代の埋蔵文化財包蔵地として周知されていた。そのため山梨県農務部および峡北地域振興局農務部が明野村上手字永井原地内で計画した明野地区県営畑地帯総合整備事業の施行に先立ち、明野村教育委員会では埋蔵文化財所在確認調査を実施した。所在確認調査は、平成15年２月３日より平成15年４月30日まで実施した。調査は２ｍ×２ｍの試掘坑および試掘溝196箇所を設け、遺構の所在を確認した（第43図）。

以上の所在確認調査により、平安時代と思われる溝状遺構の所在が判明した。発掘調査は、明野村教育委員会が峡北土地改良事務所と調査経費負担協定を締結して、平成15年７月17日より平成16年１月14日まで実施した。本報告の対象となった発掘調査の区域は、第44図に示した。調査区域の設定は、事前の所在確認調査により遺構の存在することが確認された範囲とした。

第２節　調査の経緯

発掘調査は、平成15年７月10日から開始した。遺構全体図の作成には光波測量機を用いて記録した。所在確認調査により確認された遺構の調査が終了した同年９月24日に農作物の作付けのため調査をいったん中断し、直線的な溝という遺構の性格上所在確認調査を行わなかった地点においても遺構が延びる可能性が想定されたため、作物収穫後の同年12月15日からより詳細な遺構の存在を確認するため第44図に示した試掘溝を設け調査を再開し、溝の延長が確認されなかったことから平成16年１月13日に調査を終了した。整理作業および本書の編集作業は平成16年１月17日から開始した。平成16年３月18日に原稿を入稿し編集作業を終了した。

本調査にかかわる事務手続きは以下のとおりである。

埋蔵文化財発掘調査に関する協定書締結（平成15年７月１日）
埋蔵文化財発掘の通知（平成15年７月４日付峡北農６第７－２号）
周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）（平成15年７月15日付教学文３第７－40号）
埋蔵文化財発掘調査の報告（平成15年７月18日付明教文発第70－２号）
埋蔵物発見届（平成16年１月13日付明教文発第128号）
埋蔵文化財保管証（平成16年１月13日付明教文発第129号）
埋蔵文化財調査終了報告（平成16年１月13日付明教文発第130号）

本調査にかかわる調査経費の負担は以下のとおりである。

調査経費総額	7,624,019円
山梨県農政部負担金	5,715,000円
明野村役場建設課負担金	876,000円
文化庁補助金	514,000円
山梨県教育委員会補助金	257,000円
明野村教育委員会負担金	262,019円

第３節　遺跡の概要

発掘調査において検出された遺構は、平安時代と思われる溝１条である。南西から北東に向かって直線的に伸び、途中に土橋状の施設を設けている。北東端で二箇所の角を持ちほぼ直角に屈折している。遺物は出土していない。

第２章　遺跡周辺の環境

第１節　遺跡周辺の地理環境

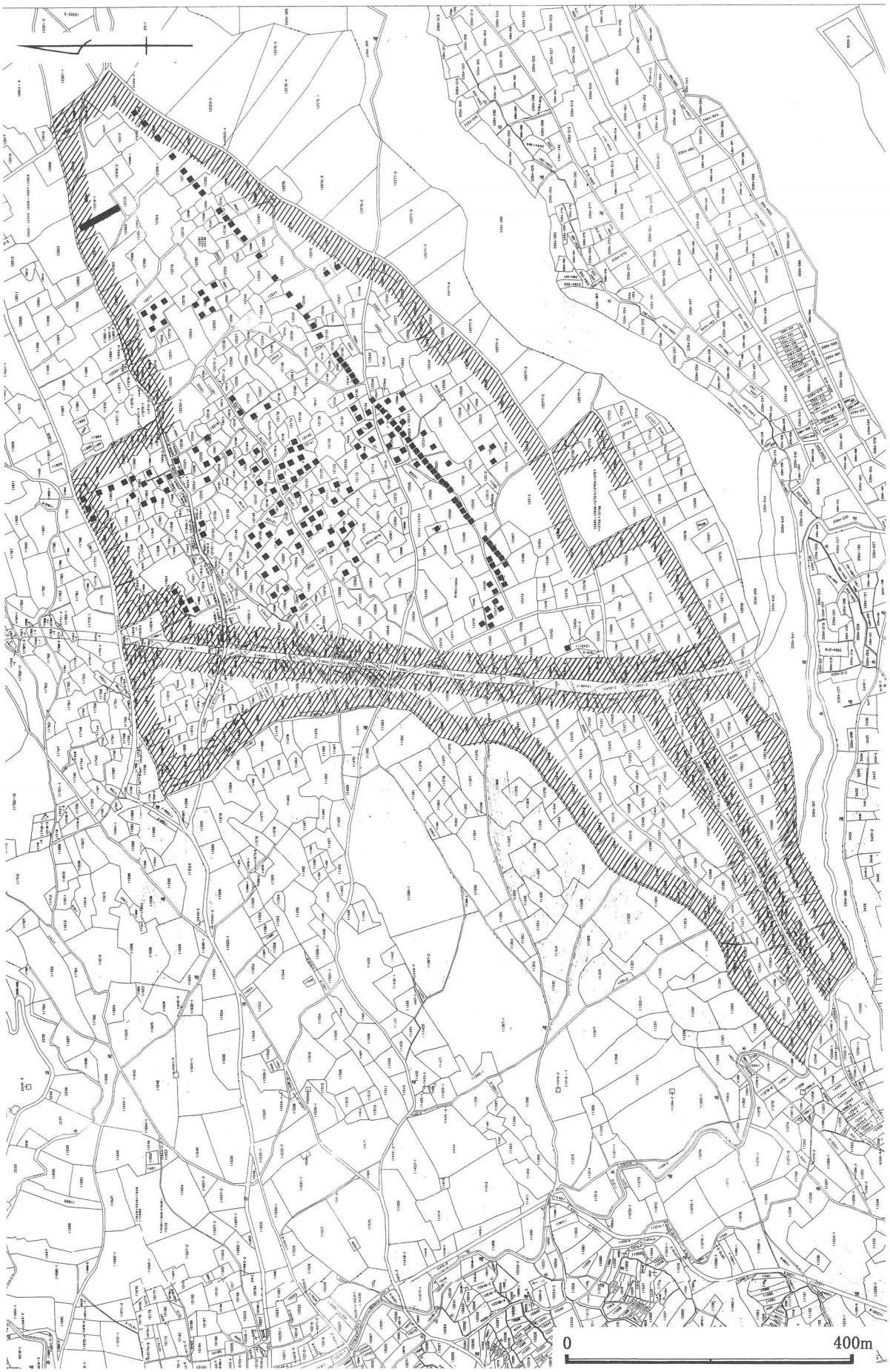
遺跡は茅ヶ岳西麓、標高710mから780m付近の斜面に位置する。南には南沢川により形成された崖があり、北は起伏の少ない緩斜面の丘陵地になっている。途中栃沢川によって分断されるがさらに北の湯沢川まで広大な丘陵地が続く。西麓は塩川沿いでは河岸段丘を形成しており本遺跡は自然地形によって区切られた丘陵地の南端に位置している。遺跡周辺の土地利用の現況はほぼ全面が畑地で、荒廃農地にはカヤが茂っている。

第１節　遺跡周辺の歴史環境

茅ヶ岳西麓の標高700mから800m付近の丘陵部には平安時代の遺跡は確認されているものの数は少ない。本遺跡より北へ２kmの標高760mには梅之木遺跡がある。９世紀後半から11世紀前半の竪穴住居121軒と掘立柱建物32棟が調査されている。牧との関連を想起させる焼きごてや若齢個体の馬歯骨が出土している。北へ４kmには須玉町上ノ原遺跡がある。９世紀後半から10世紀前半にかけての竪穴住居72軒、掘立柱建物10棟が確認されている。

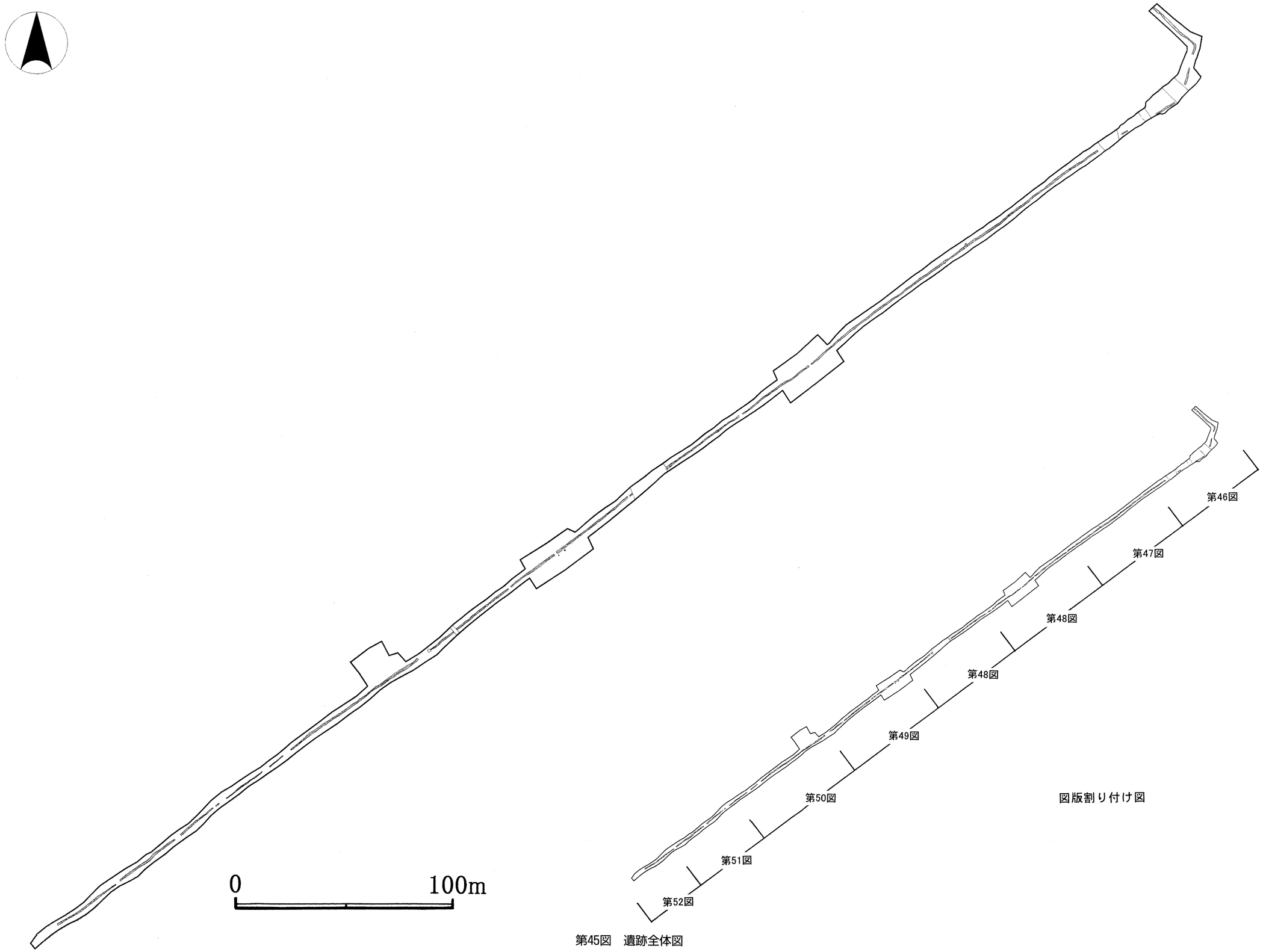
茅ヶ岳山麓には、10世紀初頭から11世紀末にかけて駒牽の実施が文献上で確認できる穂坂牧が置かれた。穂坂牧は貢馬数において古代甲斐国最大の官牧である。現韮崎市穂坂町付近が比定地とされるが、これまでのところ平安時代の調査事例に乏しい。

明野村小笠原付近に比定される後院領小笠原牧も10世紀には文献に確認され、茅ヶ岳山麓が古代の大規模な馬産地であったことが知られている。小笠原牧は応和元年（961）の貢馬の記事を初見とし、吾妻鏡の記事から13世紀までの存在が知られている。



第43図　土木工事の範囲と試掘の位置（■は試掘坑）

第44図　調査範囲と周辺の地形（□は試掘溝）



第45図　遺跡全体図

第３章　検出された遺構

第１節　溝

永井原Ｖ遺跡で検出された遺構は溝１条である。以下に報告する。

規模・形態　溝の全長は697.6ｍを測る。遺構の残りが良好な場所では深さ56cmを、幅100cmを測る。

施設　北東端で北東方向に屈折部が検出された。直線部で土橋状の施設が検出された。

調査所見　溝はほぼ直線的に設けられている。耕作等による撹乱を受けて一部が途切れているが土橋部以外では途切れることなく続いているようである。

耕作等による削平を受けており溝の深さは一定ではないが、底面は礫の抜き取り痕以外には不規則な凹凸はなく一定の深さの溝であったことが推測される。

断面形はほぼ平坦な底面から垂直に立ち上がり、壁面途中から上面にかけて漏斗状に開く形をとる箇所、底面から上面にかけてそのまま垂直に立ち上がりU字状を呈する箇所や、遺構の残りが悪い部分では皿状を呈する箇所がみられる。地山内に礫の混入はほとんどみられず溝の壁面からも礫の露出はほとんどみられないが、一部の溝の底面からは礫を抜き取ったと思われる不定形の窪みが検出されている。

覆土の観察からは安定した堆積過程が想定され、ある程度の時間をかけて埋没していると思われる。特に遺構の残りが良好な箇所では底面及び壁面に地山起源の褐色土がブロック状で混入している様子が確認された。

溝の脇に柵等の構造物の存在を示すような柱穴は確認されなかった。また溝内に柵等が設けられた可能性も考えられたため、溝に平行する縦の断面を設定し覆土観察を行ったが、溝内にも柱穴は確認されなかった（第50図、28セクション）。

遺物は出土していない。

角（第46図、写真図版10）

ほぼ直線的に設けられている溝が調査区北東端で北西方向に屈折している。撹乱を受けて溝が途切れており一箇所の角のみ確認できたが、溝の走る方向から推定すると２箇所の角が設けられていると思われる。

角の頂点部分の溝は直線部よりもやや深めに掘りこまれているようである。断面形はほぼU字状もしくは皿状を呈しており、覆土内には地山起源と考えられる褐色土がブロック状に混入している様子が容易に観察できる。

土橋（第49図、写真図版10）

屈折部、北側の角から380.1ｍ、撹乱内に想定される角から357.9ｍの地点に溝が途切れる箇所を検出した。溝の意図的な掘り残しによって途切れているのは一ヶ所だけであり、それ以外は削平等によるものである。

幅1.2ｍを掘り残して土橋を構築している。土橋近くの溝の断面形は皿状を呈し、土橋に向かって緩やかに立ち上がっていく。土橋の周辺に門等の構造物の存在する可能性が想定されたため、調査区域を拡張して精査を行ったが構造物の存在を確認することはできなかった。

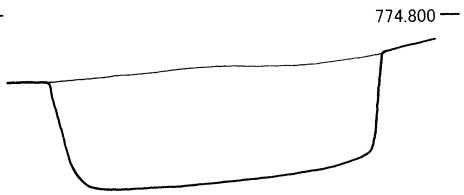
1

1 層　10YR2/3(黒褐)に 10YR4/6(褐)が 30%混じる。
　　しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 5%混じる。
　　非常に固くしまる。シルト粒土。

2

1 層　10YR2/3(黒褐)に 10YR4/6(褐)が 20%混じる。
　　しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 5%混じる。
　　非常に固くしまる。シルト粒土。

3



1 層　10YR3/4(暗褐)に 10YR2/3(黒褐)が 20%、10YR4/6(褐)が 10%混じる。
　　ややしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 5%混じる。しまる。シルト粒土。

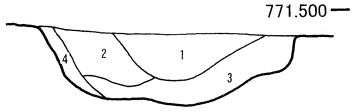
4

1 層　10YR3/4(暗褐)に 10YR4/4(褐)が 20%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 3%混じる。しまる。シルト粒土。

5

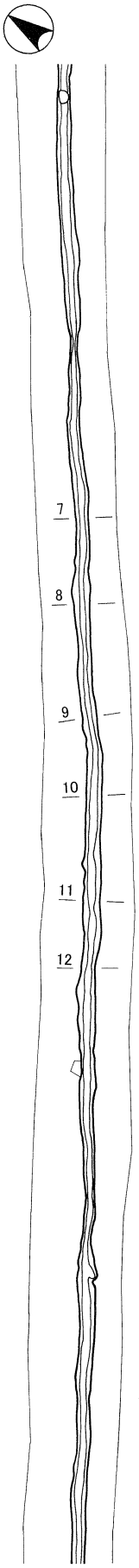
1 層　10YR3/4(暗褐)に 10YR4/6(褐)が 30%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 3%混じる。しまる。シルト粒土。

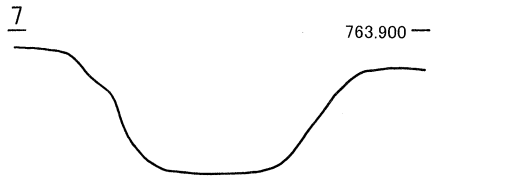
6

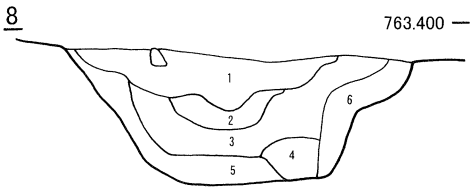


1 層　10YR4/4(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 50%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2 層　10YR4/4(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 20%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3 層　10YR4/4(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 10%、10YR5/4(にぶい黄褐)が 5%混じる。
　　シルト粒土。
4 層　10YR2/3(黒褐)に 10YR4/4(褐)が 5%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 3%混じる。しまる。シルト粒土。

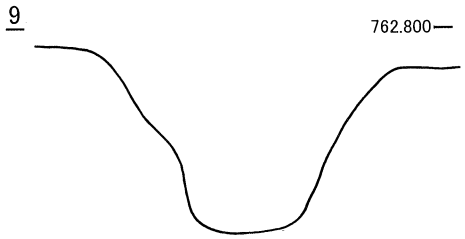
第46図　溝（1/800）　1～6 セクション図（1/20）

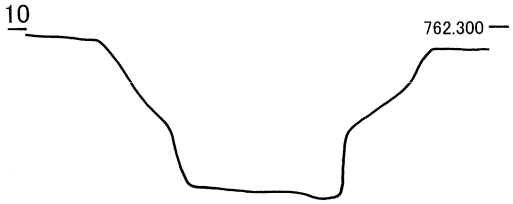


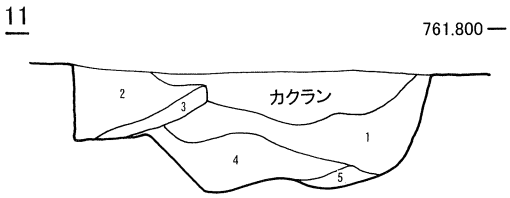




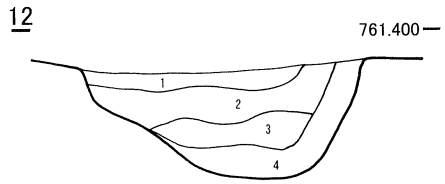
1 層　10YR2/1(黒)に10YR4/3(にぶい黄褐)が2%、10YR4/6(褐)が1%混じる。しまる。シルト粒土。
2 層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が3%混じる。しまる。シルト粒土。
3 層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が5%、10YR4/6(褐)が3%混じる。しまる。シルト粒土。
4 層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。しまる。シルト粒土。
5 層　10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が2%混じる。しまる。シルト粒土。
6 層　10YR4/6(褐)に10YR4/4(褐)が3%、10YR3/3(暗褐)が1%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　7.5YR4/4(褐)に7.5YR3/2(黒褐)が1%混じる。しまる。シルト粒土。





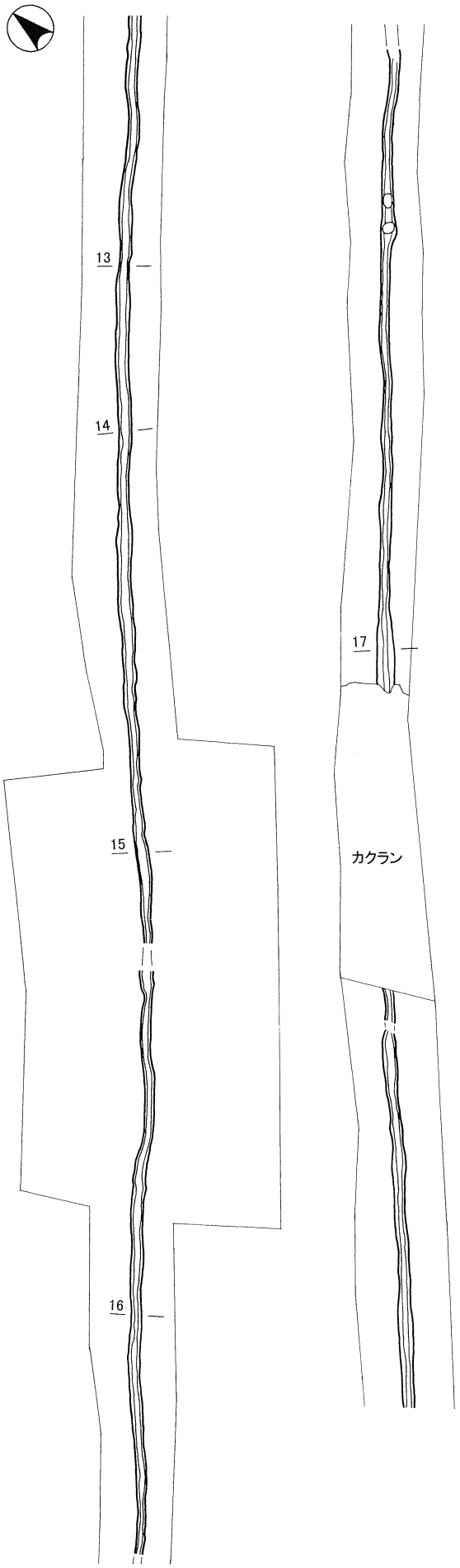


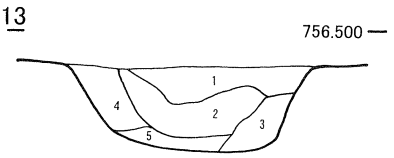
1 層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2 層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が30%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3 層　10YR4/6(褐)に10YR2/3(黒褐)が10%混じる。ややしまる。シルト粒土。
4 層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が20%混じる。ややしまる。シルト粒土。
5 層　10YR4/6(褐)に10YR2/3(黒褐)が20%混じる。ややしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)。固くしまる。シルト粒土。



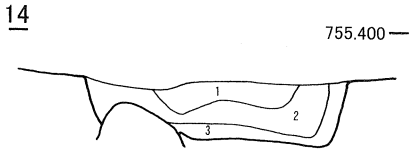
1 層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が3%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2 層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3 層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が20%混じる。しまる。シルト粒土。
4 層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が40%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)。固くしまる。シルト粒土。

第47図　溝（1/800）　7～12セクション・エレベーション図（1/20）

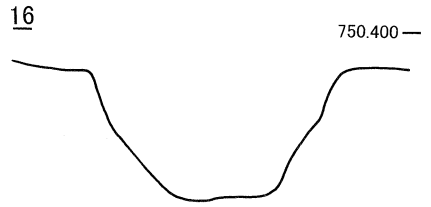


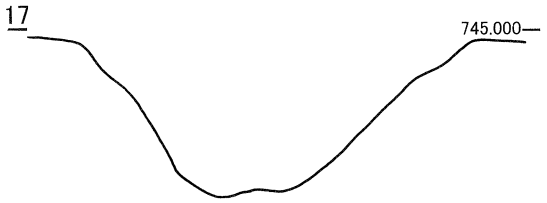


1 層　10YR2/3(黒褐)に 10YR3/4(暗褐)が 10%、炭化物が 1%、焼土が 1%混じる。
　　ややしまる。シルト粒土。
2 層　10YR2/3(黒褐)に 10YR3/4(暗褐)が 40%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3 層　10YR5/6(黄褐)に 10YR2/3(黒褐)が 20%混じる。ややしまる。シルト粒土。
4 層　10YR2/3(黒褐)に 10YR3/4(暗褐)が 20%混じる。ややしまる。シルト粒土。
5 層　10YR5/6(黄褐)に 10YR2/3(黒褐)が 5%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR5/6(黄褐)に 10YR2/3(黒褐)が 10%混じる。しまる。シルト粒土。

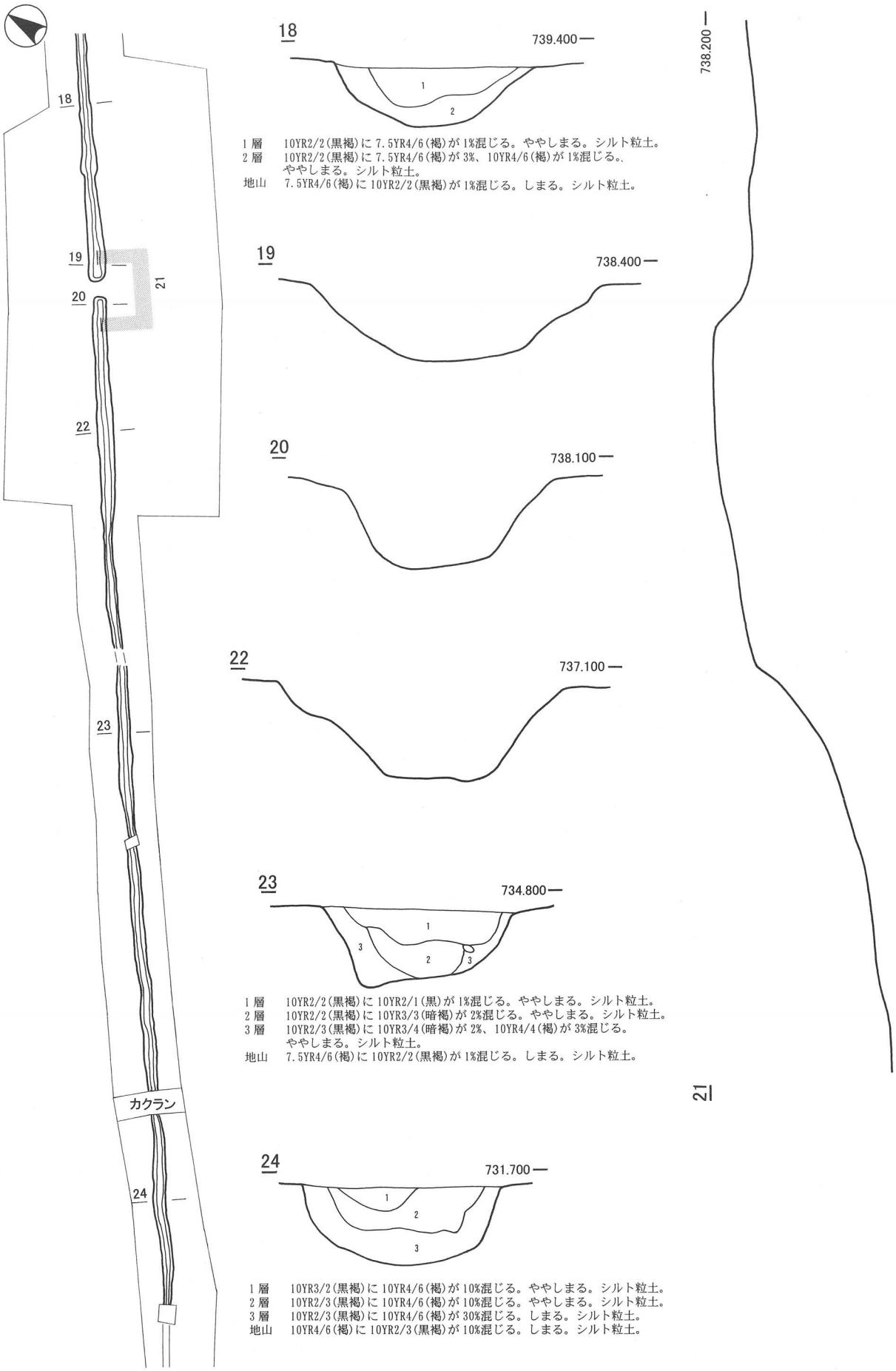


1 層　10YR2/2(黒褐)に 10YR2/1(黒)が 2%、10YR4/6(褐)が 1%混じる。
　　ややしまる。シルト粒土。
2 層　10YR2/2(黒褐)に 7.5YR4/6(褐)が 3%、10YR2/1(黒)が 1%混じる。
　　ややしまる。シルト粒土。
3 層　7.5YR4/6(褐)に 10YR4/6(褐)が 2%混じる。ややしまる。シルト粒土。
地山　7.5YR4/6(褐)に 10YR4/4(褐)が 1%混じる。しまる。シルト粒土。

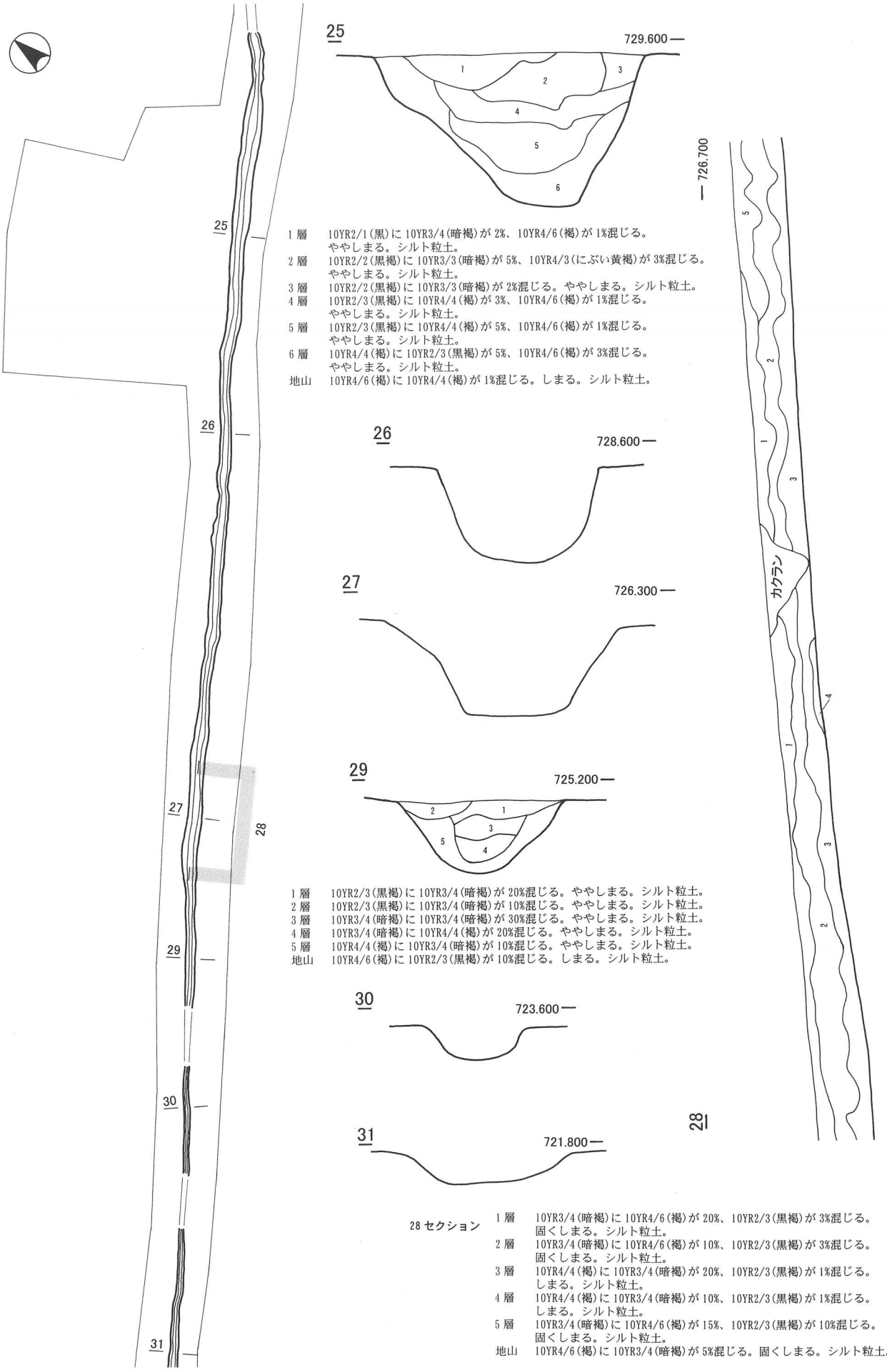




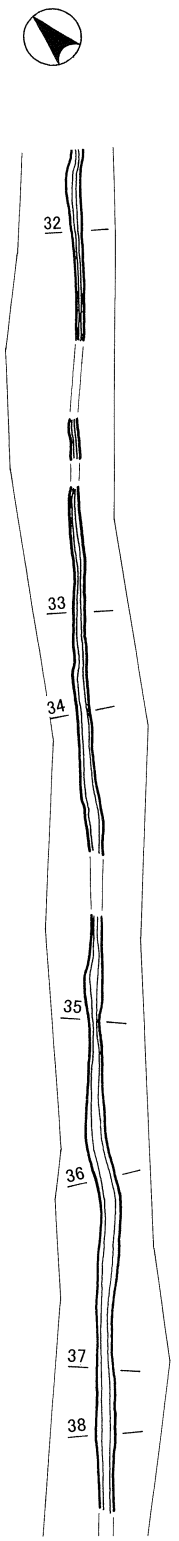
第48図　溝（1/800）　13～17セクション・エレベーション図（1/20）

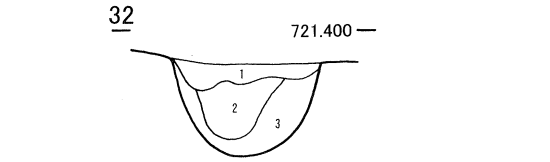


第49図　溝（1/800）　18～24セクション・エレベーション図（1/20）

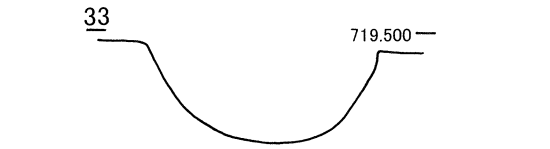


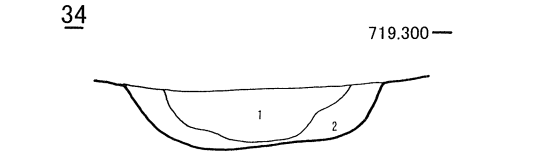
第50図　溝（1/800）　25～31セクション・エレベーション図（1/20）



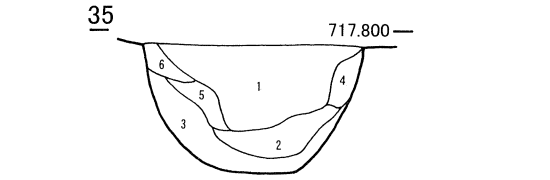


1 層　10YR3/4(暗褐)に 10YR2/3(黒褐)が 10%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2 層　10YR3/4(暗褐)に 10YR2/3(黒褐)が 5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3 層　10YR4/4(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 5%混じる。しまる。シルト粒土。

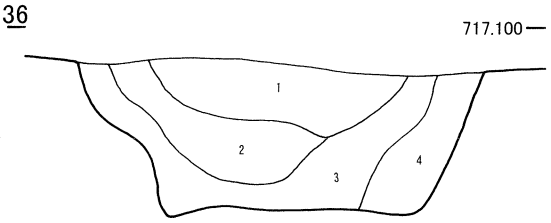




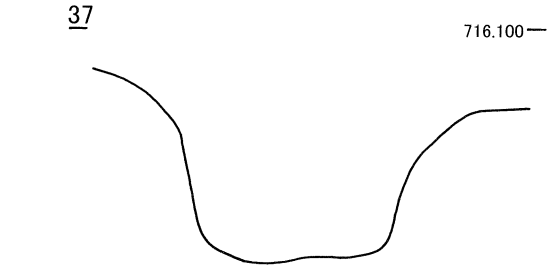
1 層　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 30%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2 層　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 20%混じる。ややしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 10%混じる。

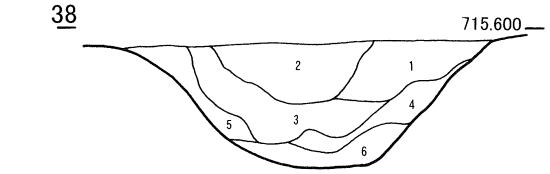


1 層　10YR2/3(黒褐)に 10YR4/4(褐)が 10%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2 層　10YR3/4(暗褐)に 10YR4/4(褐)が 20%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3 層　10YR3/4(暗褐)に 10YR4/4(褐)が 30%混じる。ややしまる。シルト粒土。
4 層　10YR4/4(褐)に 10YR2/3(黒褐)が 10%混じる。ややしまる。シルト粒土。
5 層　10YR3/4(暗褐)に 10YR4/4(褐)が 40%混じる。ややしまる。シルト粒土。
6 層　10YR3/4(暗褐)に 10YR4/4(褐)が 50%混じる。ややしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 3%混じる。しまる。シルト粒土。



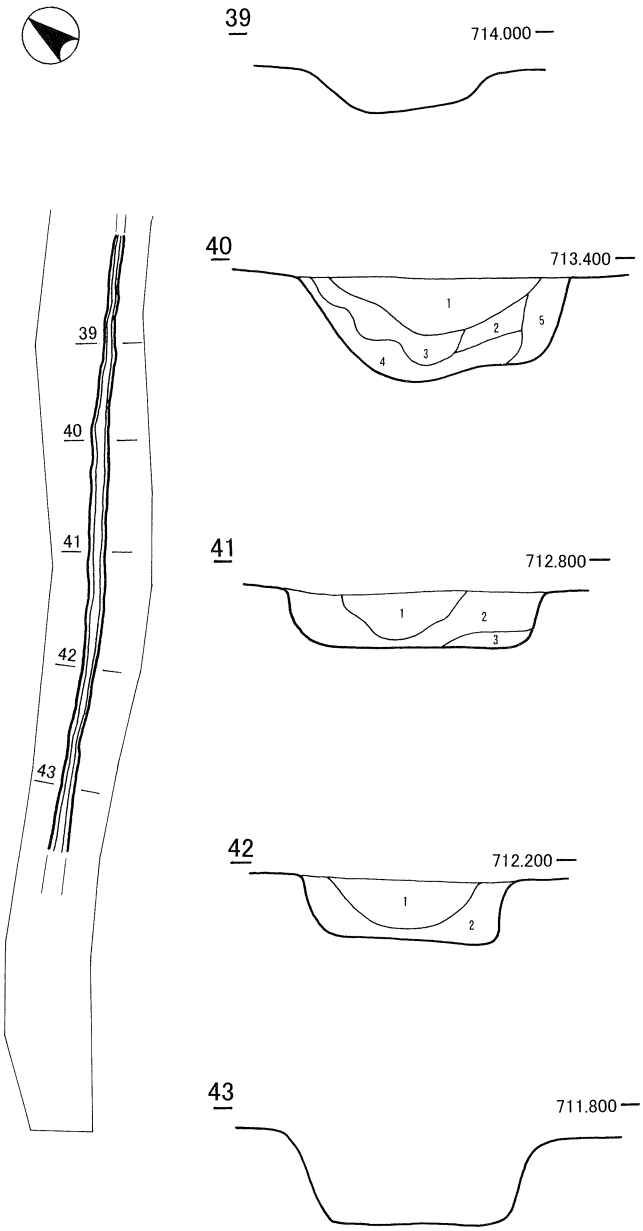
1 層　10YR2/3(黒褐)に 10YR2/1(黒)が 5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2 層　10YR2/3(黒褐)に 10YR4/4(褐)が 10%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3 層　10YR4/4(褐)に 10YR4/6(褐)が 10%、10YR3/4(暗褐)が 3%混じる。ややしまる。シルト粒土。
4 層　10YR4/6(褐)に 10YR4/4(褐)が 5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR4/4(褐)が 1%混じる。しまる。シルト粒土。





1 層　10YR3/4(暗褐)に 10YR4/4(褐)が 20%混じる。しまる。シルト粒土。
2 層　10YR3/4(暗褐)に 10YR4/4(褐)が 10%混じる。しまる。シルト粒土。
3 層　10YR4/4(褐)に 10YR4/4(褐)が 40%混じる。しまる。シルト粒土。
4 層　10YR4/4(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 5%混じる。しまる。シルト粒土。
5 層　10YR4/4(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 5%混じる。しまる。シルト粒土。
6 層　10YR3/4(暗褐)に 10YR4/4(褐)が 30%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 5%混じる。固くしまる。シルト粒土。

第51図　溝（1/800）　32～38セクション・エレベーション図（1/20）



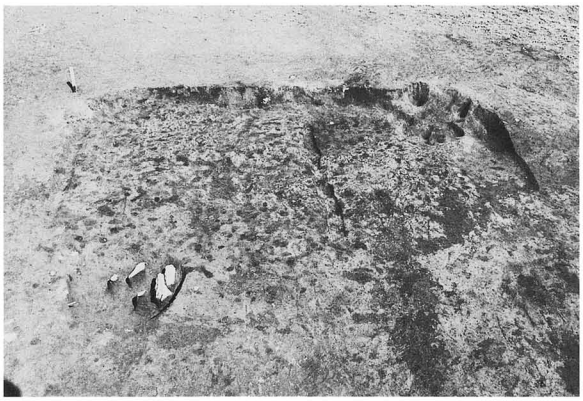
40
1 層　10YR2/3(黒褐)に 10YR4/4(褐)が 3%、10YR4/6(褐)が 1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2 層　10YR4/4(褐)に 10YR4/6(褐)が 2%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3 層　10YR3/4(暗褐)に 10YR4/4(褐)が 2%、10YR4/6(褐)が 1%混じる。ややしまる。シルト粒土。
4 層　10YR4/4(褐)に 10YR4/6(褐)が 5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR4/4(褐)が 1%混じる。しまる。シルト粒土。

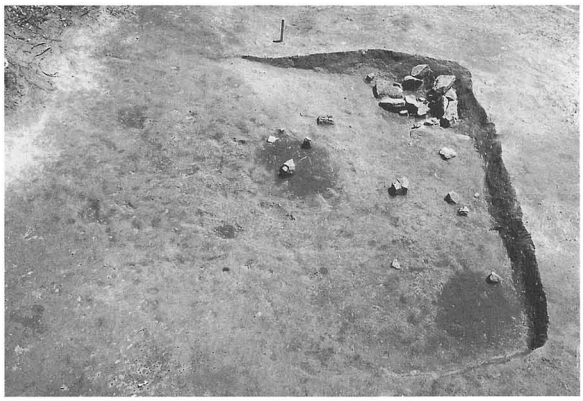
41
1 層　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 10%混じる。ややしまる。シルト粒土。
2 層　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 20%混じる。ややしまる。シルト粒土。
3 層　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 5%混じる。ややしまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 3%混じる。しまる。シルト粒土。

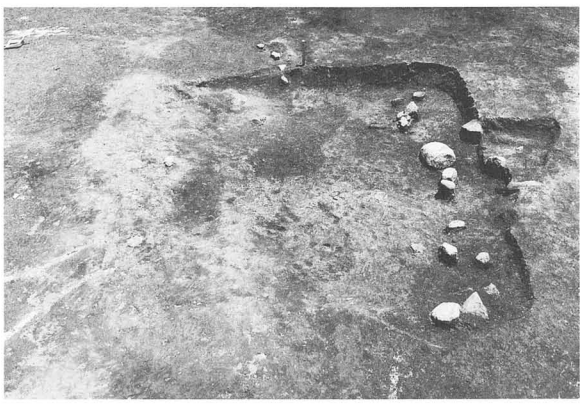
42
1 層　10YR4/4(褐)に 10YR3/4(暗褐)が 3%、10YR4/4(褐)が 1%混じる。しまる。シルト粒土。
2 層　10YR4/6(褐)に 10YR4/4(褐)が 10%混じる。しまる。シルト粒土。
地山　10YR4/6(褐)に 10YR4/4(褐)が 1%混じる。しまる。シルト粒土。

第52図　溝（1/800）　39～43セクション・エレベーション図（1/20）

梅之木遺跡縄文時代遺構検出状況

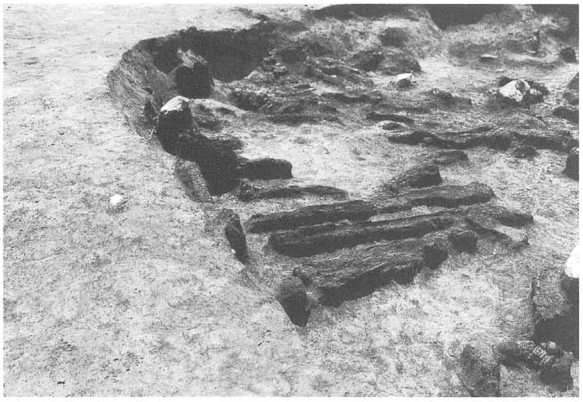


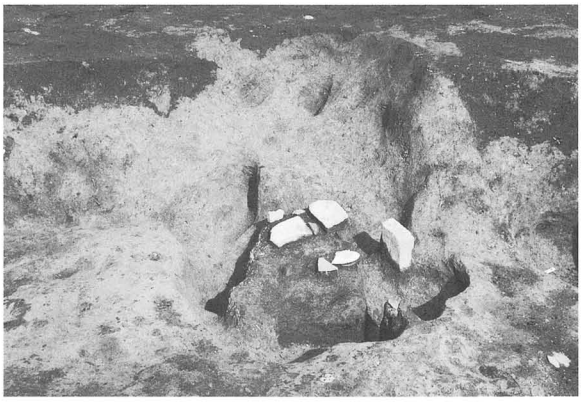


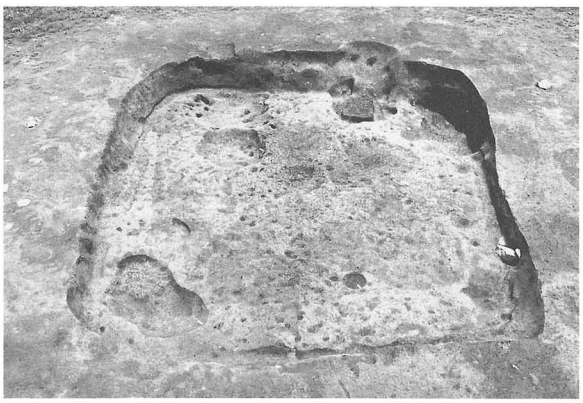


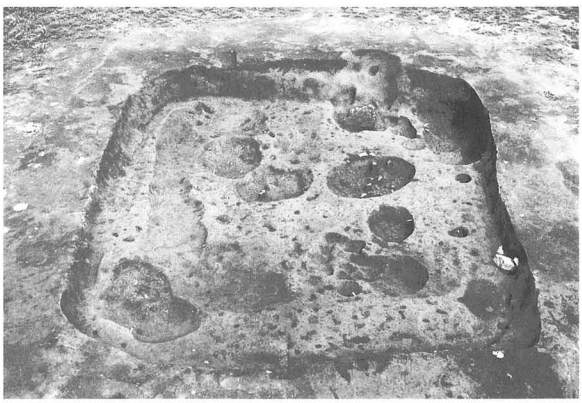
122号住居（左上）・カマド（左下）・123号住居（右上）・124号住居（右下）

125号住居焼土・炭化材検出状況

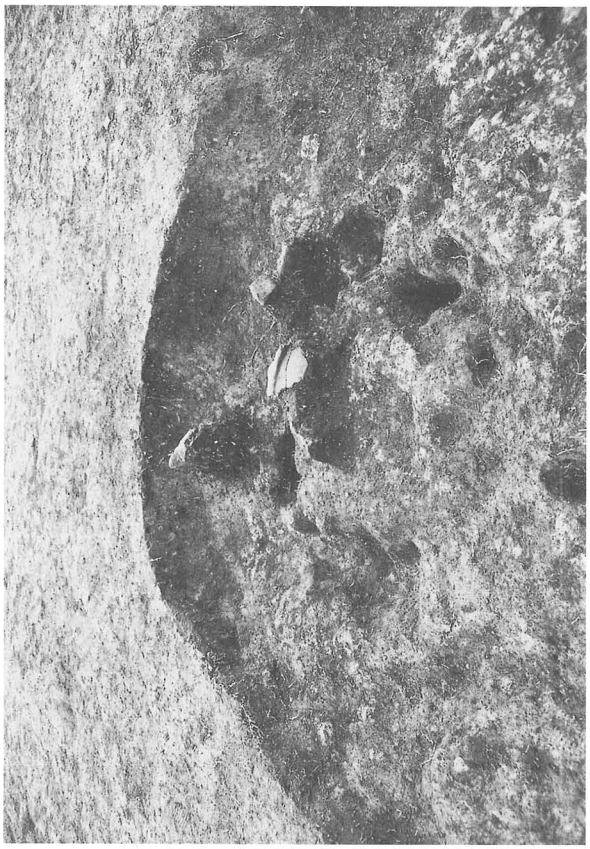




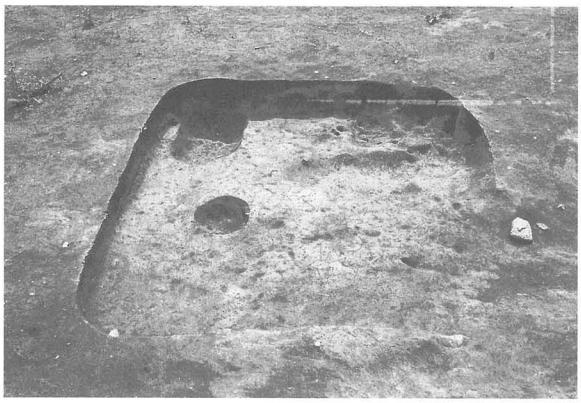




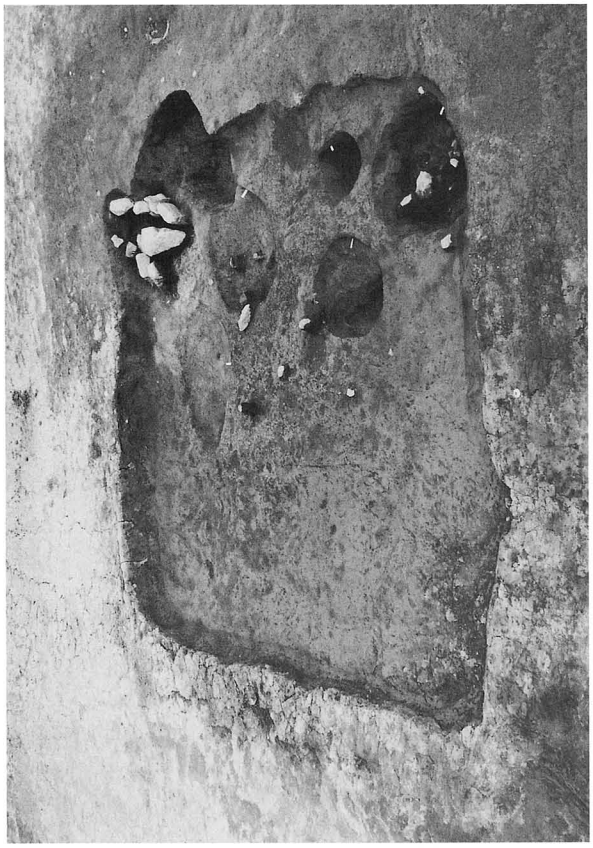
125号住居炭化材検出状況（左上）・125号住居（左下）・カマド（右上）・完掘（右下）



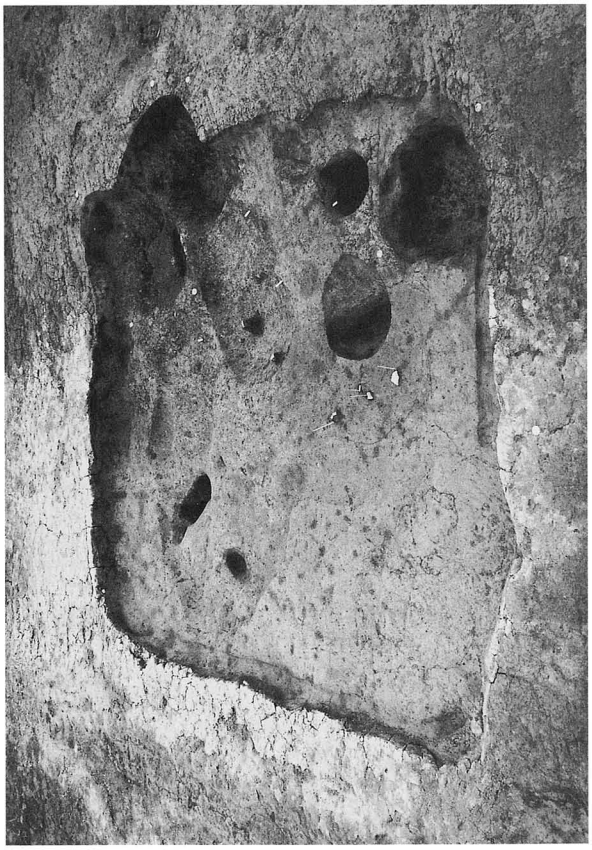
126号住居・カマド



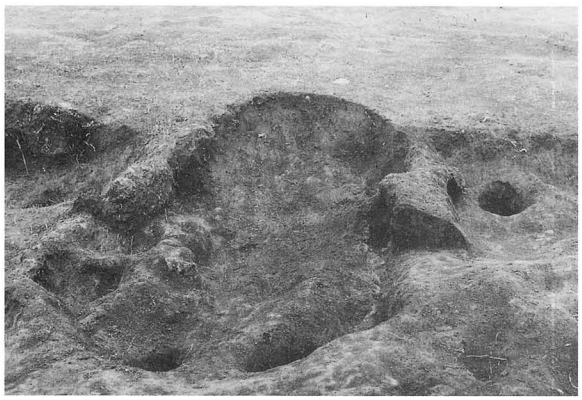
127号住居・カマド（右上）・完掘（右下）



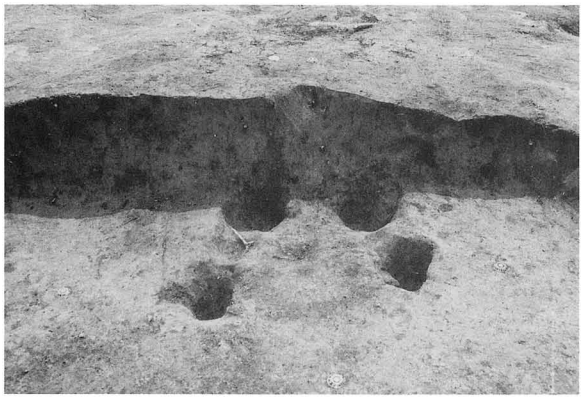
128号住居・129号住居

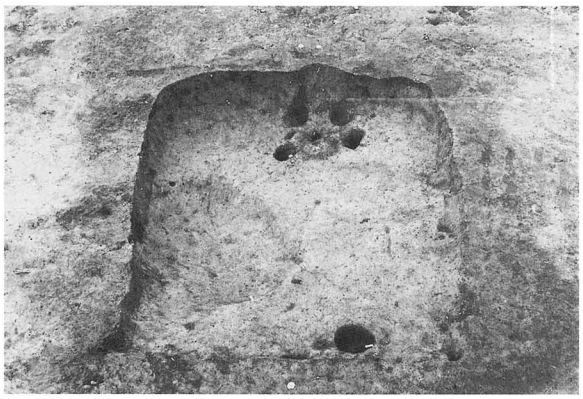


129号住居カマド（左上）・340号土坑（左下）・129号住居完掘



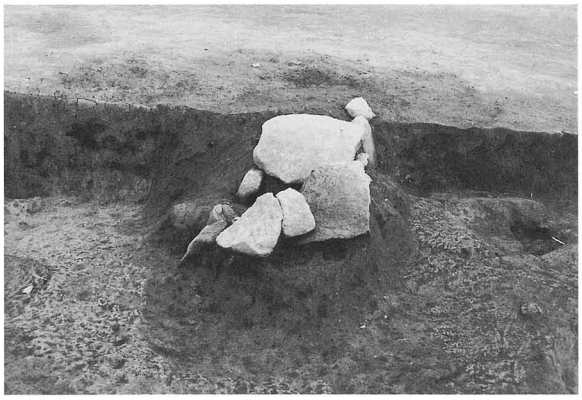
130号住居・カマド（右上）・カマド完掘（右下）

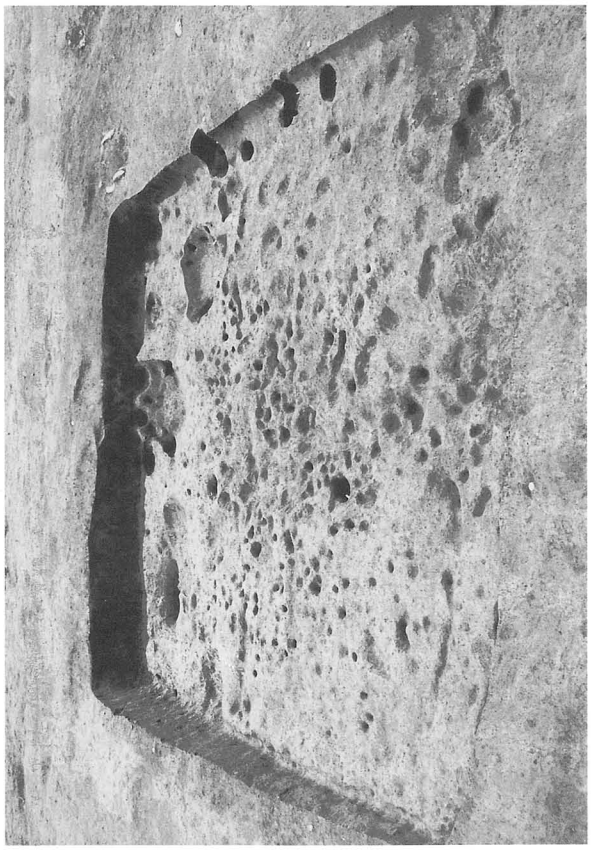




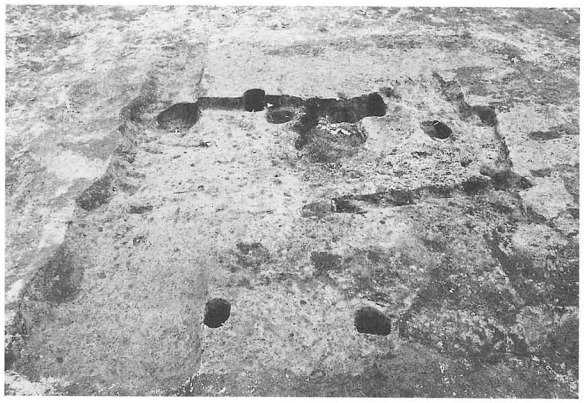
131号住居・カマド（右上）・完掘（右下）

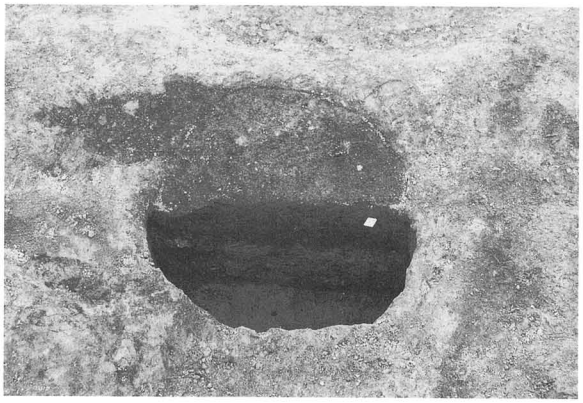
132号住居



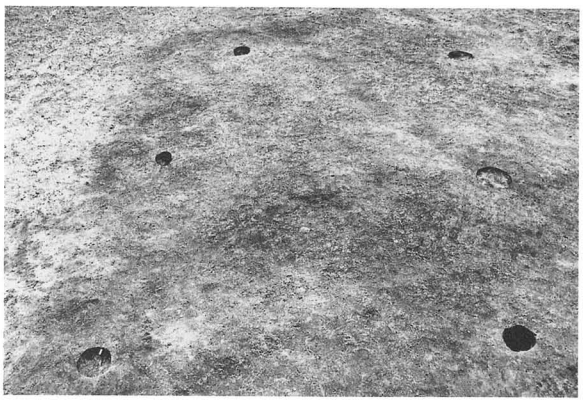


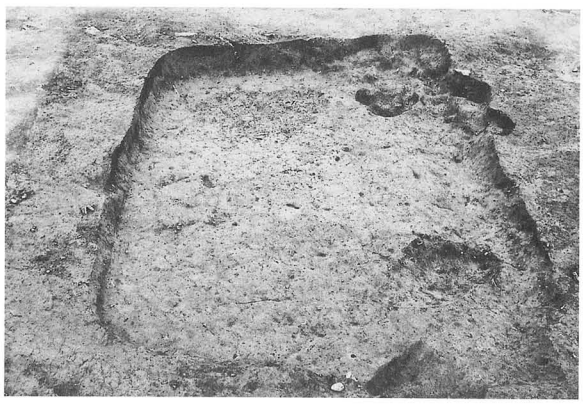
カマド検出状況（左上）・カマド（左下）・132号住居完掘





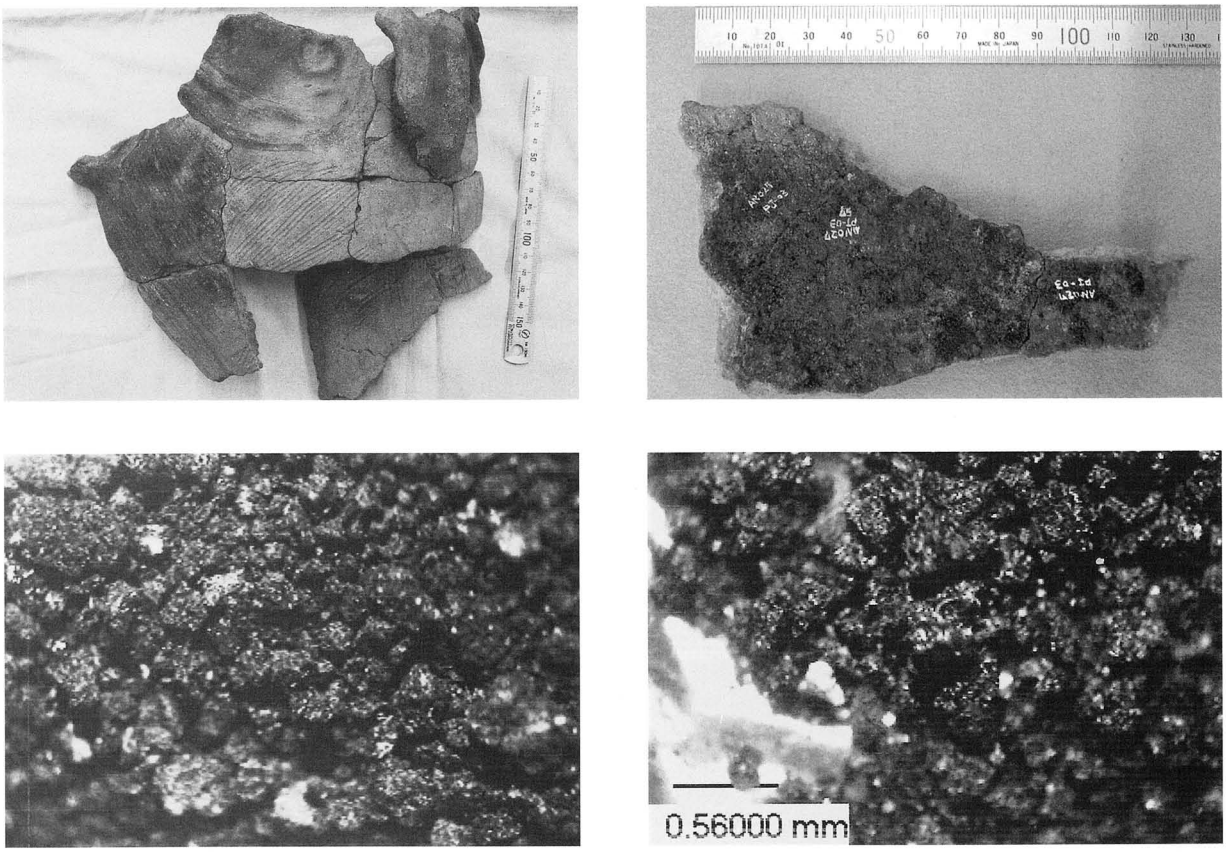
133号住居（左上）・1416号ピット（左下）・134号住居





134号住居カマド（左上）・134号住居完掘（左下）・28号掘立柱建物（右上）・29号掘立柱建物（右下）

おもな出土品・おもな金属製品



YNAK15炭化物付着土器(左上)・YNAK15 AAA処理前 12.5倍(左下)・YNAK15炭化物付着状態(右上)・YNAK15 AAA処理後 25倍(右下)

永井原Ⅴ遺跡全景

溝の屈折部

土　橋

溝・第50図25番セクション（右）

報告書抄録

ふりがな	うめのきいせき さん・ながいはら ごいせき
書名	梅之木遺跡Ⅲ・永井原Ⅴ遺跡
副題	県営畑地帯総合整備事業にともなう平安時代遺跡の発掘調査報告
シリーズ名	明野村文化財調査報告　16
著者	大山祐喜
発行機関	明野村教育委員会
編集機関	明野村埋蔵文化財センター
所在地／電話	〒407－0204　山梨県北巨摩郡明野村上手8310　　TEL 0551－25－2019
印刷所	鬼灯書籍株式会社
発行日	平成16年（2004）年3月31日

	梅之木遺跡Ⅲ	永井原Ⅴ遺跡
ふりがな	やまなしけんきたこまぐんあけのむら あさおあざうめのき	やまなしけんきたこまぐんあけのむら うえであざながいはら
所在地	山梨県北巨摩郡明野村浅尾字梅之木	山梨県北巨摩郡明野村上手字永井原
位置	北緯35°47′　　東経138°27′	北緯35°46′　　東経138°27′
調査原因	明野地区県営畑地帯総合整備事業	明野地区県営畑地帯総合整備事業
調査期間	平成15年4月9日～平成15年6月30日	平成15年7月17日～平成16年1月14日
調査機関	明野村埋蔵文化財センター	明野村埋蔵文化財センター
調査面積	18,500㎡	4,580㎡
時期	平安時代	平安時代
主な遺構	平安時代の竪穴住居13軒、掘立柱建物4棟、土坑2基、ピット4基	平安時代の溝1条
主な遺物	縄文土器、平安時代の土師器、須恵器、灰釉陶器、金属製品（刀子、鉄鏃）、鉄滓、石器	なし
特記事項	茅ヶ岳西麓では規模が大きい9世紀後半から11世紀前半の集落跡。後院領「小笠原牧」に関連した集落の可能性あり。	後院領「小笠原牧」関連施設か

明野村文化財調査報告　16

梅之木遺跡Ⅲ・永井原Ⅴ遺跡

2004．3．31発行

発　　行　　明野村教育委員会
　　峡北地域振興局農務部

印　　刷　　鬼灯書籍株式会社